

尋常小學校本科正教員ヲラントスル者ノ爲設クハ講習科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ身體健全ニシテ尋常小學校准教員免許狀ヲ有スル者又ハ身體健全、品行方正ニシテ之ト同等ノ學力ヲ有スル者トシ共ノ講習期間ハ二箇年以上トス

第七十一條 幼稚園保姆講習科ハ保姆ヲラントスル者又ハ保姆タルヘキ資格ヲ有スル者ニ必要ナル講習ヲ爲スモノトス

第七十二條 講習期間一箇年以上ノ講習科ヲ置キタルトキハ一學級毎ニ一人以上ノ割合ヲ以テ第四十六條ノ教員定數ヲ増スヘシ

第七十三條 講習科ニ關シ必要ナル規程ハ地方長官之ヲ定ム

第四章 附屬小學校及附屬幼稚園

第七十四條 師範學校ニハ附屬小學校ヲ設クヘシ

女生徒ヲ置キタル師範學校ニハ成ルヘク附屬幼稚園ヲ設クヘシ

特別ノ事情アルトキハ地方長官ハ期間ヲ定メテ文部大臣ノ許可ヲ受ケ市町村立小學校ヲ以テ附屬小學校ニ代用シ又ハ市町村立若ハ私立ノ幼稚園ヲ以テ附屬幼稚園ニ代用スルコトヲ得

第七十五條 附屬小學校及附屬幼稚園ニハ小學校令第一條乃至第三條、第十八條乃至第二十七條、第三十七條、第三十八條、第四十七條、小學校令施行規則第一條乃至第二十八條、第三十條乃至第三十三條、第三十五條第一項及第四項、第三十七條、第三十八條、第四十二條乃至第五十三條、第五十六條、第九十五條乃至第二百二條、第二百六條、第二百七條ヲ準用ス但シ小學校令第二十三條、第二十七條第三項、小學校令施行規則第十八條ノ二、第十九條、第三十一條第四項、第四十四條、第四十六條ニ關シテハ地方長官ニ於テ之ヲ專行スヘシ

第七十六條 附屬小學校ニ於テハ尋常小學校ノ教科ト高等小學校ノ教科トヲ併置スヘシ

第七十七條 附屬小學校ニ於テハ單級尋常小學校ノ例ニ準シテ編制シタル學級、教學年ノ兒童ヲ以テ編制シタル學級及一學年ノ兒童ヲ以テ編制シタル學級ヲ設クヘシ但シ女生徒ノミヲ置キタル師範學校ニ於テハ單級尋常小學校ノ例ニ準シテ編制シタル學級ヲ設ケザルコトヲ得

第七十八條 附屬小學校ニ於テハ二部教授ヲ行フヘシ但シ已ムヲ得サル事情アルトキハ此ノ限ニアラス

第七十九條 附屬小學校ノ教員ハ小學校ノ正教員免許狀ヲ有スル者タルヘシ

第八十條 附屬小學校ノ授業料及附屬幼稚園ノ保育料ニ關スル規程ハ地方長官之ヲ定ム

第五章 設備

第八十一條 師範學校ニ於テハ校地、校舍、寄宿舎、體操場及校具ヲ備フヘシ

前項ノ外農業ヲ加ヘタル學校ニ於テハ農業實習地ヲ備フヘシ

第八十二條 校地ハ學校ノ規模ニ適應セル面積ヲ有シ道徳上竝ニ衛生上害ナキ所タルヘシ

第八十三條 校舍ハ放擲上、管理上竝ニ衛生上適當ニシテ質朴堅牢ナルヘシ

第八十四條 體操場ハ屋内體操場及屋外體操場トス

第八十五條 校具ハ圖書、器械、器具、標本、模型及表簿等トス

第八十六條 土地ノ情況ニ依リ學校長、舍監及教員ノ住宅ヲ設クヘシ

第八十七條 校舍、寄宿舎及屋内體操場ヲ設ケ又ハ之ヲ變更シタルトキハ圖面ヲ添ヘ文部大臣ニ届出ツヘシ

第六章 設置及廢止



第八十八條 師範學校ノ設置及廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八十九條 前條ニ依リ設置ノ認可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ具申スヘシ

- 一 名稱
- 二 位置
- 三 學科
- 四 生徒及兒童ノ定員、附屬幼稚園ヲ設クルトキハ幼兒ノ定員
- 五 學級ノ編制、附屬幼稚園ヲ設クルトキハ組ノ編制
- 六 開校年月
- 七 經費

前項第一號、第二號、第六號ノ變更ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ、第三號乃至第五號ノ變更ハ文部大臣ニ届出ツヘシ

前二項ノ位置ニ關シテハ校地ノ面積、地質、屋外體操場ノ區域面積並ニ附近ノ狀況ヲ記載シタル圖面及飲用水ノ定性分析表ヲ添附スヘシ

第七章 補則

第九十條 地方長官ハ師範學校ノ學則ヲ定メ遲滯ナク文部大臣ニ届出ツヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

- 一 學年、學期及休業日ニ關スル事項
- 二 學科課程及教授時數ニ關スル事項

- 三 生徒ノ學業成績調査ニ關スル事項
- 四 生徒ノ入學、退學及懲戒ニ關スル事項
- 五 學費及授業費ニ關スル事項
- 六 寄宿舎ニ關スル事項
- 七 生徒ノ取締ニ關スル事項
- 八 講習科ニ關スル事項
- 九 附屬小學校及附屬幼稚園ニ關スル事項
- 十 其ノ他必要ナル事項

第八章 附則

第九十一條 本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ施行ス

第九十二條 従前ノ規定ニ依ル本科ハ本令施行ノ日ヨリ當然本科第一部ニ變更セラレタルモノト看做ス

第九十三條 本令施行ノ際現ニ豫備科及本科ニ在學スル女生徒ノ修業年限ハ仍従前ノ規定ニ依ル但シ本令ノ規定ニ依ルトコトヲ妨ケス

第九十四條 第六條及第二十八條ノ學科目中法制及經濟ハ當分之ヲ缺クコトヲ得

第九十五條 第八條第三項及第三十條第二項ニ規定シタル現行法制上ノ事項ノ大要ハ當分之ヲ授ケサルコトヲ得

法制及經濟ヲ缺キタル場合ニ於テハ其ノ每週教授時數ハ他ノ學科目ニ配當スルコトヲ得



テハ從前ノ規定ヲ斟酌シ又ハ之ニ依ルコトヲ得

第九十六條 本令施行ノ際現ニ簡易科ニ在學スル生徒ニ就キテハ其ノ卒業ニ至ルマテ仍舊前ノ規定ニ依ル

第九十七條 簡易科卒業者ノ服務義務ニ關シテハ第二章第七節ノ規定ヲ準用ス但シ其ノ服務期間ハ仍舊前ノ規定ニ依ル

第九十八條 本令施行前師範學校ヲ卒業シタル者ニ對シテハ授業費償還ニ關スル規定ヲ適用セス

第九十九條 明治二十四年文部省令第二十六號、明治二十五年文部省令第八號、同第十號乃至第十

二號、同第十五號、明治二十六年文部省令第十四號、明治三十年文部省令第十九號、同第二十一號及明治三十一年文部省令第四號ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕

明治二十四年十一月文部省令第二十六號ハ尋常師範學校附屬小學校規程、同二十五年七月同第八號ハ師範學校ノ學科及其程度、同第十號ハ師範學校生徒募集規則、同第十一號ハ師範學校卒業生服務規則、同第十二號ハ師範學校附屬小學校規程、同第十五號ハ師範學校簡易科規程、同二十六年十一月同第十四號ハ北海道及沖繩縣師範學校ニ於ケル特別處分、同三十一年十一月同第十九號ハ師範學校附屬小學校附屬及書記ノ人員、同第二十二號ハ師範學校私費生規程、同三十一年二月同第四號ハ師範學校私費卒業生服務年限ノ件ナリ

○文部省令第十三號

明治三十三年文部省令第十號、教員檢定ニ關スル規程中左ノ通改正ス

明治四十年四月二十五日

文部大臣牧野伸顯

第二條第一項中「家事及裁縫」ヲ「家事」ニ改ム

同條第二項中「算術代數幾何三角法」ヲ「算術代數幾何三角法」ニ改ム、四部ヲ三部ニ改メ、圖畫ハ毛筆畫

用器畫、鉛筆畫用器畫ノ二部ニ家事及裁縫ハ家事、裁縫ノ二部ニヲ削ル

同條第三項中「三角法ハ算術代數幾何」ニヲ削リ「解析幾何」ハ「下ニ」算術代數幾何ヲ加フ

第六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ試驗檢定ヲ受クルコトヲ得

一 中學校ヲ卒業シタル者

二 修業年限四箇年以上ノ高等女學校ヲ卒業シタル者

三 專門學校入學者檢定規程ニ依ル試驗檢定ニ合格シタル者

四 專門學校入學者檢定規程第八條第一號ニ依リ一般ノ專門學校入學ニ關シテ指定ヲ受ケタル者

五 小學校本科正教員ノ免許狀ヲ有スル者

第六條ノ二 前條ノ外左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ其學科目ニ限リ試驗檢定ヲ受クルコトヲ得

一 英語科、佛語科、獨語科ニ在リテハ外國ニ於テ師範學校、中學校、高等女學校ニ準スヘキ學校ヲ卒業シタル者

二 數學科、物理及化學科、博物科ニ在リテハ文部大臣ニ於テ適當ト認定シタル學校ヲ卒業シタル者

三 裁縫科ニ在リテハ高等女學校ニ於ケル修業年限三箇年以上ノ技術專修科ヲ卒業シタル者

四 農業科ニ在リテハ徵兵令第十三條ニ依リ中學校ト同等以上ト認定セラレタル甲種農業學校ヲ卒業シタル者

五 商業科ニ在リテハ徵兵令第十三條ニ依リ中學校ト同等以上ト認定セラレタル甲種商業學校ヲ卒業シタル者



一六 手工科ニ在リテハ徵兵令第十三條ニ依リ中學校ト同等以上ト認定セラレタル工業學校ヲ卒業シタル者

第八條中「程度ヲ標準トシテ」下ニ「教育ノ大意及」ヲ加フ

第十一條 國語及漢文科、數學科、國畫科ノ試験檢定ヲ受ケタル者ニシテ國語及漢文科ニ在リテハ

國語、漢文ノ一、數學科ニ在リテハ算術代數幾何、國畫科ニ在リテハ毛筆畫用器畫鉛筆畫用器畫ノ

一ニ關シ成績佳良ナルトキハ教員檢定委員會會長ハ其ノ部分ノ成績ニ關シ證明書ヲ授與スヘシ

前項ノ證明書ヲ受ケタル者ニシテ更ニ同一學科目ニ就キ試験檢定ヲ出願シタルトキハ其ノ證明書ニ記載シタル部分ノ試験ヲ省ク

附則

本令ハ明治四十二年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ第六條ノ規定ニ拘ラス試験檢定ヲ受ケルコトヲ得但シ第一號ニ該當スル者ニ關シテハ本令施行後三箇年間ニ限ル

- 一 本令公布ノ際現ニ師範學校、中學校又ハ高等女學校ノ教員ノ職ニ在ル者
- 二 前號ニ該當スル者ニシテ試験檢定ヲ受ケ教員免許狀ヲ授與セラレタル者

〔參照〕

文部省令第十號教員檢定ニ關スル規程(明治三十三年六月一日)抄録

第二條 檢定ヲ爲スヘキ學科目左ノ如シ

修身	國語及漢文	英語	佛語	國語	歴史	地理
數學	物理及化學	博物	法則及經濟	習字	軍事及武藝	繪畫

音樂

歴史ハ日本史東洋史、西洋史ノ二部ニ數學ハ算術代數幾何、三角法、解析幾何、微分積分ノ四部ニ物理及化學ハ物理、化學ノ二部ニ博物ハ動物及生理、植物、礦物ノ三部ニ國畫ハ毛筆畫用器畫、鉛筆畫用器畫ノ二部ニ軍事及武藝ハ軍事、武藝ノ二部ニ分チテ檢定ヲ出願スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ一學科目ノ一部若ハ數部ノ檢定ヲ出願スルモ其ノ手數料ニ關シテハ一學科目ト看做ス

三角法ハ算術代數幾何ニ解析幾何ハ三角法ニ微分積分ハ解析幾何ニ合シタル上ニアララレハ檢定ヲ行ハス

第八條 試驗ハ受験人出願ノ學科目ニ就キ其ノ教員ヲラント欲スル學校ノ學科目ヲ教授スルニ足ルヘキ程度ヲ標準トシテ教授ヲ併セテ之ヲ行フモノトス

○農商務省令第六號

蠶病豫防費國庫補助規則左ノ通定ム

明治四十年四月一日

農商務大臣松岡康毅

蠶病豫防費國庫補助規則

第一條 蠶病豫防法第十八條ニ規定スル補助金ハ本則ニ依リ之ヲ交付ス

第二條 蠶病豫防費ニ對シ補助ヲ受ケムトスル府縣ハ申請書ニ蠶病豫防ニ關スル經費豫算書ヲ添附シテ前年度一月三十一日迄ニ農商務大臣ニ差出スヘシ

前項ノ豫算書ニハ前年度豫算額ニ對スル比較増減ヲ示シ且其ノ細目ニ付詳細ナル説明ヲ附スヘシ

第三條 補助ヲ受ケタル府縣蠶病豫防ニ關スル經費豫算ヲ變更シタルトキハ農商務大臣ニ報告スヘシ

第四條 補助金ハ四月及十月ノ二回ニ之ヲ交付ス

第五條 補助金ノ交付ヲ受ケタル府縣ハ年度經過後三箇月以内ニ前年度經費決算書ヲ農商務大臣



ニ差出スヘシ

第六條 補助金ノ交付ヲ受ケタル府縣ノ蠶病豫防ニ關スル經費ノ支出額補助金交付ノ指令ヲ受ケタル當時ニ於ケル豫算額ニ達セサルトキハ補助金ノ一部ヲ還付セシムルコトアルヘシ

附則

第七條 明治四十年度ニ於テ經費ノ補助ヲ受ケムトスル府縣ハ本年四月三十日迄ニ第二條ノ手續ヲ爲スヘシ

第八條 明治四十年度第一回補助金ハ五月ニ於テ之ヲ交付ス

第九條 本則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十條 本則中府縣ニ關スル規定ハ北海道ニ於テハ之ヲ北海道地方費ニ準用ス

○農商務省令第七號

明治四十年度桑園増殖獎勵費交付規則左ノ通定ム

明治四十年四月一日

農商務大臣松岡康毅

明治四十年度桑園増殖獎勵費交付規則

第一條 桑園増殖ヲ獎勵スル爲本則ノ定ムル所ニ依リ明治四十年度ニ於テ獎勵費ヲ交付ス

第二條 獎勵費ハ左ノ場合ニ於テ府縣ニ之ヲ交付ス

- 一 桑種苗ノ無償配付ヲ爲シ又ハ之ヲ目的トシテ其ノ設備ヲ爲ストキ
- 二 桑園ノ新設、桑樹ノ植替ニ對シ獎勵金ヲ交付スルトキ
- 三 郡、市町村、農會其ノ他ノ團體ニ對シ前二號ニ掲ケタル事項ノ全部又ハ一部ヲ行フヲ條件トシテ補助金ヲ交付スルトキ

農商務大臣必要ト認ムルトキハ桑種苗ノ有償配付若ハ之ヲ目的トスル設備ヲ爲シ又ハ其ノ配付若ハ設備ヲ爲スコトヲ條件トシテ郡、市町村、農會其ノ他ノ團體ニ補助金ヲ交付スル府縣ニ對シ獎勵費ヲ交付スルコトアルヘシ

第三條 獎勵費ノ交付ヲ受ケムトスル府縣ハ申請書ニ桑園増殖獎勵ニ關スル費用ノ豫算及其ノ說明書ヲ添ヘ明治四十年八月三十一日迄ニ農商務大臣ニ差出スヘシ

第二條第三號ノ場合ニ於テハ郡、市町村、農會其ノ他ノ團體ノ桑園増殖ニ關スル豫算及施行方法書ヲ添付スヘシ

第四條 獎勵費ノ交付ヲ受ケタル府縣桑園増殖ニ關スル豫算ヲ變更シタルトキハ農商務大臣ニ報告スヘシ

第五條 獎勵費ノ交付ヲ受ケタル府縣ハ桑種苗配付ニ關スル方法又ハ桑園ノ増殖ニ對スル獎勵金交付並其ノ監督ニ關スル規程ヲ設ケ農商務大臣ニ届出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第六條 獎勵費ノ交付ヲ受ケタル府縣ハ明治四十一年五月三十日迄ニ別記様式ニ依リ桑園増殖施行ノ成績ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第七條 獎勵費ノ交付ヲ受ケタル府縣ノ桑園増殖ニ關スル經費ノ支出額獎勵費交付ノ指令ヲ受ケタル當時ニ於ケル豫算額ニ達セサルトキハ農商務大臣ハ其ノ交付シタル獎勵費ノ全部又ハ一部ノ還付ヲ命スルコトアルヘシ

附則

第八條 本則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第九條 本則中府縣ニ關スル規定ハ北海道ニ於テハ之ヲ北海道地方費ニ準用ス



(様式)

計	市別	新設段別	種別	面積ノ數	補助費ノ額

○農商務省令第八號

明治三十八年六月農商務省令第十七號鑛業法施行細則中左ノ通改正ス

明治四十年四月十一日

農商務大臣松岡康毅

第二十五條ノ次ニ左ノ二條ヲ加フ

第二十五條ノ二 試掘權者其ノ試掘地ニ於テ採掘ノ出願ヲ爲シタル後出願人ノ變更ヲ爲サントスル場合ニ於テハ試掘權ノ移轉ヲ證スル書面ヲ添付スヘシ

第二十五條ノ三 試掘權者其ノ試掘地ニ於テ採掘ノ出願ヲ爲シタル後試掘權ヲ移轉シタルトキハ出願人變更ノ届出アリタルモノト看做ス

第三十八條第三號ヲ左ノ通改ム

三 圖面ヲ添付スヘキ鑛業ノ願書ニ之ヲ添付セサルトキ又ハ添付圖面ニ依リ區域分明ナラサル

トキ

第三十八條第五號 削除

第三十八條第八號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

八ノ二 第二十五條ノ二ノ規定ニ違背シ試掘權ヲ移轉ヲ證スル書面ヲ添付セサルトキ

第二十九條左ノ場合ニ於テハノ下ニ鑛山監督署長ハヲ加フ

第四十七條第二項ヲ左ノ通改ム

坑内實測圖ノ複本ハ石炭坑ニ在リテハ毎年六月末日及十二月末日迄ノ分ヲ各八月末日及二月末日迄ニ其ノ他ニ在リテハ毎年十二月末日迄ノ分ヲ二月末日迄ニ差出スヘシ但シ鑛山ノ狀況ニ依リ必要ト認めルトキハ鑛山監督署長ハ何時ニテモ坑内實測圖ノ複本ノ提出ヲ命シ又ハ其ノ提出期若ハ提出回数ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第九十一條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第九十二條 鑛業法第二百十條ノ規定ニ依ル居書ニハ左ノ書類及圖面ヲ添付スヘシ

一 事業ノ現狀ヲ詳記セル書類

二 明治三十九年十二月三十一日以前ヨリ引續キ鑛業法第二條第二項ノ可燃質天然瓦斯ヲ採取スルコトヲ證スル書類

三 坑井ノ所在ヲ認知シ得ヘキ圖面

前項第三號ノ圖面ニハ左ニ掲クル事項ヲ明示スヘシ

一 所在地ノ名稱及種目

二 不動基點並其ノ名稱及特徵

三 坑井ト不動基點ト連結シタル測點間ノ方位及間數

(参照)

農商務省令第十七號鑛業法施行細則(明治三十八年六月十五日)抄錄



第三十八條 左ノ場合ニ於テハ鐵山監督署長ハ願書、申請書又ハ願書ヲ受理セス  
 三 願書ノ願書ニ附テ添附セサルトキ  
 五 第三十條第十五條第二十八條第三十一條又ハ第三十三條ノ規定ニ違背シ理由書ヲ添附セサルトキ  
 第三十九條 左ノ場合ニ於テハ願書又ハ願書ヲ却下ス  
 第四十七條第二項

坑内實測圖ノ繪本ハ毎年六月末日及十二月末日迄ノ分ヲ各八月末日及二月末日迄ニ提出スヘシ但シ鐵山ノ狀況ニ依リ必  
 要ト認ムルトキハ鐵山監督署長ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ其ノ提出期又ハ提出回数ノ變更ヲ命スルコトヲ得

○農商務省令第九號

明治三十九年五月五農商務省令第十七號採掘ノ出願ニ關シ鐵山監督署長ヘ委任ノ件中左ノ通改正ス

明治四十年四月十一日

農商務大臣松岡康毅

第一條第三號ヲ左ノ如ク改ム

三 出願地カ鐵區ト重複シ其ノ重複部分又ハ十間ノ間隔地除去ノ爲殘餘ノ區域カ礦業法第九條  
 ノ面積ニ滿タサル場合ノ出願ノ不許可ニ關スル件

〔参照〕

農商務省令第十七號(明治三十九年五月十一日)抄録  
 第一條 採掘ノ出願ニ關シ左ニ掲ケタル事項ハ之ヲ鐵山監督署長ニ委任ス  
 三 礦業法施行細則第三十九條中第一號第二號第七號及第八號ニ掲ケタル場合ヲ除キ願書又ハ願書ノ却下ニ關スル件

○逓信省令第十二號

明治四十年三月勅令第三十七號及滿韓在勤文官加俸令ニ依リ樺太ニ在勤スル航路標識看守ニ支給ス  
 ル加俸額左ノ通相定ム

五級俸以上ノ者

月額本俸十分ノ八

六級俸以下ノ者

月額三十圓

本令ハ明治四十年四月分ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年四月一日

逓信大臣山縣伊三郎

○逓信省令第十三號

明治二十五年一月勅令第六號第二條ニ依リ帝國鐵道廳ハ其司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付圖ヲ代表ス  
 明治四十年四月一日

逓信大臣山縣伊三郎

○逓信省令第十四號

逓信官署經費渡切規則施行細則左ノ通相定ム

明治四十年四月一日

逓信大臣山縣伊三郎

逓信官署經費渡切規則施行細則

第一條 明治三十八年三月勅令第六十二號逓信官署經費渡切規則ニ依リ特ニ指定シタル逓信官署ノ  
 局所長ニ交付スヘキ渡切經費ノ種目ハ左ノ如ク

- 一 器具機械費
- 二 式紙帳簿雜品費
- 三 圖書購買費
- 四 薪炭費
- 五 點燈費
- 六 通信運搬費
- 七 備人料



八 三等局以下事務費

九 三等局以下集配費

十 三等局以下遞送費

十一 船舶車輛費

十二 賄費

十三 諸雜費

前項各號ノ渡切經費中當該逓信官署ノ局長ニ交付スヘキモノノ種目及其ノ細目ハ別ニ之ヲ定ム

第二條 渡切經費ノ交付ヲ受ケタル逓信官署ノ局長ハ其ノ交付額ヲ以テ前條ニ依リ指定スル所ノ一切ノ費途ヲ負擔シ其ノ仕拂ノ責ニ任スヘシ

第三條 前條費途ノ仕拂ニ關シテハ官職名ヲ以テスルト否トニ拘ラス總テ當該逓信官署ノ局長自己ノ責任トシ政府其ノ責ニ任セス

第四條 渡切經費ノ交付額ハ毎年度月割額ヲ定メ當該逓信官署ノ局長ニ之ヲ令達ス

第五條 渡切經費ハ前條ノ月割額ヲ以テ毎月十六日以後當該逓信官署ノ局長ニ之ヲ交付ス但シ時宜ニ依リ別途仕拂ヲ爲シ又ハ別途現品ヲ以テ交付スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ本條ノ交付額ヨリ其ノ費額ヲ控除ス

三等郵便局以下ノ逓信官署ノ渡切經費交付期日ハ別ニ之ヲ定ム

第六條 渡切經費ヲ交付スヘキ逓信官署ヲ新ニ指定シ若ハ開始シタル場合ニ於ケル當月分ノ渡切經費ハ日割計算ヲ以テ之ヲ交付ス渡切經費額ニ増減ヲ生シタルトキ亦同シ

渡切經費ヲ交付スヘキ逓信官署ノ局長ノ交迭又ハ死亡ノ場合ニ於ケル當月分ノ渡切經費ハ其ノ交迭又ハ死亡ノ日カ月ノ十五日以前ナルトキハ半額月ノ十六日以後ナルトキハ全額ヲ前任局長ニ交付ス其ノ後任局長ニ交付スヘキ渡切經費ハ任命ノ翌日ヨリ月末ニ至ル日數ニ依リ之ヲ算定ス

渡切經費ヲ交付スヘキ逓信官署ノ指定ヲ廢止シ又ハ其ノ逓信官署ヲ廢止シタル場合ニ於ケル當月分ノ渡切經費ハ其廢止ノ日カ月ノ十五日以前ナルトキハ半額ヲ交付シ月ノ十六日以後ナルトキハ全額ヲ交付ス

三等郵便局以下ノ逓信官署ニ交付スヘキ渡切經費ハ前二項ノ場合ニ於テ日割計算トス

第七條 三等郵便局以下ノ逓信官署ノ局長死亡失職又ハ服務停止ノ場合ニ於テ身元引受人代テ其事務ヲ執行シタルトキハ其間渡切經費ハ身元引受人ニ之ヲ交付ス  
前項ノ場合ニ於テ特ニ吏員ヲ派遣シ局長ノ事務ヲ執行シタルトキハ其間渡切經費ノ全部若ハ一部ヲ交付セス

第八條 渡切經費ヲ交付スヘキ逓信官署ヲ指定シ若ハ渡切經費ノ種目(細目ヲ含ム)ヲ増加シタル場合ニ於テ其ノ當初準備ノ爲ニ要スルモノハ前各條ニ依リ交付スルモノノ外別ニ指定シタル範圍内ニ於テ一時限リ別途仕拂ヲ爲シ又ハ別途現品ヲ以テ交付スルコトアルヘシ

第九條 渡切經費ヲ交付スヘキ逓信官署ノ指定ヲ廢止シ若ハ其ノ逓信官署ヲ廢止シ又ハ其ノ局長ノ交迭若ハ死亡シタル場合ニ於テ渡切經費ノ支辨ニ關スル費途ノ仕拂未済ニ係ルモノアルトキハ總テ前任局長前任局長ノ身元引受人又ハ特ニ命シタル清算官吏ニ於テ還滯ナク其支拂ヲ完了スヘシ



第十條 左ノ各號ノ場合ニ於テハ特ニ渡切經費ノ種目又ハ其ノ交付額ヲ増減スルコトアルヘシ

- 一 天災事變又ハ事業ノ興廢伸縮若ハ規模變更等ノ場合ニ於テ渡切經費ヲ以テ支辨スヘキ費途ニ著シク異動ヲ生シタルトキ
- 二 前號ノ外逓信大臣ニ於テ必要ト認メタルトキ

第十一條 土地ノ狀況又ハ特殊ノ事由ニ依リ一時ニ數月分ノ渡切經費ノ交付ヲ必要トスルトキハ當該逓信官署ノ局所長事由ヲ詳具シ逓信大臣ノ許可ヲ受クヘシ

附則

本令ハ明治四十年度ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年四月逓信省令第三十號逓信官署經費渡切規則施行細則ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

○逓信省令第十五號

明治三十三年四月逓信省令第八十七號船舶検査法施行細則中左ノ通改正シ明治四十年四月十五日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年四月十一日

逓信大臣山縣伊三郎

第五十條中「百六十度」ヲ「百七十度」ニ「五十五度」ヲ「六十三度」ニ改ム

第五十一條第一號中「大島及ヒ神子元島」ヲ「新島及ヒ神津島」ニ改ム

〔參照〕

逓信省令第八十七號船舶検査法施行細則(明治三十三年十二月二十八日)抄録

第五十條 近海航路トハ東經百十三度ヨリ同百六十度及ヒ北緯三十一度ヨリ同五十五度ニ至ル線内ノ航路ヲ謂フ

第五十一條 沿海航路トハ左ニ掲グル各區内ノ航路ヲ謂フ

第一區 上總國大東郡ヨリ安房國野島郡伊豆國大島及ヒ神子元島ヲ經テ遠江國御前崎ニ至ル線内

○逓信省令第十六號

明治三十九年九月逓信省令第四十六號中括弧内「牛莊」ノ下ニ「及安東縣」ヲ加フ

明治四十年四月十一日

逓信大臣山縣伊三郎

〔參照〕

逓信省令第四十六號(明治三十九年九月一日)

當分ノ内本邦發着(日本郵船株式會社)宛、滿洲發着(大連港)宛、滿洲發着(小倉郵便物)ニ付テハ明治三十三年九月逓信省令第五十六號發着小包郵便規則第四條ノ規定ヲ適用セス

○逓信省令第十七號

明治三十五年二月逓信省令第五號中「鐵道作業局長官」ヲ「帝國鐵道廳總裁」ニ「鐵道作業局出張所長」ヲ「帝國鐵道廳出張所長」ニ「鐵道作業局工務部長」ヲ「帝國鐵道廳工務部長」ニ改メ「商船學校長」ノ上ニ「帝國鐵道廳管理局長、帝國鐵道廳建設事務所長」ヲ加フ

明治四十年四月十七日

逓信大臣山縣伊三郎

〔參照〕

明治三十五年三月逓信省令第五號ハ不動産ノ登記簿ニ就テ官署指定ノ件ナリ

○逓信省令第十八號

明治三十三年九月逓信省令第六十三號中「三倍」トアルヲ「二倍」ト改メ來五月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年四月十九日

逓信大臣山縣伊三郎



〔參照〕

選信省令第六十三號(明治三十三年九月十四日)  
臺灣島内ニテ配達スヘキ電報ノ別便配達料ハ電報規則第六十七條ニ規定スル金額ノ三倍トス

○選信省令第十九號

明治三十年六月選信省令第十八號外國新聞電報規則中左ノ通改メ來五月一日ヨリ施行ス  
明治四十年四月二十七日 選信大臣山縣伊三郎

第二條 新聞電報ニハ廣告又ハ私信ヲ記載スルコトヲ得ス但シ通信ノ繼續、始終、番號ハ此ノ限ニ  
アラス  
株式取引所及市場ノ相場ハ新聞電報中ニ記載スルコトヲ得

第四條 新聞電報ハ普通ノ日本語、英語、佛語若ハ獨語ヲ以テ記載スルヲ要ス但シ本邦ト韓國又ハ  
清國滿洲(本邦屬所在)トノ間ニ送受スルモノニ限リ和文電報ヲ用フルコトヲ得

〔參照〕

選信省令第十八號外國新聞電報規則(明治三十年六月二十六日)抄録  
第四條 新聞電報ハ普通ノ英語佛語若ハ獨語ヲ以テ記載シタルモノニ限ル  
但シ左記各條ニ依ルモノハ此ノ限ニ在ラス  
一 本邦ト清國上海北京天津及芝罘トノ間ニ送受スルモノハ普通ノ日本語ヲ羅馬文字ヲ以テ記載スルコトヲ得  
一 本邦ト韓國又ハ清國滿洲(本邦屬所在)トノ間ニ送受スルモノハ普通ノ日本語ヲ羅馬文字若ハ片假名ヲ以テ記載スルコ  
トヲ得ト雖モ羅馬文字ト片假名トヲ通用スルヲ得ス

○宮内省令第二號

華族懲戒委員互選規程勅裁ヲ經テ左ノ通定ム

明治四十年五月八日

宮内大臣子爵田中光顯

華族懲戒委員互選規程

- 第一條 華族懲戒委員ハ有爵者各共ノ同爵者中ヨリ之ヲ選舉ス
- 第二條 委員ノ數ハ爵毎ニ二人トス
- 第三條 無能力者、華族ノ禮遇ノ停止又ハ禁止中ノ者及其ノ停止又ハ禁止ノ處分ヲ受ケタルコト  
アル者ハ委員トナリ又ハ委員ヲ選舉スルコトヲ得ス
- 第四條 委員選舉ノ場所及期日ハ爵位局長之ヲ指定ス
- 第五條 爵位局長ハ選舉ノ期日前三十日ノ現在ニ依リ選舉資格ヲ有スル有爵者ノ人名簿ヲ爵毎ニ  
調製シ之ヲ同爵者ニ配付ス
- 第六條 選舉ハ投票ニ依リ之ヲ行フ委員選舉人ハ自カラ選舉場ニ至リ投票スヘシ但シ疾病其ノ他  
事故アル者ハ同爵者ニ投票ヲ委託スルコトヲ得
- 第七條 爵位局長ハ有爵者中ヨリ爵毎ニ選舉管理者一人選舉管理者代理人一人ヲ選任シ選舉ニ四  
スル事務ヲ擔任セシム
- 選舉管理者又ハ選舉管理者代理人ハ選舉ノ當日選舉場ニ參會スヘシ
- 第八條 投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トシ得票ノ數相同シキトキハ年長者ヲ以テ當選人  
トス
- 第九條 當選人定マリタルトキハ爵位局長ハ共ノ爵氏名ヲ上奏シ且之ヲ當選人ニ通知スヘシ
- 第十條 委員ノ任期ハ滿二箇年トス
- 第十一條 補闕委員ノ任期ハ共ノ前任者ノ殘任期間トス



附則

本令ハ明治四十年六月一日ヨリ之ヲ施行ス  
○宮内省令第三號  
華族令施行規則左ノ通定ス

明治四十年五月八日

宮内大臣子爵田中光助

華族令施行規則

- 第一條 華族令及本令ニ依ル出願又ハ届出ハ總テ書面ヲ以テ宮内大臣ニ宛テ之ヲ差出スヘシ
- 第二條 願書又ハ届書ニハ左ノ事項ヲ記載シ出願者又ハ届出者之ニ署名捺印スヘシ
  - 一 出願事件又ハ届出事件
  - 二 出願又ハ届出ノ年月日
  - 三 出願者又ハ届出者ノ氏名
- 第三條 出願者又ハ届出者ト出願事件又ハ届出事件ノ本人ト異ナルトキハ願書又ハ届書ニ其ノ間ノ關係及本人ノ氏名ヲ記載スヘシ
- 第四條 法定代理人ニ於テ出願又ハ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ願書又ハ届書ニ左ノ事項ヲ記載スヘシ
  - 一 本人ノ氏名
  - 二 無能力ノ原因
  - 三 出願者又ハ届出者ノ親權ヲ行フ者又ハ後見人タルコト
- 第五條 出願者、届出者又ハ出願事件、届出事件ノ本人有爵者ナルトキハ前三條ニ定メタル記載事項ノ外餘、其ノ家族ナルトキハ戸主ノ爵、氏名及其ノ者ト戸主トノ續柄、有爵者ニ非サル戸主ナルトキハ其ノ族籍、住所及職業其ノ家族ナルトキハ戸主ノ族籍、住所、職業及其ノ者ト戸主トノ續柄

並其ノ者ノ住所ヲ記載スヘシ

- 第六條 願書又ハ届書ノ宛名ニハ宮内大臣ノ爵、氏名ヲ記載スヘシ
- 第七條 禁治産者後見人ノ同意ヲ得シテ爲スコトヲ得ヘキ行爲ニ付キ出願又ハ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ願書又ハ届書ニ本人ニ於テ出願事件又ハ届出事件ノ性質及效果ヲ理會スルニ足ル能力ヲ有スルコトヲ證スヘキ醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ
- 第八條 華族令第八條ニ依リ家範ノ認許ヲ請フニハ願書ニ家範ノ草案ヲ添ヘ其ノ廢止變更ノ認許ヲ請フニハ願書ニ其ノ理由ヲ具スヘシ
- 第九條 華族令第十四條第一項ニ依リ婚姻、養子縁組又ハ家督相續人ノ指定ニ付キ認許ヲ請フニハ配偶者、養子又ハ家督相續人トナルヘキ者ニ關シ願書ニ左ノ諸件ヲ具スヘシ
  - 一 氏名及出生ノ年月日
  - 二 父母ノ氏名
  - 三 出願者ト本人トノ續柄
  - 四 本人ニシテ出願者以外ノ有爵者ノ家族ナルトキハ戸主ノ爵、氏名及本人ト戸主トノ續柄、有爵者ニ非サル者ノ家族ナルトキハ戸主ノ族籍、住所、職業、氏名及本人ト戸主トノ續柄
- 第十條 華族令第十四條第一項ニ依リ隱居、協議上ノ離婚若ハ離縁又ハ家督相續人指定ノ取消ニ付キ認許ヲ請フニハ願書ニ理由ヲ具シ隱居ニ付テハ家督相續人ノ承認アリタルコト、離婚若ハ離縁ニ付テハ相手方ノ承諾アリタルコトヲ證スルニ足ル書面ヲ添フヘシ
- 第十一條 華族令第十四條第二項ニ依リ養子縁組ノ承諾又ハ相續ノ承認ニ付キ認許ヲ請フニハ養子トナル者又ハ被指定者ニ關シ願書ニ左ノ諸件ヲ具スヘシ
  - 一 出生ノ年月日
  - 二 父母ノ氏名



- 三 遺言者ノ爵、氏名
- 四 本人ト遺言者トノ續柄
- 五 本人ニシテ遺言者以外ノ有爵者ノ家族ナルトキハ戸主ノ爵、氏名及本人ト戸主トノ續柄、有爵者ニ非サル者ノ家族ナルトキハ戸主ノ族籍、住所、職業、氏名及本人ト戸主トノ續柄
- 第十二條 華族令第十五條ニ依リ法定ノ推定家督相續人ノ廢除又ハ其ノ取消ニ付テ認許ヲ請フニハ願書ニ其ノ理由ヲ具スヘシ
- 第十三條 華族令第十六條ニ依リ相續ノ承認ニ付テ認許ヲ請フニハ被選定者ニ關シ願書ニ左ノ諸件ヲ具スヘシ
  - 一 出生ノ年月日
  - 二 父母ノ氏名
  - 三 被選定者ト被相續人トノ續柄
  - 四 被選定者ニシテ被相續人以外ノ有爵者ノ家族ナルトキハ戸主ノ爵、氏名及被選定者ト戸主トノ續柄、有爵者ニ非サル者ノ家族ナルトキハ戸主ノ族籍、住所、職業、氏名及被選定者ト戸主トノ續柄
- 第十四條 華族令第十七條ニ依リ婚姻又ハ發子縁組ノ認許ヲ請フニハ各當事者ニ關シ願書ニ左ノ諸件ヲ具スヘシ
  - 一 出生ノ年月日
  - 二 父母ノ氏名
  - 三 各當事者間ノ續柄
  - 四 當事者ノ一方ニシテ出願者以外ノ有爵者ノ家族ナルトキハ戸主ノ爵、氏名及其ノ當事者ノ一方ト戸主トノ續柄、有爵者ニ非サル者ノ家族ナルトキハ戸主ノ族籍、住所、職業、氏名及其ノ

- 當事者ノ一方ト戸主トノ續柄
- 第十五條 華族令第十七條ニ依リ分家ノ認許ヲ請フニハ願書ニ分家ノ家族ト爲サントスル者ノ氏名ヲ具スヘシ
- 第十六條 華族令第十七條ニ依リ廢絶家再興ノ認許ヲ請フニハ願書ニ左ノ諸件ヲ具スヘシ
  - 一 再興セムトスル家ノ最後ノ戸主ノ族籍、職業及氏名
  - 二 再興ヲ爲サントスル本人ト再興セムトスル家トノ關係
  - 三 再興ノ理由
- 第十七條 華族令第十七條ニ依リ他家相續ノ認許ヲ請フニハ願書ニ左ノ諸件ヲ具スヘシ
  - 一 本人他家ノ相續人トナル原因
  - 二 被相續人有爵者ナリシトキハ其ノ爵、氏名及相續人ト被相續人トノ續柄、有爵者ニ非サル者ナリシトキハ其ノ族籍、住所、職業、氏名及相續人ト被相續人トノ續柄
- 第十八條 華族令第十七條又ハ第十八條ニ依リ家族カ他家ニ入り又ハ他家ヨリ入ルニ付テ認許ヲ請フニハ願書ニ左ノ諸件ヲ具スヘシ
  - 一 入籍セムトスル家ノ戸主有爵者ナルトキハ戸主ノ爵、氏名及入籍セムトスル者ト戸主トノ續柄、有爵者ニ非サル者ナルトキハ戸主ノ族籍、住所、職業、氏名及入籍セムトスル者ト戸主トノ續柄
  - 二 入籍セムトスル者戸主ナルトキハ其ノ族籍、住所、職業、氏名及其ノ者ト入籍セムトスル家ノ戸主トノ續柄、有爵者ニ非サル者ノ家族ナルトキハ戸主ノ族籍、住所、職業、氏名及其ノ者ト入籍セムトスル家ノ戸主トノ續柄
  - 三 入籍ノ理由
- 第十九條 民法ノ規定ニ依リ同意ヲ得ルコトヲ要スル行爲ニ付テ認許ヲ請フニハ願書ニ其ノ同意



ヲ得タルコトヲ證スルニ足ル書面ヲ添フヘシ

第二十條 華族令第二十六條ニ依リ爵ノ返上ヲ請願スルニハ願書ニ返上ノ理由ヲ具スヘシ

第二十一條 新ニ爵ヲ授ケラレタル者ハ三十日內ニ戶籍ノ原本ヲ添ヘ住所ノ屆書ヲ差出スヘシ

第二十二條 有爵者又ハ其ノ家族ニ付キ左ノ事實アリタルトキハ遲滞ナク其ノ屆出ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ屆書ニ事實ノ生シタル年月日及其ノ事由ヲ具スヘシ

一 戶籍ノ異動アリタルトキ

二 身分登記ノ變更アリタルトキ

三 轉籍又ハ轉居シタルトキ

四 私生子ノ認知ヲ爲シタルトキ

五 禁治産若ハ準禁治産ノ宣告又ハ其ノ取消アリタルトキ

六 親權ノ全部若ハ一部ノ喪失ノ宣告又ハ其ノ取消アリタルトキ

七 家資分散若ハ破産ノ宣告又ハ其ノ取消アリタルトキ

八 身代限ノ處分ヲ受ケタル者債務ノ辨濟ヲ終ヘタルトキ

九 行方知レサルトキ

第二十三條 前條ノ屆出ニ付テハ有爵者又ハ其ノ法定代理人ヲ以テ屆出義務者トス

有爵者又ハ其ノ法定代理人屆出ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ左ニ掲ケタル者ハ其ノ順序ニ從ヒ屆出ヲ爲ス義務ヲ負フ但シ成年者ニ限ル

第一 家督相續人

第二 同居ノ家族

第三 屆出事件ノ本人ノ三親等內ノ親族

同順位ノ屆出義務者數人アルトキハ其ノ中ノ一人ヨリ屆出ヲ爲スヲ以テ足ル

第二十四條 有爵者死亡シタルトキハ遲滞ナク其ノ屆出ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ屆書ニ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ死亡ノ年月日及原因ヲ具スヘシ

前條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ屆出ニ之ヲ準用ス

第二十五條 華族令第十條第一項ニ依リ家督相續ノ屆出ヲ爲スニハ屆書ニ左ノ條件ヲ具スヘシ

一 相續人ノ出生ノ年月日

二 被相續人ノ爵氏名

三 相續開始ノ原因及其ノ年月日

四 相續人トナリタル原因

爵ヲ襲クコトヲ得ヘキ家督相續人又ハ其ノ法定代理人屆出ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ本人ノ三親等內ノ親族タル成年者一人ヨリ前項ノ屆出ヲ爲スヘシ

第二十六條 有爵者ノ爲ニ後見開始シタルトキハ後見人ハ自己其ノ後見人タルコトヲ知リタル後遲滞ナク後見開始ノ原因及後見監督人ノ氏名ヲ屆出ツヘシ

第二十七條 有爵者ニ保佐人ヲ附シタルトキハ保佐人ハ自己其ノ保佐人タルコトヲ知リタル後遲滞ナク其ノ事由ヲ屆出ツヘシ

第二十八條 有爵者無能力者ナル場合ニ於テ親族會ヲ設ケタルトキハ其ノ法定代理人又ハ保佐人ハ遲滞ナク親族會員ノ族籍住所職業及氏名ヲ屆出ツヘシ

附則

本令ハ明治四十年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

○内務省令第九號

治安警察法第十八條ニ依リ戎器共ノ他ノ物件携帯禁止ノ件左ノ通之ヲ定メ明治四十年五月七日



リ施行ス

明治四十年五月一日

内務大臣原敬

土方、工夫、土工使用人及工事請負人ハ左ノ地域内ニ於テ鐵道工亦終了迄我器爆發物又ハ我器ヲ仕込ミタル物件ヲ携帶スルコトヲ得ス但職業ノ爲メ爆發物ヲ携帶スルハ此限リニ在ラス

島根縣能登郡田村安來町赤江村荒島村  
同縣松江市

同縣八束郡揖保村、意東村、竹矢村、出雲郡津田村、乃木村、玉湯村、來待村、與道村  
同縣新川郡庄原村、直江村、伊波野村、出西村、大津村、今市村、四郷村、久木村、出東村

○内務省令第十號

明治三十四年、内務省令第二十九號中衆議院議員選舉人名簿様式ノ下、用紙程村又ハ西ノ内、濃紙ニ改ム

明治四十年五月八日

内務大臣原敬

○大藏省令第十九號

明治三十七年大藏省令第十九號煙草專賣法施行細則中左ノ通改正レ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年五月二日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

第三十一條ヲ左ノ如ク改ム

輸出ノ爲葉煙草又ハ製造煙草ノ賣渡ヲ請求セムトスル者ハ第九號書式ノ輸出煙草賣渡申請書ヲ煙草專賣局長官ニ差出シ其ノ指定スル煙草專賣官署ニ代金ヲ納付シ現品ヲ引取ルヘシ但レ政府ヨリ買受クル製造煙草ノ代金一回壹萬五千圓以上ニ達スル者ハ代金納付ノ擔保トシテ國債證券ヲ提供シテ代金ノ延納ヲ請求スルコトヲ得

輸出ノ爲常時製造煙草ノ買受ヲ爲ス者代金納付ノ擔保トシテ豫メ國債證券ヲ提供シ置クトヤハ

其ノ證券ノ價格ニ達スル迄代金ノ延納ヲ請求スルコトヲ得但レ毎回ノ買受代金壹萬五千圓ヲ下ラサルコトヲ要ス

前二項ノ國債證券ノ價格ハ明治三十八年勅令第二十號ニ規定セラレタル國債證券ニ就キテハ該勅令ノ規定ニ依リテ算定シ其ノ他ノ國債證券ニ就キテハ市場ニ於ケル前月中ノ平均價格ヨリ其ノ十分ノ二ヲ控除シテ算定シ第二項ノ場合ニ於テハ毎年四月之ヲ改算ス

製造煙草ノ代金納付ノ擔保トシテ提供スヘキ國債證券ハ提供者之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ差出スヘシ

第一項但書及ヒ第二項ノ場合ニ於テ其ノ買受代金ハ現品領收済ノ日ヨリ起算シ三箇月以内ニ完納スヘシ

輸出ノ爲煙草ヲ買受ケタル者煙草ノ藏置場ヲ變更セムトスルトキハ所管煙草收納所ニ申出テ許可ヲ受クヘシ

〔參照〕

大藏省令第十九號煙草專賣法施行細則(明治三十七年五月二十八日)抄録

第三十一條 輸出ノ爲葉煙草又ハ製造煙草ノ賣渡ヲ請求セムトスル者ハ第九號書式ノ輸出煙草賣渡申請書ヲ煙草專賣局長官ニ差出シ其ノ指定スル煙草專賣官署ニ代金ヲ納付シ現品ヲ引取ルヘシ

輸出ノ爲煙草ヲ買受ケタル者煙草ノ藏置場ヲ變更セントスルトキハ所管煙草收納所ニ申出テ許可ヲ受クヘシ

○大藏省令第二十號(官報五月十日)

明治三十七年、大藏省令第二十七號中葉煙草收納所トアルヲ煙草收納所ト改メ煙草製造所ノ下ニ煙草販賣所ヲ追加ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年五月九日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎



〔参照〕

大藏省令第二十七號(明治三十七年六月十八日)抄録  
煙草賣局葉煙草收納所煙草製造所ハ其ノ司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付圖ヲ代表ス

○大藏省令第二十一號

明治三十九年十一月十一日 大藏省令第四十八號煙草賣局分工場 煙草收納所出張所 煙草製造所分工場名  
稱位置中福岡煙草製造所下關分工場ハ明治四十年六月三十日限り之ヲ廢止ス  
明治四十年五月二十五日 大藏大臣法學博士阪谷芳郎

○海軍省令第五號

海軍召集條例施行細則第五十三條中「臺灣」ヲ「臺灣及樺太」ニ改ム  
明治四十年五月一日 海軍大臣齋藤實

〔参照〕

海軍省令第十號海軍召集條例施行細則(明治三十一年十月十日)抄録  
第五十三條 臺灣ニ寄留スル豫備役後備役下士卒ニシテ條例第二十二條第一項但書ニ依リ召集ニ應ゼントスル者ノ召集令  
狀等ノ保管ハ臺灣ヲ豫備役後備役下士卒ノ召集區域ニ編入スル迄ノ間外國在留者ニ對スル手續ニ準ス

○海軍省令第六號

明治三十年海軍省令第五號中「臺灣」ノ下ニ「樺太」ヲ追加ス  
本令ハ明治四十年勅令第七十六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
明治四十年五月一日 海軍大臣齋藤實

〔参照〕

明治三十年八月海軍省令第五號ハ臺灣並に在外海軍雇員出入死傷手当金給與規則ナリ

○海軍省令第七號

明治三十八年海軍省令第五號及同第六號中左ノ資格ヲ備フルヲ要スルノ下ニ左ノ但書ヲ追加ス  
但シ沈没船舶ノ種類若ハ其ノ所在ニ依リ海軍大臣ニ於テ必要ナレト認ムルトキハ本規定ノ資格  
ニ依ラサルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ契約擔任者ハ其ノ旨ヲ公告ス  
明治四十年五月三十一日 海軍大臣齋藤實

○海軍省令第八號

海軍監獄則施行細則中左ノ通改正ス  
明治四十年五月三十一日 海軍大臣齋藤實  
第二十三條ニ左ノ一項ヲ加フ  
旅順海軍監獄ニ在テハ前項ノ規定ニ拘ラス十一月一日ヨリ翌年三月三十一日迄ノ間共監房ニ疊  
ヲ使用スルコトヲ得

第二十三條ノ二トシテ左ノ一條ヲ加フ

監獄ニハ暖爐ヲ使用スルコトヲ得ス但旅順海軍監獄ニ在テハ冬期必要ノ期間之ヲ使用スルコト  
ヲ得  
第二十五條括弧内草履ノ下「又ハ木履」ヲ加フ

○司法省令第十三號

岡山地方裁判所管内玉島區裁判所岡田出張所ヲ備中國吉備郡箭田村ニ移シ玉島區裁判所箭田出張  
所ト改稱ス  
本令ハ明治四十年五月十九日ヨリ之ヲ施行ス  
明治四十年五月十三日 司法大臣松田正久



○文部省令第十四號

明治二十五年文部省令第二號市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料支給規則中左ノ通改正ス

明治四十年五月四日

文部大臣牧野伸顯

第一條中「市町村長」ヲ「府縣知事」ニ改ム

第四條ヲ左ノ如ク改ム

第四條 退職料請求書ヲ受ケタル府縣知事ハ事實ヲ取調請求ノ理由アリト認ムルトキハ退職料證書ヲ作り之ヲ本人ニ交付スヘシ但退職料増加ノ爲更ニ退職料證書ヲ交付スルトキハ前ニ交付シタル證書ヲ返納セシムヘシ

第五條ヲ左ノ如ク改ム

第五條 府縣知事ニ於テ前條ノ請求其理由ナシト認ムルトキハ理由ヲ示シ之ヲ本人ニ通告スヘシ

第六條第一項中「第一項」市町村長ハ事實ヲ取調證據書類ヲ添ヘ府縣知事ニ差出スヘシヲ削リ「市町村長」ヲ「府縣知事」ニ改メ同條第二項中「府縣知事」ニ於テ前項ノ請求ヲ許可シタルトキハ「府縣知事」ハ事實ヲ取調請求ノ理由アリト認ムルトキハ「府縣知事」ニ改ム

第七條中「市町村長」ヲ「府縣知事」ニ同條第二項中「扶助料」又ハ「扶助金」ノ請求上必要ナル書類ヲ「死者」ノ「履歷書」ヲ調製シ之ヲ「ニ改ム

第八條第一號中「市町村長」ヨリ交付シタル「府縣知事」ヨリ交付セラルル「ニ改ム

第九條ヲ左ノ如ク改ム

第九條 扶助料請求書又ハ扶助金請求書ヲ受ケタル府縣知事ハ事實ヲ取調請求ノ理由アリト認ムルトキハ扶助料ニ在リテハ扶助料證書扶助金ニ在リテハ辭令書ヲ作り之ヲ本人ニ交付スヘシ

前項ノ扶助料又ハ扶助金他ノ地方廳ニ於テ支給スヘキモノナルトキハ其請求書ヲ當該府縣知事ニ送付スヘシ

第十三條第二號ヲ左ノ如ク改ム  
一 公務ニ就キ受ケル給料ト退職料トヲ合シタル金額退職現時ノ給料額ヲ超過スルトキハ其給料ノ支給ヲ始ムル日ノ前日ヲ以テ其差額ノ支給ヲ停メ其給料ノ支給ヲ終リタル日ノ翌日ヨリ支給ヲ復ス  
第十六條第三項中「委託スヘシ」ヲ「委託スルコトヲ得」ニ改メ同條第四項ヲ削除ス  
第二十條中「第五條」ヲ「第四條」ニ改ム

〔参照〕  
文部省令第二號市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料支給規則(明治二十五年二月十日)抄録  
第一條 市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料法第二條第三條第四條第七條ニ依リ退職料ヲ受ケヘキ者ハ退職料請求書ヲ作り退職ノ際勤務セシ小學校所屬市町村長ニ差出スヘシ  
第四條 退職料請求書ヲ受ケタル市町村長ハ事實ヲ取調請求ノ理由アリト認ムルトキハ之ヲ證明シ證據書類ヲ添ヘ府縣知事ニ差出スヘシ  
市町村長ニ於テ請求ノ理由ナシト認ムルトキハ意見ヲ具シテ之ヲ府縣知事ニ差出スヘシ  
第五條 府縣知事ニ於テ前條ノ請求ヲ許可シタルトキハ退職料證書ヲ作り之ヲ本人ニ交付スヘシ但退職料増加ノ爲更ニ退職料證書ヲ交付スルトキハ前ニ交付シタル證書ヲ返納セシムヘシ  
第六條 市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料法第八條第一項ニ依リ給與金ヲ受ケヘキ者ハ給與金請求書ヲ作り在職中ノ履歷書ヲ添ヘ退職ノ際勤務セシ小學校所屬市町村長ニ差出スヘシ市町村長ハ事實ヲ取調證據書類ヲ添ヘ府縣知事ニ差出スヘシ  
府縣知事ニ於テ前項ノ請求ヲ許可シタルトキハ辭令書ヲ作り之ヲ本人ニ交付スヘシ  
第七條 市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料法第十條第十一條第十二條ニ依リ扶助料又ハ扶助金ヲ受ケヘキ者ハ扶助料請求書又ハ扶助金請求書ヲ作り退職料ヲ受ケシテ死去シタル者ノ遺族ニ在リテハ死者ノ最終勤務セシ小學校所屬市町村長ニ退職料ヲ受ケ死去シタル者ノ遺族又ハ扶助料ノ請求ヲ受ケヘキ者ニ在リテハ居住地ノ市町村長ニ差出スヘシ  
市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料法第八條第三項ニ依リ給與金ヲ受ケタルコトヲ申立タル者ハ市町村長ヲ經テ府縣知事ノ承認ヲ受ケヘシ  
市町村長ハ其所屬市町村立小學校正教員遺族ノ扶助料又ハ扶助金ヲ受ケヘキ者アルトキハ扶助料又ハ扶助金ノ請求上必要



要ナル實績ヲ遺族ニ交付スヘシ

第八條 扶助料請求書又ハ扶助金請求書ニハ戶籍吏ノ作リタル戶籍調査及左ノ書類ヲ添付スヘシ  
一 市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料法第十條第一第二十二條ニ當ル者ノ請求書ニハ市町村長ヨリ交付シタル死者ノ履歴書

第九條 扶助料請求書又ハ扶助金請求書ヲ受ケタル市町村長ハ事實ヲ取調證據書類ヲ添へ扶助料又ハ扶助金ヲ支給スヘキ地ノ府縣知事ニ差出スヘシ  
府縣知事ニ於テ前項ノ請求ヲ許可シタルトキハ扶助料證書ヲ作り之ヲ本人ニ交付スヘシ其扶助金ニ係ルモノハ聯合會ヲ用フヘシ

第十三條 退職料ヲ受ケキ權利消滅シ若クハ停止セラルヘキ者ノ支給ノ終始ハ左ノ各項ニ依ルヘシ  
二 公務ニ就キ退職現時ノ俸給額ト同額以上ノ給料ヲ受ケタルトキハ其給料ノ支給ヲ始ムル日ノ前日ヲ以テ支給ヲ停メ其給料ノ支給ヲ終リタル日ノ翌日ヨリ支給ヲ復ス

第十六條 第三項及第四項  
退職料又ハ扶助料ヲ支給スヘキ地ノ府縣知事ハ毎期支給スヘキ退職料又ハ扶助料ヲ轉送若クハ寄附シタル地ノ府縣知事ニ送付シ其支給方ヲ委託スヘシ  
前項ノ委託ヲ受ケタル府縣知事ハ之ヲ本人ニ交付シ其領收證書ヲ發シテ委託ノ府縣知事ニ送付スヘシ

第二十條 府縣知事ハ第五條又ハ第九條ニ依リ退職料證書又ハ扶助料證書ヲ本人ニ交付スルト同時ニ之ヲ其本籍市町村長ニ通知スヘシ

○文部省令第十五號  
關東州小學校兒童及卒業生ハ他ノ學校へ入學轉學ノ關係ニ就キ明治三十三年勅令第三百四十四號小學校令ニ依リ設置シタル市町村立小學校ノ兒童及卒業生ト同一ノ取扱ヲ受ケ

明治四十年五月十四日  
文部大臣牧野伸顯

○文部省令第十六號  
京都帝國大學法科大學ニ法律學科及政治學科ヲ設ケ

本令ハ明治四十年九月十一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年五月十八日  
文部大臣牧野伸顯

○文部省令第十七號  
明治十六年太政官布達第三十四號醫術開業試驗規則中左ノ通改正ス

明治四十年五月二十八日  
文部大臣牧野伸顯

第六條第二項中第五ヲ第五ニ第六ヲ第七ニ改ム  
第七條ヲ左ノ如ク改ム

第七條 齒科試驗科目ヲ定ムルコト左ノ如シ  
第一 齒科解剖學  
第二 齒科生理學  
第三 口腔外科學及齒科病理學  
第四 齒科治術學  
第五 齒科藥物學  
第六 齒科技工學  
第七 實地試驗

前項試驗科目中第一乃至第六ヲ學說試驗科目トス學說試驗ト實地試驗トハ分テ之ヲ受ケルコトヲ得此場合ニ於テハ學說試驗ヲ先ニシ實地試驗ヲ後ニス

附則  
本令第七條ノ試驗科目ハ明治四十一年八月三十一日マテハ仍從前ノ規定ニ依ル

〔參照〕  
太政官布達第三十四號醫術開業試驗規則(明治十六年十月二十三日)抄錄  
第六條第二項  
前項後期試驗科目中第一乃至第五ヲ學說試驗科目トシ第六ヲ實地試驗科目トス學說試驗ト實地試驗トハ分テ之ヲ受ケ

明治四十年五月 省令 文部省第十七號

明治四十年五月 三二



コトヲ得此場合ニ於テハ學說試驗ヲ先ニシ實地試驗ヲ後ニス

第七條 齒科試驗科目ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 第一 齒科解剖及生理
- 第二 齒科病理及治療
- 第三 齒科用藥品
- 第四 齒科用器械
- 第五 實地試驗

前項試驗科目中第一乃至第四ヲ學說試驗トシ學說試驗ト實地試驗トハ分テテ受ケルコトヲ得此場合ニ於テハ學說試驗ヲ先ニシ實地試驗ヲ後ニス

○農商務省令第十號

府縣水產試驗場規程中左ノ通改正ス

明治四十年五月四日

農商務大臣松岡康毅

第六條ヲ左ノ如ク改ム

第六條 府縣水產試驗場ハ試驗ノ成績ニ付當業者ニ傳習ヲ爲シ又ハ漁獵、航海ニ關スル技術ノ練習ヲ爲サレムルコトヲ得

第七條ニ左ノ一號ヲ加フ

七 第六條ニ依リ傳習又ハ練習ヲ爲スモノニ在リテハ之ニ關スル規程

〔參照〕

農商務省令第二十二號府縣水產試驗場規程(明治三十二年八月一日)抄録

第六條 府縣水產試驗場ハ試驗ノ成績ニ付當業者ニ傳習スルコトヲ得

第七條 府縣水產試驗場ヲ設立セントスルトキハ地方長官ハ左ノ事項ヲ具シ農商務大臣ノ認可ヲ受ケルコトヲ要ス分場ヲ設ケントスルトキ亦同シ

○農商務省令第十一號

府縣水產講習所規程中左ノ通改正ス

明治四十年五月四日

農商務大臣松岡康毅

第三條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

府縣水產講習所ニ於テ遠洋漁業科ヲ設ケル場合ニ於テハ航海ニ關スル補助科目ヲ加フヘシ

第五條ニ左ノ但書ヲ加フ

但遠洋漁業科ニ付テハ五年以内ト爲スコトヲ得

〔參照〕

農商務省令第二十三號府縣水產講習所規程(明治三十二年八月一日)抄録

第五條 府縣水產講習所ノ修業年限ハ二年以内トス

○農商務省令第十二號

明治三十八年農商務省令第十號遠洋漁船検査規程中左ノ通改正ス

明治四十年五月十日

農商務大臣松岡康毅  
逕信大臣山縣伊三郎

第五條ヲ左ノ如ク改ム

第五條 遠洋漁船ノ上甲板ニハ海圖室、操舵室、炊事室、燈具室及廁ヲ除クノ外甲板室ヲ設ケヘカフ

ス但シ明治三十八年四月一日以前ニ製造シタル船舶ニシテ検査官吏ニ於テ漁獵業ニ支障ナレト認ムルモノ又ハ漁獲物處理運搬船若ハ特ニ農商務大臣ノ許可ヲ受ケタルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第十一條ニ左ノ一項ヲ加フ

上甲板下噸數二十噸未滿ノ遠洋漁船ニ在リテハ農商務大臣ノ許可ヲ受ケ木節及木船検査規程ノ



各條ニ定ムル構造方法及寸法ニ依ラサルコトヲ得

第十四條中「總噸數」ヲ「上甲板下噸數」ニ改ム

第十四條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第十四條ノ二 活魚船ヲ設クル遠洋漁船ニ在リテハ其ノ部分ノ肋骨ノ數ヲ減スルコトヲ得但レ此ノ場合ニ於テハ適當ノ補強工事ヲ爲スヘシ

第十六條ヲ左ノ如ク改ム

外板ノ幅ハ八時未滿内張板ノ幅ハ十二時未滿ト爲スヘシ

第十九條表中「スクリーナー」ノ欄ヲ左ノ如ク改ム

「スクリーナー」ケラチ「ヨール」	杉
「カッター」ラガー」ノ欄	長 九呎ニ付二吋

同表中「ジブブーム」フライングジブブーム」及「ブーム」ノ欄「長十五呎ニ付四吋」ヲ「長九呎ニ付二吋」ニ改ム

第三十九條ノ(甲)(乙)中各「メインスル」一箇」ヲ削ル

第四十條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ端艇、傳馬又ハ漁艇ヲ備フルモノニ在リテハ端艇、傳馬又ハ漁艇ノ容積十立方尺ニ付救命浮環又ハ救命浮帶一箇ノ割合ヲ以テ其ノ數ヲ減スルコトヲ得

○農商務省令第十三號

種畜種付規則左ノ通相定ム

明治四十年五月二十一日

農商務大臣松岡廣毅

種畜種付規則

第一條 左ニ掲グル資格ヲ有スル牝牛又ハ牝豚ノ所有者又ハ管理者ハ種牛牧場ニ種牝牛又ハ種牝

豚ノ種付ヲ出願スルコトヲ得

一 牝牛ニ在リテハ年齢滿二歳以上牝豚ニ在リテハ年齢滿十箇月以上ナルコト

一 牝牛ニ在リテハ身幹四尺以上ニ達シ又ハ體格均稱宜シキモノナルコト

一 惡質ノ疾病又ハ惡癖ナキコト

一 體格優美、體質健全ナルコト

前項ノ出願ヲ爲サントスル者ハ第一號様式ニ依ル願書ヲ種牛牧場長ニ差出スヘシ

第二條 種付ヲ行フ種牛牧場並種付ヲ行フヘキ種牝牛及種牝豚ノ種類ハ農商務大臣之ヲ告示ス

第三條 第一條ノ出願アリタルトキハ種牛牧場長ハ期日及場所ヲ定メ出願人ヲ種付牝牛又ハ牝豚

ヲ牽付ケシメ第一條第一項各號ノ事項ヲ検査シ検査ニ合格シタル牝牛又ハ牝豚ニ付種付合格證

ヲ交付スヘシ

前項ノ期日及場所ニ牝牛又ハ牝豚ヲ牽付ケサルトキハ出願ハ其ノ效力ヲ失フ

種付合格證ハ牝牛ニ在リテハ百日間牝豚ニ在リテハ五十日間有效トス

種付ヲ受ケヘキ牝牛又ハ牝豚カ種付合格證下付後第一條第一項ノ資格ヲ喪失シタルトキハ種付

合格證ハ其ノ效力ヲ失フ

第四條 種牛牧場長ハ前條第一項ノ検査ニ合格シタル牝牛又ハ牝豚ニ付種付ヲ行フヘキ日時及場

所ヲ定メ之ヲ出願人ニ通告スヘシ

第五條 牝牛又ハ牝豚ニ付種付ノ許可ヲ受ケタル者又ハ其ノ承継人ハ種付ヲ受ケル際種付合格證

ヲ携帶シ之ヲ當該吏員ニ示スヘシ

第六條 牝牛又ハ牝豚第一回ノ種付ヲ以テ受胎セサル場合ニ於テハ第一回種付ノ日ヨリ牝牛ニ在

リテハ六十日以内牝豚ニ在リテハ三十日以内ニ於テ第二回ノ種付ヲ請求スルコトヲ得

第九條ニ依リ種付施行ヲ延期シタル日數ハ前項ノ期間ニ之ヲ算入セス



第三條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ種付合格證ノ有効期間ヲ經過シタルモノノ外牝牛又ハ牝豚ノ検査ヲ行ハス

第七條 種付ヲ受ケル者ハ第一回ノ種付ヲ受ケムトスル際種付料トシテ牝牛ニ在リテハ一頭ニ付金三圓牝豚ニ在リテハ一頭ニ付金二圓ヲ納付スヘシ

前條ニ依ル第二回ノ種付ニ付テハ種付料ヲ要セス

第八條 種付料ヲ納付セントスル者ハ第二號様式ニ依ル納付書ニ種付料ニ相當スル收入印紙ヲ貼付シ之ヲ種牛牧場長ニ差出スヘシ

前項ノ納付アリタルトキハ種牛牧場長ハ其ノ適法ナルコトヲ認メタル後納付書ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニ掛ケ消印ヲ捺捺スヘシ

既納ノ種付料ハ之ヲ還付セス其過剩アル場合亦同シ

第九條 種牛牧場長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ検査又ハ種付ノ施行ヲ延期スルコトヲ得

一種牛牧場ニ於テ指定ノ期日ニ検査又ハ種付ヲ施行スルコト能ハサルトキ

一牝牛若ハ牝豚ノ飼養地又ハ其ノ附近又ハ牽付ノ際經過スヘキ地方ニ於テ獸畜傳染病ノ發生又ハ流行スルトキ

一種牝牛若ハ種牝豚又ハ検査若ハ種付ヲ受クヘキ牝牛若ハ牝豚ノ疾病傷痕其ノ他ノ事由ニ因リ検査又ハ種付ヲ行フコト能ハス又ハ種付ニ害アリト認メタルトキ

一疾病又ハ傷痕ニ因リ牝牛又ハ牝豚ヲ牽付クルコト能ハサルトキ

検査又ハ種付ヲ受ケル者其ノ牝牛又ハ牝豚カ前項第三號又ハ第四號ニ該當スル爲其ノ延期ヲ請求スル場合ニ於テハ其ノ検査又ハ種付ヲ受クヘキ期日ヲ豫定シテ種牛牧場長ニ届出ツヘシ

第四條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十條 種牛牧場長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シ種付ノ許可ヲ取消スコトヲ得

一種付ヲ行フヘキ期日及場所ニ牝牛又ハ牝豚ヲ牽付ケサル者

一第七條ニ依リ種付料ヲ納付セサル者

一種付ヲ受クヘキ者種付施行ニ付異議ヲ述ヘ又ハ當該吏員ノ指揮ニ從ハサル者

第十一條 種牝牛又ハ種牝豚ノ斃死 疾病其ノ他已ムヲ得サル事由ニ依リ種付ヲ行フコト能ハサルトキハ種牛牧場長ハ種付ヲ受クヘキ者ノ同意ヲ得テ種牝牛又ハ種牝豚ノ種類ヲ變更スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ種付ヲ受クヘキ者種牝牛又ハ種牝豚ノ種類ノ變更ニ同意セサルトキハ種付ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十二條 種付ヲ受ケタル者ハ種付ニ因リ生シタル損害ニ對シ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第十三條 牝牛又ハ牝豚ニ種付ヲ受ケタル者又ハ其ノ承繼人ハ其ノ仔牛又ハ仔豚ニ付血統證ノ下付ヲ種牛牧場長ニ出願スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ種牛牧場長ノ指定ニ從ヒ仔牛又ハ仔豚ノ検査ヲ受クヘシ

第十四條 種付ヲ受ケタル牝牛若ハ牝豚又ハ其ノ仔牛若ハ仔豚ノ所有者又ハ管理者ハ遲滞ナク左記ノ事項ヲ種牛牧場長ニ届出ツヘシ

一牝牛又ハ牝豚ノ分娩前之ヲ讓渡シタルトキハ其ノ年月日、讓受人ノ氏名、住所、牝牛又ハ牝豚斃死シタルトキハ其ノ年月日及事由

一牝牛又ハ牝豚分娩シタルトキハ其ノ生産ニ在リテハ其ノ年月日、仔牛ノ性、毛色又ハ仔豚ノ斃及性、死産ニ在リテハ其ノ年月日、斃性及事由

一仔牛又ハ仔豚ヲ讓渡シタルトキハ其ノ年月日、價額、讓受人ノ氏名、住所、仔牛又ハ仔豚斃死シタルトキハ其ノ年月日及事由



第十五條 種牛牧場長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シ種付出願ヲ許可セサルコトヲ得  
 一 種付ヲ受ケタル牝牛若ハ牝豚又ハ其ノ仔牛若ハ仔豚ノ飼養其ノ他ノ管理ヲ怠リタル者  
 一 第十條ニ依リ種付ノ許可ヲ取消サレタル者  
 一 前條ノ届出ヲ怠リタル者

第十六條 種牡牛ノ種付ハ種牛牧場吏員各地ニ出張シテ之ヲ行フコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テハ本則ニ依ル種牛牧場長ノ職務ハ出張吏員ヲシテ之ヲ行ハシムコトヲ得

第十七條 前條ノ場合ニ於テ種付ヲ行フヘキ期間、場所及種牡牛ノ種類並願書提出期間及場所等ハ豫メ之ヲ公告スヘシ

第十八條 第十六條第一項ノ場合ニ於テ第七條第一項ニ依リ納付スヘキ種付料ハ金五圓トス

第十九條 明治三十七年農商務省令第二號ハ之ヲ廢止ス

第一號様式ノ一

種牡牛種付願

一何種牝牛

名號

毛色

生年月

身幹

產地

血統

右種畜種付規則ヲ遵守致候間何種種牡牛ノ種付欲許可相成度此段相願候也

年月日

種牛牧場長宛

住所  
所有者又氏

名印

第一號様式ノ二

種牡豚種付願

一何種牝豚

毛色

生年月

產地

血統

右種畜種付規則ヲ遵守致候間何種種牡豚ノ種付欲許可相成度此段相願候也

年月日

種牛牧場長宛

住所  
所有者又氏

名印

第二號様式

種牡牛(豚)種付料納付書

一金何圓也

收入  
印紙

但シ何種種牡牛(豚)種付料

右納付候也

年月日

種牛牧場長宛

住所  
所有者又氏

名印

注意

一 收入印紙ハ消印スヘカラス

〔参照〕

明治三十七年三勅農商務省令第二號ハ種牛牧場種付規則ナリ



○農商務省令第十四號

明治三十五年三月農商務省令第四號ヲ左ノ通改正シ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年五月二十一日

農商務大臣松岡康毅

當省所管ニ係ル不動産登記囑託ニ關シ本官ノ代理トシテ左ノ通指定ス

大臣官房會計課長、山林局長、製鐵所長官、特許局長、大林區署長、鐵山監督署長、農事試驗場長、工業試驗所長、生絲検査所長、花菱検査所長、種牛牧場長、蠶業講習所長、水産講習所長、糖菜改良事務局長、沖繩縣知事

○農商務省令第十五號

遠洋漁業獎勵法施行細則中左ノ通り改ム

明治四十年五月二十五日

農商務大臣松岡康毅

逕信 大臣山縣伊三郎

第三條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第三條ノ二 漁業獎勵金ヲ受クヘキ遠洋漁船ニシテ本船ヲ以テ鯨蠟業ヲ爲スモノニ在リテハ砲

手ノ職務ハ漁船長又ハ漁船手ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ要ス

第五條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ願書及添付書類ハ各二通ヲ要ス

第七條前條ニ依リ遠洋漁船検査ヲ受クヘキ旨ノ通知ヲ受ケタル者ハ一ノ次ニ其ノ通知書ヲ添ヘテ

八字ヲ加フ

第九條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第九條ノ二 第八條ノ許可指令書ヲ受ケタル者ニシテ船舶ノ製造又ハ機關ノ据付ニ關シ其ノ仕様

ヲ變更セムトスルトキハ農商務大臣ノ許可ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テ變更ノ程度ニ應シ其ノ許可シタル漁船獎勵金ノ率ヲ變更スルコトアルヘシ

第三十條ヲ左ノ如ク改ム

第三十條 左ニ掲グル履歷ノ一ヲ有スル者ハ相當漁船職員試驗ヲ受クルコトヲ得但シ上級漁船職員試驗ヲ受クルニ適合スル履歷ヲ有スル者ハ下級漁船職員試驗ヲ受クルコトヲ得

甲種漁船長試驗

一 乙種漁船長免狀ヲ有シ一箇年以上遠洋漁船ニ乗組ミ其ノ職ヲ執リタルコト

二 各種船長、各甲種一等運轉士、各甲種二等運轉士又ハ乙種一等運轉士免狀ヲ有シ當テ一箇年以上遠洋漁船ニ乗組ミ船長又ハ運轉士ノ職ヲ執リタルコト

三 前號船舶職員ノ試験ヲ受クルニ適合スル履歷ヲ有シ内二箇年以上遠洋漁船ニ乗組ミ漁船ニ從事シタルコト

四 水産講習所漁撈科卒業證書ヲ有シ當テ二箇年以上遠洋漁船ニ乗組ミ漁船ニ從事シタルコト

乙種漁船長試驗

一 丙種漁船長免狀ヲ有シ一箇年以上遠洋漁船ニ乗組ミ漁船長又ハ漁船手ノ職ヲ執リタルコト

二 乙種二等運轉士又ハ丙種運轉士免狀ヲ有シ一箇年以上遠洋漁船ニ乗組ミ船長又ハ運轉士ノ職ヲ執リタルコト

三 前號船舶職員ノ試験ヲ受クルニ適合スル履歷ヲ有シ内二箇年以上遠洋漁船ニ乗組ミ漁船



- ニ從事シタルコト
- 四 水産講習所漁撈科卒業證書ヲ有シテ一箇年以上遠洋漁船ニ乗組シ漁獲ニ從事シタルコト
- 丙種漁獵長試験
- 一 漁獵手免狀ヲ有シ一箇年以上遠洋漁獵船ニ乗組シ共ノ職ヲ執リタルコト
  - 二 三箇年以上航洋帆船ニ乗組シ内一箇年以上遠洋漁獵船ニ乗組シ漁獲ニ從事シタルコト
  - 三 四箇年以上沖合漁業ニ從事シ及一箇年以上遠洋漁獵船ニ乗組シ漁獲ニ從事シタルコト
  - 四 道府縣水産講習所遠洋漁業科卒業證書ヲ有シテ一箇年以上遠洋漁獵船ニ乗組シ漁獲ニ從事シタルコト
  - 五 道府縣水産試験場ニ於テ二箇年以上遠洋漁獵船ニ乗組シ漁獲、航海ニ關スル技術ヲ練習シタルコト
- 漁獵手試験
- 一 二箇年以上航洋船ニ乗組シ内一箇年以上遠洋漁獵船ニ乗組シ漁獲ニ從事シ又ハ四箇年以上沖合漁業ニ從事シタルコト
- 第三十二條ニ左ノ一項ヲ加フ
- 農商務大臣ハ允當ト認ムル道府縣水産講習所遠洋漁業科ノ卒業證書ヲ有スル者ニ對シ試験ヲ用井スレテ丙種漁獵長免狀ヲ交付スルコトヲ得
- 第六號書式中成規書類ヲ添ヘシ七字ヲ削ル
- 第七號書式ヲ左ノ如ク改ム

第七號(縦一尺一寸)

第七號

遠洋漁船検査證書

本船番號	船名	總噸數	航路	航期	漁獲數	定員	船長	船員	船主	船種	又ハ船種	又ハ船種
				行從明治 年 月 日 至明治 年 月 日					主務業	所有所	定製所	又ハ船種
右検査ヲ送ケ此ノ證書ヲ交付ス												
明治 年 月 日												
管海官廳名印												

〔参照〕

農商務省令第十一號遠洋漁業獎勵法施行細則(明治三十八年三月三十一日)抄録

第五條 漁船獎勵金ヲ受ケムトスル者ハ書式第四號ニ依ル願書ニ左ノ事項ヲ添ヘ住所ノ管轄地方長官ヲ經由シ之ヲ農商務大臣ニ送付スル



第七條 前條ニ依リ逓洋流船検査ヲ受ケヘキ旨ノ通知ヲ受ケタル者ハ書式第六號ニ依ル申請書ヲ船前所在地ノ管轄官署ニ提出スヘシ

第三十條 流船職員試験ヲ受ケムトスル者ハ左ノ各款ノ一ニ該當スルコトヲ要ス

甲種流船長

一 乙種流船長免狀ヲ有シ一箇年以上其ノ職ヲ執リタル者又ハ各種船長 甲種一等運轉士甲種二等運轉士若ハ乙種一等運轉士ノ免狀ヲ有シ一箇年以上逓洋流船ニ乘組ミタル者

乙種流船長

一 丙種流船長免狀ヲ有シ又ハ水産講習所流船科卒業證書ヲ有シ二箇年以上逓洋流船ニ乘組ミタル者

丙種流船長

一 流船手免狀ヲ有シ一箇年以上逓洋流船ニ乘組ミタル者 四箇年以上航洋帆船ニ乘組ミ内一箇年以上逓洋流船ニ乘組ミタル者又ハ五箇年以上沖合ノ漁業ニ従事シ内一箇年以上航洋帆船ニ乘組ミタル者

流船手

一 流船夫ト爲リ二箇年以上逓洋流船ニ乘組ミタル者又ハ四箇年以上沖合ノ漁業ニ従事シタル者

○逓信省令第二十號

明治三十九年五月十二日 逓信省令第六十一號新聞電報規則第十五條ニ依ル新聞電報料金豫納及後納規則左ノ通相定ム

明治四十年五月三日

逓信大臣山縣伊三郎

新聞電報料金豫納及後納規則

第一章 豫納

第一條 新聞電報ノ發信人ニ於テ其ノ料金ヲ豫納セムトスルトキハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二條 發信人料金ヲ豫納セムトスルトキハ左記各款ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ指定發信局以下單ニ發信局ト稱スルヲ經テ逓信大臣ニ差出スヘシ

一 發信人所持ノ新聞電報發信證書 以下單ニ發信證書ト稱ス 記載シタル交付局名番號及發信人名

二 指定發信局

前項ニ依リ指定スヘキ發信局ハ一 二等郵便局又ハ電信局ナルコトヲ要ス

第三條 前條ノ申請ヲ許可スルトキハ發信局ヲレテ其ノ旨ヲ發信人ニ通知セシム

第四條 發信人前條ノ許可ヲ受ケタル後其ノ所持ノ發信證書ニ異動ヲ生シタルトキハ第二條第一項第一號ノ事項ヲ發信局ニ届出ツヘシ

第五條 發信人第三條ノ許可ヲ受ケタルトキハ其ノ通知ノ日ヨリ五日以内ニ通貨ヲ以テ料金ヲ發信局ニ豫納スヘシ

豫納スヘキ料金ノ最低額ハ發信人ノ差出ス電報ノ料金十五日分ヲ標準トシ發信局ニ於テ之ヲ定ム

第六條 料金豫納電報ヲ差出ストキ提示スヘキ發信證書ハ第二條ノ申請書ニ記載シ又ハ第四條ニ依リ届出ヲナシタルモノニ限ル

第七條 發信局ニ於テ豫納料金ノ殘額カ發信人ノ差出ス電報ノ料金五日分ニ滿タサルコトヲ認メタルトキハ其ノ旨ヲ發信人ニ通知ス發信人共ノ通知ヲ受ケタルトキハ更ニ料金ヲ豫納スヘシ其ノ金額ハ第五條第二項ノ例ニ依ル

第八條 料金豫納ノ電報ヲ差出ストキハ切手貼付欄内ニ「豫納」ト朱書シタル願信紙ヲ使用シ且其ノ端末ニ發信人記名捺印スヘシ

第九條 豫納料金ノ殘額ナキニ至リタルトキ又ハ其ノ殘額カ發信人ノ差出ス電報ノ料金ニ滿タラズルトキハ料金豫納電報ノ取扱ヲ停止ス

第十條 左記各款ノ一ニ該當スルトキハ第三條ノ許可ヲ無効トス

一 發信人第五條第一項ノ期間内ニ料金ヲ豫納セザルトキ

二 前條ノ停止期間一箇月以上ニ及ビタルトキ又ハ其ノ停止度數三回以上ニ及ビタルトキ



三 發信人發信證票ヲ所持セザルニ至リタルトキ  
第十一條 發信人料金ノ豫納ヲ廢止セムトスルトキハ發信局ヲ經テ其ノ旨ヲ逓信大臣ニ届出ツヘ

第二章 後納

第十二條 新聞電報ノ受信人ニ於テ其ノ料金ヲ後納セムトスルトキハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第十三條 料金ヲ後納スヘキ新聞電報ノ著信局ハ一二等郵便局又ハ電信局ナルコトヲ要ス

第十四條 受信人料金ヲ後納セムトスルトキハ左記各號ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ著信局ヲ經テ逓信大臣ニ差出スヘシ

一 新聞電報規則第五條ノ認可年月日

二 題號

三 發行所

四 受信人名

五 著信局

第十五條 前條ノ申請ヲ許可スルトキハ著信局ヲ經テ其ノ旨ヲ受信人ニ通知セシム

第十六條 受信人前條ノ許可ヲ受ケタル後新聞電報規則第五條第二項ニ依ル申請ノ認可ヲ受ケタルトキト雖第十四條第四號又ハ第五號ニ異動ヲ生スル場合ノ外其ノ許可ノ效ヲ失ハス

第十七條 受信人第十五條ノ許可ヲ受ケタルトキハ其ノ通知ノ日ヨリ十日以内ニ保證金ヲ著信局ニ納付スヘシ保證金額改定ノ爲其ノ追納ヲ要スルトキ亦同シ

第十八條 料金後納ノ電報ハ之ヲ差出ストキ後納發信證票ヲ提示シ且其ノ一葉ニ左記各號ノ事項

ヲ記載シ其ノ電報ニ添付スルコトヲ要ス但新聞電報發信證票ノ提示ヲ省略スルコトヲ得

一 發信人ノ記名及捺印  
二 受信人名  
三 電報料金  
四 電報字數  
五 發信年月日

第十九條 後納發信證票ハ著信局ニ於テ受信人ニ交付ス其ノ料金左ノ如シ

甲(五十葉)一綴 金五十錢  
乙(二十葉)一綴 金二十錢

第二十條 料金後納電報ノ發信人名及受信人名ハ其ノ電報差出ノトキ提示スル後納發信證票中ニ記載シタルモノニ限リ其ノ電報ノ著信局ハ該券ノ交付局ニ限ル

第二十一條 後納發信證票ヲ添付シテ差出シタル電報ノ料金ハ該券ノ交付ヲ受ケタル受信人ニ於テ其ノ納付ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十二條 後納ノ電報料金ハ一箇月分毎ニ計算シ翌月末日迄ニ著信局ヲ經テ受信人ニ通知セシム但シ計算未済ノモノアルトキハ次月以降ノ分ニ算入ス

第二十三條 受信人前項通知ノ日ヨリ十日以内ニ通貨ヲ以テ其ノ料金ヲ著信局ニ納付スヘシ

第二十四條 受信人前條ノ期間内ニ電報ノ料金ヲ納付セザルトキハ保證金ヲ以テ之ニ充テ尙不足アルトキハ之ヲ追徴ス

第二十五條 前條ニ依ル料金後納電報ノ取扱停止期間一箇月以上ニ及ビタルトキ又ハ其ノ停止度

ハ其ノ期間後納發信證票ノ交付ヲ停止シ且料金後納電報ノ取扱ヲ停止スルコトアルヘシ

第二十六條 前條ニ依ル料金後納電報ノ取扱停止期間一箇月以上ニ及ビタルトキ又ハ其ノ停止度

ハ其ノ期間後納發信證票ノ交付ヲ停止シ且料金後納電報ノ取扱ヲ停止スルコトアルヘシ

第二十七條 前條ニ依ル料金後納電報ノ取扱停止期間一箇月以上ニ及ビタルトキ又ハ其ノ停止度

ハ其ノ期間後納發信證票ノ交付ヲ停止シ且料金後納電報ノ取扱ヲ停止スルコトアルヘシ

第二十八條 前條ニ依ル料金後納電報ノ取扱停止期間一箇月以上ニ及ビタルトキ又ハ其ノ停止度

ハ其ノ期間後納發信證票ノ交付ヲ停止シ且料金後納電報ノ取扱ヲ停止スルコトアルヘシ

第二十九條 前條ニ依ル料金後納電報ノ取扱停止期間一箇月以上ニ及ビタルトキ又ハ其ノ停止度

ハ其ノ期間後納發信證票ノ交付ヲ停止シ且料金後納電報ノ取扱ヲ停止スルコトアルヘシ

第三十條 前條ニ依ル料金後納電報ノ取扱停止期間一箇月以上ニ及ビタルトキ又ハ其ノ停止度

ハ其ノ期間後納發信證票ノ交付ヲ停止シ且料金後納電報ノ取扱ヲ停止スルコトアルヘシ

第三十一條 前條ニ依ル料金後納電報ノ取扱停止期間一箇月以上ニ及ビタルトキ又ハ其ノ停止度

ハ其ノ期間後納發信證票ノ交付ヲ停止シ且料金後納電報ノ取扱ヲ停止スルコトアルヘシ

第三十二條 前條ニ依ル料金後納電報ノ取扱停止期間一箇月以上ニ及ビタルトキ又ハ其ノ停止度



數三回以上ニ及ハシタルトキハ第十五條ノ許可ヲ無効トス

第二十六條 受信人料金ノ後納ヲ廢止セムトスルトキハ交付ヲ受ケタル後納額債券ノ換給ヲ著信局ニ返付シ同時ニ該局ヲ經テ其ノ旨ヲ逓信大臣ニ届出ツヘシ

第二十七條 第二十五條ニ依リ許可無効ニ歸シタル後又ハ前條ノ届出ヲ爲シタル後ト雖受信人ハ第二十一條ノ義務ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十八條 第二十五條又ハ第二十六條ニ依リ料金後納ノ電報ヲ取扱ハサルニ至リタルトキト雖受信人カ後納スヘキ料金ヲ納付シタル後ニ非レハ保證金ヲ還付セス

附則

第二十九條 本令ハ明治四十年五月十一日ヨリ施行ス

○逓信省令第二十一號

勸業債券購買媒介規則左ノ通相定ム

明治四十年五月九日

逓信大臣山縣伊三郎

勸業債券購買媒介規則

第一條 日本勸業銀行ハ債券發賣ノ際豫メ其ノ相當數量ヲ各一等郵便局ニ回付シ購買者ノ請求ニ應ジ其ノ代金ノ取立ヲ委託スルコトヲ得

第二條 郵便局所ニ於テ前條ノ委託ニ對シ債券購買ノ媒介ヲ爲ス期間ハ其ノ都度之ヲ告示ス在外郵便局所及交通不便ノ島嶼ニ在ル郵便局所ニ於テハ債券購買媒介ノ取扱ヲ爲サス

第三條 勸業債券購買媒介ヲ請求セムトスルモノハ債券代金ニ對スル通常爲替振出請求書ヲ作製シ且其ノ特殊取扱指定欄ニ勸業債券購買ノ旨ヲ附記シ之ニ現金ヲ添ヘ郵便局所ニ差出レ爲替金受領證書ヲ受取ルヘシ但レ爲替料金ハ購買者ニ於テ之カ納付ヲ要セス

前項ノ場合ニ於テ郵便局所ハ通常爲替證書ヲ作製シ所轄一等郵便局ヲ經テ之ヲ郵便爲替貯金管理所ニ送付ス

理所ニ送付ス

第四條 一等郵便局ニ於テ前條第二項ニ依リ爲替證書ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ニ對スル債券ノ價格表記郵便ニ依リ購買者ニ送達ス

第五條 郵便爲替貯金管理所ニ於テ債券代金ニ對スル爲替證書ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ取纏メ其ノ總額ニ對シ更ニ集合爲替證書ヲ調製シ之ヲ日本勸業銀行ニ送達ス

第六條 債券賣切レ又ハ其ノ他ノ事由ニ依リ債券ノ交付ヲ爲ス能ハサルトキハ債券代金ハ之ヲ其ノ購買請求人ニ還付ス

第七條 勸業債券購買媒介取扱料金ハ債券(額面金)一通ニ付金十圓ノ割合ヲ以テ總テ日本勸業銀行ヨリ之ヲ徵收ス

附則

本令ハ明治四十年五月二十一日ヨリ之ヲ施行ス

○逓信省令第二十二號

明治三十七年十一月 逓信省令第六十九號貯蓄債券購買媒介規則ハ本日限り之ヲ廢止ス

明治四十年五月九日

逓信大臣山縣伊三郎

○逓信省令第二十三號

滿韓在勤文官加俸令及明治四十年三月勅令第三十七號ニ依リ滿韓及樺太ニ在勤スル官吏ニ支給スル加俸額左ノ通相定ム

高等官

月領本俸十分ノ五

判任官

五級俸以上ノ者 月領本俸十分ノ八  
六級俸以下ノ者 月領三十圓

本令ハ明治四十年六月一日ヨリ之ヲ施行ス但レ帝國鐵道廳釜山營業所ニ在勤スル官吏ニ付テハ同



營業所設置ノ日ニ遡リ之ヲ適用ス

明治三十九年十月十二日逓信省令第五十八號及明治四十年四月逓信省令第十二號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

明治四十年五月十七日

逓信大臣山縣伊三郎

〔參照〕

明治三十九年十二月二日逓信省令第五十八號ハ清國老嶺山外三箇所設置在勸官更知修支給額、明治四十年一月逓信省令第十二號ハ樺太ニ在勸スル航路樺嶺守ニ支給スル加修額ノ件ナリ

○逓信省令第二十四號

船鑑札規則左ノ通之ヲ定ム

明治四十年五月二十三日

逓信大臣山縣伊三郎

船鑑札規則

第一條 總噸數二十噸未満又ハ積石數二百石未満ノ船舶ハ左ニ掲ケルモノヲ除ク外日本ニ船籍港ヲ定メ船鑑札ヲ受有スヘシ

一 總噸數五噸未満又ハ積石數五十石未満ノ帆船

二 端舟其ノ他機杼ノヨリ以テ運轉シ又ハ主トシテ機杼ヲ以テ運轉スル舟

第二條 船鑑札ヲ受有スヘキ船舶ノ所有者ハ第一號書式ノ船鑑札交付申請書ヲ船籍港ヲ管轄スル地方官廳ニ差出スヘシ

管海官廳、日本ノ領事館、貿易事務館其ノ他相當官廳ニ於テ積量ノ測度ヲ受ケタル船舶ニ付テハ前項ノ申請書ニ積量ニ關スル證明書ヲ添附スヘシ

第三條 地方官廳ニ於テ前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ船舶ノ積量ヲ測度スヘシ但前條第二項ノ證明書ヲ差出シタルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

第四條 地方官廳ニ於テ前條ノ規定ニ依リ船舶ノ積量ノ測度ヲ爲シタルトキハ第二條第二項ノ規定ニ依リ差出シタル證明書ヲ適當ナリト認メタルトキハ第二號書式ノ船鑑札ヲ交付スヘシ

第五條 船鑑札ハ船舶ニ備置シ船長其ノ他船舶ヲ指揮スル者之ヲ保管シ當該官吏ニ於テ檢閲ヲ求ムルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第六條 船鑑札ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ又ハ船鑑札カ毀損シタルトキハ船舶所有者ハ二週間内ニ事由ヲ説明シ書換ヲ申請スヘシ

第七條 第二項ノ規定ハ船鑑札ニ記載シタル事項ノ變更カ積量ノ變更ニ係ル場合ニ之ヲ準用ス

第八條 船鑑札ニ記載シタル事項ノ變更カ積量ノ變更ニ係ルトキハ地方官廳ニ之カ改測ヲ爲スヘシ

第九條 第三條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十條 甲地方官廳ノ管轄區域内ニ船籍港ヲ定メタル船舶ノ船籍港ヲ乙地方官廳ノ管轄區域内ニ變更スルトキハ船舶所有者ハ二週間内ニ事由ヲ説明シ甲地方官廳ニ轉籍ヲ申請スヘシ

第十一條 前項ノ場合ニ於テハ甲地方官廳ハ運轉ナク前項ノ申請書ニ船鑑札遺帳ノ膠木、積量ノ測度ニ關スル書類ヲ添附シテ其ノ旨乙地方官廳ニ通知スヘシ

第十二條 行政區畫變更ノ爲メ船籍港カ甲地方官廳ノ管轄區域内ヨリ乙地方官廳ノ管轄區域内ニ轉屬シタルトキハ甲地方官廳ハ申請ヲ待テヌ運轉ナク船鑑札遺帳ノ膠木、積量ノ測度ニ關スル書類ヲ乙地方官廳ニ送付スヘシ

第十三條 行政區畫、土地ノ名稱又ハ地番號ノ變更アリタルトキハ船鑑札ニ記載シタル區畫、名稱又ハ番號ハ當然之ヲ變更シタルモノト看做ス但前項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 船鑑札カ滅失シタルトキハ船舶所有者ハ二週間内ニ事由ヲ説明シ再交付ヲ申請スヘシ

第十五條 地方官廳カ第六條若ハ前條ノ申請ヲ受ケタル場合、第八條第二項ノ通知ヲ受ケタル場



合又ハ第九條第一項ノ規定ニ依リ船鑑札臺帳ノ原本ノ送付ヲ受ケタル場合ニ於テ船鑑札ヲ交付スヘキモノト認ムルトキハ之ヲ船舶所有者ニ交付スヘシ

第十二條 左ニ掲グル場合ニ於テハ船舶所有者ハ二週間内ニ事由ヲ説明シ船鑑札ヲ管轄地方官廳ニ返還スヘシ

一 船舶カ滅失若ハ沈没シタルトキ又ハ解散セラレタルトキ

二 船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失シタルトキ又ハ船舶ノ存否カ六箇月間分明ナラザルトキ

三 船舶カ船舶法ノ規定ニ依リ船舶國籍證書ヲ受有スルニ至リタルトキ又ハ本則ノ規定ニ依リ船鑑札ヲ受有スルコトヲ要セサルモノト爲リタルトキ

前條ノ規定ニ依リ船鑑札ノ交付ヲ受ケタルトキハ船舶所有者ハ之ト引換ニ舊鑑札ヲ管轄地方官廳ニ返還スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ船鑑札ヲ返還スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ説明スヘシ

第十三條 船鑑札ヲ受有スヘキ船舶ニシテ船舶検査法ノ適用ヲ受クルモノノ所有者ハ管海官廳ニ積量ノ測定又ハ改測ヲ申請スルコトヲ得

第十四條 地方官廳又ハ管海官廳ハ隨時當該官吏ヲ船舶ニ臨視セシメ必要アリト認ムルトキハ積量ノ改測ヲ執行セシム

第十五條 第一條第五條第六條第一項第八條第一項第十條又ハ第十二條ノ規定ニ違反シタルトキハ船舶所有者ヲ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第十六條 本則ハ明治四十年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十七條 明治二十九年十月ニ逓信省令第二十五號船鑑札規則ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第十八條 本則施行ノ際現ニ船鑑札ヲ受有スル船舶ノ所有者ハ本則施行ノ日ヨリ五箇年内ニ於テ地方長官ノ定ムル期間内ニ更ニ船鑑札ノ交付ヲ申請シ現ニ受有スル船鑑札ヲ返還スヘシ

前項ノ期間内ト雖モ本則ノ規定ニ依リ船鑑札ノ書換又ハ再交付ヲ要スルトキハ遲滞ナク前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第二條第三條及第四條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十九條 本則施行ノ際現ニ受有スル船鑑札ハ本則ノ規定ニ從ヒ更ニ船鑑札ヲ受有スルニ至ルマテ本則ニ定ムル船鑑札ト同一ノ效力ヲ有ス

第二十條 第十二條ノ規定ハ本則施行前ニ同條ニ掲ケタル事由カ生シタルモ未ダ船鑑札ヲ返還セサル場合ニ之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テ同條第一項ニ定ムル期間ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第二十一條 前條ノ規定ニ違反シタルトキハ船舶所有者ヲ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第一號書式

船鑑札交付申請書

- 一 船種(汽船、帆船ノ別但發動機船ナルトキハ其ノ旨)船名
  - 二 船籍港 (當該市町村名)
  - 三 進水年月
  - 四 尺度 (船體ノ最大ノ長、幅、深)
  - 五 測定ヲ受ケントスル場所
  - 六 申請ノ事由(新造、外國船購入等)
- 右船舶ニ對シ船鑑札交付相成度此段申請候也
- 明治 年 月 日

住所

所有者 氏

名印

地方官廳名

御中



第二號書式

船鑑札	
第 號	住所
帆船	氏 名
丸	地方官廳名
明治 年 月 日	<input type="text"/>
捺印	

船籍港	長
幅	深
總噸數	登陸噸數
公務馬力 (汽船ニ限ル)	進水年月

長 (石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船船ニ在テハ記載スルコトヲ要セス)  
 深 (石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船船ニ在テハ積石數)  
 登陸噸數  
 公務馬力 (汽船ニ限ル)  
 進水年月

備考

- 一 發動機船ナルトキハ帆船ノ位置ニ發動機船ト記載スヘシ
- 二 船籍港ハ市ニ付テハ單ニ何市ト記載シ町村其ノ他之ニ類スル區畫ニ付テハ何種何町何村等ト記載スヘシ
- 三 船鑑札ノ寸法ハ曲尺堅五寸幅三寸厚及木質ハ適宜トス

○逓信省令第二十五號

明治四十年<sup>四</sup>逓信省令第十四號逓信官署經費渡切規則施行細則第十條ニ左ノ一項ヲ追加シ來ル六月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年五月二十七日

逓信大臣山縣伊三郎

三等郵便局長職務上ノ義務ニ違背シムルトキハ第一條第八號乃至第十號ノ種目ニ屬スル渡切經費交付額ヲ減額スルコトアルヘシ



○外務省令第三號

移民保護法施行細則左ノ通相定ム

明治四十年六月八日

外務大臣子爵林董

移民保護法施行細則

第一章 移民

第一條 移民保護法第一條ノ勞働ハ農業、漁業（露領沿海州及薩哈連島沿岸ニ於テ行フ漁業ヲ除ク）鑛業、工業、土木、運搬、建築、炊事、洗濯、裁縫、理髮、給仕及看病等ニ關スル勞働トス

第二條 移民渡航ノ許可ヲ受ケムトスルキハ渡航地、渡航ノ目的及渡航年限ヲ詳記シ本籍地又ハ寄留地ノ地方長官ニ出願スヘシ但シ寄留地ノ地方長官ニ出願スル場合ニ於テハ三箇月以上其ノ地ニ住居シタル事實ヲ證明スヘキ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

前項ノ出願書ニハ移民取扱人ニ依ル者ニ在リテハ移民取扱人之ニ違著シ移民保護法第三條ニ依リ保證人ヲ要スル地ニ渡航スル者ニ在リテハ保證人之ニ違著スヘシ但シ契約移民ニ在リテハ出願ノ際移民保護法第十三條第一項ノ契約書寫ヲ添附スヘシ

第三條 移民保護法第三條ニ依リ保證人ヲ定ムルニハキ地ハ外務大臣之ヲ告示ス

第四條 移民保護法第三條ノ保證人ハ本籍地又ハ寄留地ノ地方長官ニ於テ適當ト認ムル者ニ限ル

第二章 移民取扱人  
第五條 移民取扱人ヲシムトスル者ハ左ノ事項ヲ詳記シ外務大臣ニ出願シテ許可ヲ受ケヘシ但シ  
一 商號アルモノハ其ノ商號  
ニ在リテハ發起人又ハ取締役、株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ヨリ出願シ且定款ヲ添附スルコトヲ要ス



- 二 營業所
  - 三 營業資本金額
  - 四 營業年限ヲ定ムルモノハ其ノ年限
  - 五 移民ヲ渡航セシムヘキ地
  - 六 移民募集ノ方法及其ノ渡航前後ニ於ケル周旋方法
  - 七 出願者ノ履歷
  - 八 出願者ノ財産但シ合名會社及合資會社ニ在リテハ各社員ノ出資額及財産、株式會社ニ在リテハ株式ノ總數及一株ノ金額、株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ出資額、株式引受額及財産並株式總數及一株ノ金額
- 移民取扱人ノ相續人ニシテ其ノ營業ヲ繼續セムトスル者又ハ移民取扱人ノ營業ヲ讓受ケムトスル者ニ關シテハ前項ノ規定ヲ準用ス
- 第六條 移民取扱人前條ニ依リ許可ヲ受ケタル後左ノ場合ニ於テハ外務大臣ノ許可ヲ受クヘシ
- 一 前條第一項第二號乃至第六號ニ掲ケタル事項ヲ變更セムトスルトキ
  - 二 合名會社及合資會社ニ在リテ社員及其ノ出資額ヲ變更セムトスルトキ又ハ新ニ社員ヲ加入セシメムトスルトキ但シ新ニ社員ト爲リタル者ニ關シテハ其ノ履歷書及財産調書、出資額ヲ變更セムトスル者ニ關シテハ其ノ財産調書ヲ添付スルヲ要ス
  - 三 株式會社ニ在リテ資本金、株式ノ總數及一株ノ金額ヲ變更セムトスルトキ
  - 四 株式合資會社ニ在リテ無限責任社員及其ノ出資額又ハ株式引受額ヲ變更セムトスルトキ又ハ株式ノ總數及一株ノ金額ヲ變更セムトスルトキ
- 第七條 左ノ事項ハ移民取扱人ニ於テ一週間以内ニ外務大臣ニ届出ツヘシ
- 一 商號ノ新設、取得、變更又ハ廢止

- 二 開業ノ年月日
  - 三 業務執行社員又ハ取締役ノ選任、解任又ハ死亡ノ場合ニ於テハ其ノ氏名住所
  - 四 同一廳府縣内ニ於ケル主タル營業所ノ移轉
  - 五 支店又ハ出張所ノ廢置移轉
  - 六 前數號ニ掲ケタルモノノ外法令ノ規定ニ依リ登記シタル事項
  - 七 商事會社ニ在リテハ前條第二號乃至第四號ニ掲ケタルモノノ外定款ヲ變更シタルトキ
- 移民取扱人死亡シタルトキハ其ノ相續人ヨリ届出ヲ爲スヘシ
- 主タル營業所ヲ置ク廳府縣以外ノ地ニ於ケル支店又ハ出張所ノ廢置移轉ハ一週間以内ニ其ノ地ノ地方長官ニモ届出ツヘシ
- 第八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者及外務大臣ニ於テ不適當ト認ムル者ハ移民取扱人又ハ代理人タルコトヲ得ス
- 一 禁治產者及準禁治產者
  - 二 剝奪公權者及停止公權者
  - 三 家資分散又ハ破產ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタル時ヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者
  - 四 禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル時ヨリ其ノ裁判確定スルニ至ル迄ノ者
- 第九條 移民取扱人移民保護法第五條第二項ノ業務ヲ兼營セムトスルトキハ左ノ事項ヲ詳記シ外務大臣ニ出願シテ許可ヲ受クヘシ
- 一 兼營スヘキ業務ノ種類及其ノ業務ヲ經營セムトスル地方
  - 二 兼營スヘキ業務ト移民トノ關係
  - 三 兼營スヘキ業務ニ充當スヘキ資本金額
  - 四 兼營スヘキ業務經營ノ方法



移民取扱人移民渡航地ニ於テ業務ヲ兼營セムトスル場合ニ於テハ前項ノ出願書ニ該地方ノ狀況書ヲ添附スルヲ要ス

第十條 移民取扱人前條ニ依リ許可ヲ受ケタル後其ノ業務ノ兼營ヲ廢止セムトスルトキ又ハ前條第一項各號ニ掲ケタル事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事情ヲ詳記シ外務大臣ニ出願シテ許可ヲ受クヘシ

第十一條 移民保護法第十條ニ依リ移民取扱人ニ於テ代理人ヲ定メムトスルトキハ左ノ事項ヲ詳記シタル書類ヲ添附シ外務大臣ニ出願シテ許可ヲ受クヘシ  
一 代理人ノ權限  
二 代理人ノ履歴  
三 代理人ノ財産

外務大臣前項ノ許可ヲ與ヘタルトキハ附屬第一號書式ノ許可證ヲ移民取扱人ニ下付ス但シ移民取扱人ハ該許可證ヲ代理人ニ交付スヘシ

代理人ノ解任又ハ死亡ハ移民取扱人ニ於テ解任ノ日又ハ死亡ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ一週間以內ニ外務大臣ニ届出ツヘシ

第十二條 外務大臣ハ代理人ノ行爲法令ニ違反シタルトキ又ハ公益ヲ害スルモノト認メタルトキハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第十三條 移民取扱人又ハ代理人カ本店支店又ハ出張所ニ於テ使用スル事務員ノ選任ハ所在地地方長官ノ定ムル所ニ依リ同長官ニ出願シテ認可ヲ受クヘシ

地方長官ハ前項事務員ノ行爲法令ニ違反シタルトキ又ハ公益ヲ害スルモノト認メタルトキハ之カ解任ヲ移民取扱人又ハ代理人ニ命スルコトアルヘシ

第十四條 代理人共ノ業務ヲ行フトキハ許可證ヲ移民取扱人又ハ代理人ノ使用スル事務員共ノ事務ヲ行フトキハ認可證ヲ持シテ

事務ヲ行フトキハ認可證ヲ持シテ  
代理人死亡シタルトキ解任セラレタルトキ又ハ其ノ許可ヲ取消サンタルトキハ移民取扱人ハ過滞ナク許可證ヲ外務大臣ニ返納スルヘシ

移民取扱人又ハ代理人ノ使用スル事務員死亡シタルトキ又ハ解任セラレタルトキハ移民取扱人又ハ代理人ハ過滞ナク其認可證ヲ該地方長官ニ返納スルヘシ

第十五條 業務執行社員取締役又ハ代理人ニシテ移民渡航地ニ渡航スルトキ又ハ渡航地ヨリ歸國シタルトキハ移民取扱人ハ過滞ナク其ノ旨ヲ外務大臣ニ届出ツヘシ

業務執行社員取締役又ハ代理人ニシテ移民渡航地ニ到着シタルトキハ過滞ナク其ノ旨ヲ所轄在外帝國官廳ニ届出ツヘシ

第十六條 移民渡航地ニ在留スル業務執行社員取締役又ハ代理人ニシテ歸國ノ爲出發セムトスルトキ又ハ一時其ノ地ヲ立去ラムトスルトキハ所轄在外帝國官廳ニ出願シテ許可ヲ受クヘシ

在外帝國官廳カ前項歸國ノ許可ヲ與フル場合ハ他ノ業務執行社員取締役又ハ代理人カ其ノ地ニ在留スルトキニ限ル

第十七條 外務大臣必要ト認ムルトキハ移民取扱人カ移民渡航地内ニ於テ業務執行社員取締役又ハ代理人ヲ在留セシムヘキ場所ヲ指定スルコトアルヘシ

第十八條 移民渡航地ニ在留スル業務執行社員取締役又ハ代理人ハ移民名簿ヲ備ヘ移民ノ就業地職業及雇主ノ氏名ヲ明記シ且契約移民ニ付テハ資金支拂簿ヲ備ヘ官廳ノ命アル時ハ何時ニテモ之ヲ示スヘシ

第十九條 移民ニシテ渡航地外ニ轉住シタルトキハ其ノ渡航地ニ在留スル業務執行社員取締役又ハ代理人ハ過滞ナク其ノ氏名及轉住地ヲ在留地及轉住地ノ在外帝國官廳ニ届出ツヘシ



第二十條 移民取扱人移民ヲ募集セムトスルトキハ移民募集地方別確定表ヲ添附シ豫メ之ヲ主  
ル營業所ヲ置ク地ノ地方長官ニ届出ツヘシ

第二十一條 移民取扱人又ハ代理人移民募集ノ目的ヲ以テ新聞紙ニ廣告文ヲ掲載シ又ハ印刷物ヲ  
配付セムトスルトキハ豫メ其ノ募集地ノ地方長官ニ出願シテ認可ヲ受クヘシ

第二十二條 移民取扱人移民ノ募集ヲ爲スニ當リテハ自己所在ノ地又ハ業務執行社員若ハ取締役  
ノ在留スル地方ヲ除ク外代理人ヲシテ募集ノ期間共ノ募集ノ地ニ在留セシムルコトヲ要ス

第二十三條 移民保護法第十三條ノ契約書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 契約期限

二 手数料

三 渡航及歸航費用ノ支辨方法

四 賃金及賃金ノ支拂方法

五 渡航地ニ於ケル周旋方法

六 移民ノ疾病其ノ他困難ノ場合ニ於ケル救助又ハ歸國ノ方法

移民取扱人ハ前項契約書ノ全文ニ移民渡航地ノ狀況書ヲ添附シ移民本籍地又ハ寄留地ノ地方長  
官ニ出願シテ認可ヲ受クヘシ

第二十四條 移民取扱人移民ニ關シテ別人ト契約ヲ爲シタルトキハ該契約書寫ヲ添附シ其ノ  
旨ヲ主タル營業所ヲ置ク地ノ地方長官ニ届出テ且其ノ移民ノ渡航地ヲ管轄スル在外帝國官廳ニ  
モ届出ツヘシ

移民取扱人前項ノ契約ニ基キ移民ヲ募集セムトスルトキハ前條ノ手續ヲ爲スニ當リ該契約書寫  
ヲ添附スヘシ  
主タル營業所ヲ置ク地ノ地方長官必要ト認ムルトキハ第一項契約書ノ原本ノ提示ヲ命スルコト

アルヘシ

第二十五條 當該官廳ニ於テ移民保護法第十三條ニ掲ケタル契約書ヲ示スヘキコトヲ命シタルト  
キハ移民取扱人及移民ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十六條 移民保護法第十四條ニ依リ手数料ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ移民取扱人ハ移民ノ  
渡航地及手数料ノ額ヲ記載シ移民本籍地又ハ寄留地ノ地方長官ニ出願スヘシ

第二十七條 移民取扱人移民保護法第十五條ノ一ニ依リ豫定シタル移民ノ出發期日ヲ移民ニ通知  
スルニハ書面ヲ以テスルコトヲ要ス

移民取扱人前項ノ通知ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ主タル營業所ヲ置ク地及移民出發港所在地ノ  
地方長官ニ届出ツヘシ

第二十八條 移民出發港所在地ノ地方長官必要ト認ムルトキハ其ノ地ニ代理人ヲ在留セシムヘキ  
旨ヲ移民取扱人ニ命スルコトアルヘシ

第二十九條 移民取扱人移民ヲ渡航セシムルトキハ移民ノ出發ト同時ニ移民ノ氏名ヲ其ノ渡航地  
ヲ管轄スル在外帝國官廳ニ届出ツヘシ但シ契約移民ニ係ルトキハ移民保護法第十三條第一項ノ  
契約書寫ヲ添附スヘシ

第三十條 移民ノ身上ニ關スル異變其ノ他移民ニ關スル重要ナル事件ハ移民取扱人直ニ之ヲ外  
務大臣ニ届出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ移民渡航地ニ在留スル業務執行社員、取締役又ハ代理人ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ  
所轄在外帝國官廳ニ届出ツヘシ

第三十一條 移民取扱人ハ附屬第二號書式ニ依リ毎月末日渡航者名簿ヲ編製シ翌月五日起ニ又附  
屬第三號及第四號書式ニ依リ毎年末日歸國者名簿及死亡者名簿ヲ編製シ翌年三月三十一日起ニ

外務大臣ニ提出スヘシ



第三十二條 外務大臣必要ト認ムルトキハ別ニ定ムル移民取扱人同業組合規程ニ準據シ該組合ヲ設立スヘキコトヲ移民取扱人ニ命令ス

第三十三條 本章中移民取扱人ヨリ外務大臣ニ出願又ハ届出ヲ爲スヘキ場合及第三十二條ニ依リ名簿ヲ提出スヘキ場合ニ於テハ其ノ主タル營業所ヲ置ク地ノ地方長官ヲ經由スヘシ  
前項ノ場合ニ於テハ提出書類ノ原本一通ヲ添ヘ原本ト共ニ之ヲ地方長官ニ提出スヘシ

第三章 保證金

第三十四條 移民保護法第十六條ニ掲ケタル保證金ハ之ヲ主タル營業所ヲ置ク地ノ地方長官ニ納付スヘシ

第三十五條 移民取扱人ノ納付スヘキ保證金ノ額及其ノ増減ハ外務大臣之ヲ定ム

第三十六條 移民取扱人ノ納付スヘキ保證金ハ國債證券又ハ地方債證券ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得

前項國債證券及地方債證券ノ價格ハ其ノ納付ヲ受クヘキ地方長官ノ定ムル所ニ依ル  
本條證券ノ價格ニ異動アリタルトキハ地方長官ハ移民取扱人ヲレテ之ニ依リ生シタル不足額ヲ追納セシムヘシ

第三十七條 主タル營業所ヲ置ク地ノ地方長官ハ移民取扱人ノ保證金ノ増額ヲ追納セシム又ハ其ノ缺損ヲ填補セシムル場合ニ於テ一箇月以内ノ猶豫ヲ與フルコトヲ得

第四章 移民運送船

第三十八條 移民保護法第二十條ノ二ニ依リ命令ヲ以テ定ムル地方ハ外務大臣之ヲ告示ス

第三十九條 移民保護法第二十三條ノ二ニ依リ移民ノ員數ヲ算定スル場合ニ於テ五年以上十二年未満ノ者ハ二人ヲ以テ、二年以上五年未満ノ者ハ四人ヲ以テ一人ニ換算シ二年未満ノ者ハ之ヲ算入セズ

第四十條

移民運送船ニ依リ移民ノ運送ヲ爲サントスルトキハ左ノ事項ヲ詳記シ帝國運送業者ニ在リテハ其ノ本店所在地ノ地方長官ヲ經由シ外國運送業者ニ在リテハ帝國内ニ在ル共ノ代表者所在地ノ地方長官ヲ經由シ外務大臣ニ出願シテ許可ヲ受クヘシ但シ船籍證書有效移民運送船備船ナルトキハ備船契約書寫ヲ添附スルコトヲ要ス

- 一 商號アルモノハ其ノ商號
- 二 本店所在地
- 三 移民運送船

- 四 船長ノ國籍、住所、氏名
- 五 移民乘船港、到着港並寄航港

- 六 移民乘船港ヨリ到着港ニ至ル迄ノ航海豫定日數
- 七 營業資本金額

- 八 運送スヘキ移民ノ豫定人員

同一運送業者カ同一航路ニ使用スル移民運送船ハ二隻以上ヲ同一ノ願書ニ併記スルコトヲ得  
外務大臣必要ト認ムルトキハ出願者ノ履歷書、商會社ニ在リテハ其ノ定款ヲ提出セシムルコトアルヘシ

第四十一條 第三十八條ニ依リ外務大臣ノ告示シタル地方ニ於ケル一定ノ港ヘ一箇年二回以上航海ヲ爲ス移民運送船ニ關シテハ二回以上ノ運送ニ付同時ニ前條ノ出願ヲ爲スコトヲ得但シ一箇年ヲ超ニル期間ニ五ルコトヲ得ス

第四十二條 外務大臣移民運送船ニ依ル移民ノ運送ヲ許可シタルトキハ附屬第五號書式ニ依リ移民運送許可證ヲ下付ス

第四十三條 第四十條ノ許可ヲ受ケタル運送業者ニシテ同條第一項第三號及第五號ニ掲ケタル事



項ヲ變更セムトスルトキハ同條ノ手續ニ準シテ外務大臣ニ出願シテ許可ヲ受クヘシ

前項ノ運送業者第四十條第一項第一號第二號第四號第七號及第八號ニ掲ケタル事項ヲ變更シタルトキハ遲滞ナク同條ノ手續ニ準シテ外務大臣ニ届出ツヘシ

第四十四條 移民運送船ニ依リ移民ノ運送ヲ爲サムトスル者第四十二條ノ許可證ヲ下付セラレタルトキハ該許可證ヲ移民運送船長ニ交付スヘシ

移民運送船長ハ官廳ノ命アルトキハ何時ニテモ前項ノ許可證ヲ提示スヘシ

第四十五條 移民運送業者移民到着港ニ移民ノ運送ヲ了シタルトキハ遲滞ナク第四十條ノ手續ニ依リ運送許可證ヲ外務大臣ニ返納スヘシ第四十一條ノ出願ニ基キ下付セラレタル許可證ノ期間満了シタルトキ亦同シ

第四十六條 移民保護法第二十條ノ三第二項ニ依リ納付スヘキ保證金ノ額ハ外務大臣隨時之ヲ定ム

前項ノ保證金ハ第四十二條ノ許可證ヲ下付セラレタルトキ出願者ヨリ即時ニ之ヲ當該地方長官ニ納付スヘシ

本條ノ保證金ニ關シテハ第三十六條及第三十七條ノ規定ヲ準用ス

第四十七條 移民運送船ニ依リ移民ノ運送貨ニ關シテハ移民運送業者ハ第四十條ノ出願ト同時ニ同條ノ手續ニ準シテ豫メ外務大臣ニ出願シテ認可ヲ受クヘシ

第四十八條 運送業者第四十一條ノ出願ヲ爲ス場合ニ於テハ一定ノ期間ニ對スル運送貨ノ最高額ヲ定メ其ノ認可ヲ出願スルコトヲ得

運送業者前項ノ認可ヲ受ケタル後所定ノ期間内ニ運送貨最高額ノ増額ヲ爲サムトスルトキハ外務大臣ニ出願シテ増額ノ認可ヲ受ケルコトヲ要ス

第四十九條 前條ニ依リ運送貨最高額ノ認可ヲ受ケタル運送業者ハ運送貨ノ額ヲ定メ發航前五日迄ニ之ヲ移民乘船港所在地ノ地方長官ニ届出ツヘシ但シ運送貨ニ變更ナキ時ハ本條ノ届出ヲ要セス

第五十條 移民運送業者ハ移民運送船發航ノ日時ヲ豫メ移民乘船港所在地ノ地方長官ニ届出ツヘシ

第五章 雜則

第五十一條 金銀貸付ヲ業トスル者ニシテ移民ニ對シテ渡航費其ノ他渡航ノ準備ニ必要ナル金銀ヲ貸與セムトスルトキハ利率償還ノ方法其ノ他契約條件ノ要領ヲ記載シ其ノ所轄地方長官ニ出願シテ認可ヲ受クヘシ

第五十二條 前條ノ認可ヲ受ケタル金銀貸付業者ハ移民貸付金ニ付別ニ帳簿ヲ備ヘ置クコトヲ要ス

當該官吏ハ前項帳簿ノ検査ヲ行フコトアルヘシ此場合ニ於テ金銀貸付業者ハ其ノ検査ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十三條 移民出發港ニ於テ移民宿泊業ヲ營マムトスル者ハ其ノ地ノ地方長官ニ出願シテ許可ヲ受クヘシ

第五十四條 移民取扱人ニ非スシテ移民乘船ニ關スル周旋ヲ爲サムトスル者ハ移民乘船地ノ地方長官ニ出願シテ許可ヲ受クヘシ

第五十五條 前二條ノ許可及第五十一條ノ認可ノ出願手續ニ關スル規程並前二條ノ許可ヲ受ケタル者及第五十一條金銀貸付業者ノ取締ニ關スル規程ハ地方長官之ヲ定ム

第六章 罰則

第五十六條 第六條第十條第十三條第一項第十四條第十六條第一項第十八條第二十一條第二十二條第二十四條第一項第二項第二十五條第二十七條第三十條第三十一條第四十二條第

明治四十年六月 省令 外務省第三號 移民保護法施行細則



四十四條又ハ第五十二條ニ違反シタル者ハ五圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス  
第五十七條 第七條第三項、第十五條、第十九條、第二十條、第二十九條、第四十五條、第四十九條又ハ第五十條ニ違反シタル者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第五十八條 本令中地方長官トアルハ東京府ニ在リテハ警視總監トス  
第五十九條 本令ニ於テ在外帝國官廳ト稱スルハ帝國總領事館、領事館又ハ貿易事務館ヲ謂ヒ總領事館、領事館、貿易事務館ナキ地ニ於テハ帝國大使館及公使館ヲ謂フ  
第六十條 本令ハ明治四十年七月一日ヨリ之ヲ施行ス  
明治二十九年外務省令第三號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第一號書式

移民取扱人業務代理人許可證

移民保護法第十條ニ依リ

府 市 區

町 區

所在地何某ツシテ内地ニ於テ業務代理ヲ爲サシムルノ件許可ス

移民取扱人 氏 名

氏 名

外務大臣 氏 名

氏 名

名 圖

第二號書式

渡航者名簿	
渡航許可ノ官 關及年月日	氏名 族籍及職業 年齢 労働ノ種類 渡航地 本邦出發 年月日 契約期間
渡航者總數	

第三號書式

歸國者名簿	
渡航許可ノ官 關及年月日	氏名 族籍 在留地 本邦由發 年月日 歸著ノ年月日
歸國者總數	

第四號書式

死亡者名簿	
渡航許可ノ官 關及年月日	氏名 族籍 在留地 本邦由發 年月日 死亡ノ年月 日及年齢
死亡者總數	

第五號書式

移民運送許可證

移民運送業者住所 氏 名

氏 名

船 名	
船所有者住所氏名	
船長 氏名	
移民 乘 船 港	
移民 乘 船 港	
港間ノ寄航港	



移民到著港	
移民船港ヨリ到着港ニ至ル航海豫定日數	
運送スヘキ移民豫定人員	
許可期間	

右移民保護法第二十條ノ三ニ依リ許可ス

明治 年 月 日

外務大臣 氏 名 印

〔參照〕

明治二十九年五月二日外務省令第三號ハ本號ト同伴ナリ

○外務省令第四號

在外公館職員休暇規程中左ノ通改正ス

明治四十年六月十三日

外務大臣子爵林董

第四條中其ノ任地ヲ離レタル場合ト雖モノ下ニ本邦ニ歸リタルトキノ外ノ十一字ヲ加フ

〔參照〕

外務省令第五號在外公館職員休暇規程(明治三十九年十二月六日抄録)

第四條 休暇ヲ得タル在外公館職員ニハ其ノ任地ヲ離レタル場合ト雖モ仍在勤務ヲ給ス但シ在外公館長ノ休暇中代理ヲ受キタル場合ニ在テハ其ノ休暇期間又ハ休暇ヲ得タル日ヨリ歸國ノ日迄ノ期間カ二週間ヲ越ニルトキハ其ノ翌日ヨリ休暇満了ノ日又ハ歸國ノ日迄代理ニ對スル在勤務ヲ控除ス

○外務省令第五號

在外公館費用條例施行細則中左ノ通改正ス

明治四十年六月二十七日

外務大臣子爵林董

第十三條中「巡查徽章及帶具費」ヲ「巡查被服及帶具費」ニ改ム  
第十九條 刪除

〔參照〕

外務省令第三號在外公館費用條例施行細則(明治二十六年十一月四日抄録)  
第十九條 在外公館經費中實費精算ヲ要スル費用ニシテ外國貨幣ノ仕舞ニ係ルモノヲ金貨ニ換算スル場合ニ於テ單位未滿ノ端數ヲ生スルトキハ之ヲ四捨五入シテ單位ニ止ム

○內務省令第十一號

樺太ニ於テ鑛業ヲ許可スヘキ區域ハ當分ノ内「コルサコフ」ト「ブキ」間幹線道路ヲ以テ境界トシ其ノ以東全部トス

明治四十年六月四日

內務大臣原敬

○內務省令第十二號

明治四十年法律第二十一號第一條第二項ニ依リ樺太ニ於ケル租稅ノ種類及課率ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治四十年六月四日

內務大臣原敬

第一條 戶數割ハ左ノ等級ニ依リ之ヲ賦課ス	年額	一戶	金十二圓
一等	同	同	金十圓
二等	同	同	金八圓
三等	同	同	金七圓
四等	同	同	金六圓
五等	同	同	金五圓
六等	同	同	同







湯屋理髮業、代書人	年稅	金三圓
四等	同	金三圓
三等	同	金五圓
二等	同	金七圓
一等	年稅	金十圓
飲食店	年稅	金十二圓
貨座敷	年稅	金十二圓
第三條 雜種稅ノ種類及課率ハ左ノ如シ		
四等	同	金十五圓
三等	同	金二十圓
二等	年稅	金二十五圓
一等	年稅	金三十圓
醬油釀造業		
八等	同	金百圓
七等	同	金二百圓
六等	同	金三百圓
五等	同	金四百圓
四等	同	金五百圓
三等	同	金六百圓
二等	同	金八百圓
一等	年稅	金千圓

遊藝師匠、遊藝稼人俳優、相撲行司、常間	年稅	金二圓
興行	日稅	金一圓
劇場	年稅	金十圓
人寄席	同	金五圓
遊技場	同	金三圓
藝妓	同	金二圓
娼妓	同	金一圓
酌婦	同	金一圓
乘馬	年稅	金五十圓
乘用馬車、乘用馬櫓	同	金二圓
荷積馬車、荷積馬櫓	同	金二圓
荷積車、荷積櫓	同	金二圓
人力車、自轉車	同	金二圓
西洋形船舶 <small>（汽船、汽船、漁業專用ノモノヲ除ク）</small>	同	金二圓
日本形船舶 <small>（漁業專用ノモノヲ除ク）</small>	同	金十圓
狩獵	同	金一圓
鑛業	同	金五圓
砂礫採取	同	金一圓
市場	同	金一圓
一等	同	金三十圓
二等	同	金二十五圓



三等	同	金二十圓
四等	同	金十五圓
五等	同	金十圓
六等	同	金五圓

第四條 各納税人ニ對スル課税ノ等級ハ樺太廳長官之ヲ定ム

附則

本令ハ明治四十年六月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ年税ニ屬スルモノハ明治四十年度分ヨリ之ヲ徵收ス

○内務省令第十三號

明治三十二年内務省令第三十四號海港檢疫法施行規則左ノ通改正ス

明治四十年六月二十五日

内務大臣原敬

海港檢疫法施行規則

第一條 檢疫ヲ施行スル海港ハ橫濱港、神戸港、長崎港、門司港、下關港、若松港及口ノ津港トス其ノ他ノ海港ニ於テ臨時ニ檢疫ヲ施行スルトキハ告示ヲ以テ之ヲ指定ス

下關港、若松港ニ來ル船舶ハ門司港ニ於ケル檢疫所ノ檢疫ヲ受クヘシ

橫濱港ニ於テ檢疫ヲ受ケタル船舶ニシテ消毒ヲ要スルトキハ長濱ニ、口ノ津港ニ於テ檢疫ヲ受ケタル船舶ニシテ消毒ヲ要スルトキハ女神ニ回航セシム

檢疫所ニ於テ消毒ヲ施行シ能ハサル場合ハ内務大臣ハ消毒ノ必要アル船舶ヲ他ノ檢疫所ニ回航セシムルコトアルヘシ

第二條 檢疫ヲ施行スル傳染病ハ虎列刺、痘瘡、猩紅熱、ペスト、黃熱トス其ノ他ノ傳染病ニ對シ臨時檢疫ヲ施行スルトキハ告示ヲ以テ之ヲ指定ス

第三條 海港檢疫法第六條第一號ノ停留期間ハ消毒方法又ハ鼠族驅除ノ施行ヲ了リタル時ヨリ起算シ、ペストハ十日間、虎列刺、黃熱ハ五日間トス但シ同第三號ノ場合ニ於テハ傳染病流行地ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經過シ若ハ傳染病毒ニ汚染シタルト疑フヘキ事實アリタル時ヨリ起算ス

停船中ト雖モ檢疫官吏ハ一定ノ條件ニ該當スル場合ニ於テ停留ノ必要ナシト認ムル船客乘組員ノ上陸又ハ物件ノ陸揚ヲ許可スルコトヲ得

第四條 海港檢疫法第六條第一號乃至第四號ノ場合ニ於テ停留ノ必要アル船客乘組員ヲ檢疫所ニ移轉セシメタルトキハ消毒方法又ハ鼠族ノ驅除ヲ施行シタル船舶ノ停船ヲ解除スルコトヲ得

第五條 海港檢疫法第六條ノ處分ニ關シ鼠族ノ驅除ヲ施行シタル場合ニ於テ檢疫官吏ハ消毒方法ヲ施行セサル貨物ニ對シ條件ヲ附シテ陸揚ヲ許可スルコトヲ得

第六條 海港檢疫法第三條第一項ノ明告書ハ附録様式ニ據ルヘシ

第七條 傳染病及其ノ疑アル患者ハ檢疫所所屬ノ病院ニ入ラシムルコトヲ得但シ痘瘡又ハ猩紅熱ナルトキハ本人ノ請求ニ依リ相當ノ設備アル他ノ病院ニ入ラシムルコトヲ得

第八條 檢疫所ノ停留所ニ移轉セシメタル船客乘組員ニ傳染病ヲ發生シタルトキハ其ノ全部若ハ一部ノ人員ニ對シ更ニ第三條第一項ノ期間停留ヲ繼續ス

第九條 海港檢疫法第四條第一項第二號又ハ第三號ニ該當スル船舶ニシテ海外ノ港ニ於テ消毒ノ處分ヲ受ケタルモノト雖モ其ノ消毒ヲ受ケタル時ヨリ起算シ二週日以上ヲ經過セサルモノニ對シテハ同法第六條第三號ニ依リ處分スヘシ

第十條 死體ハ所定ノ場所ニ於テ火葬シ其ノ遺骨ハ引取人又ハ船長若ハ其ノ代理人ニ引渡スヘシ若シ引取人ナク船長若ハ其ノ代理人在ラサルカ又ハ引取ヲ拒ムトキハ行旅病人及行旅死亡人取扱法ニ依リ處分スヘシ

親族又ハ縁故アル者ヨリ死體引渡ヲ願出タルトキハ病毒傳播ノ虞ナシト認ムル場合ニ限り之ヲ



許可スルコトヲ得

第十一條 海港檢疫法第五條ノ場合ニ於テハ警察官吏ハ最寄檢疫所ニ回航セシムヘシ但シ船長又ハ其ノ代理人ノ請求アルトキハ本條第二項第三項ニ依リ處分スルコトヲ得

警察官吏若シ其ノ船舶ノ檢疫ヲ施行スル海港ニ回航セシムル場合又ハ相當ノ處置ヲ爲シ得ヘシト認ムル場合ニ於テハ最寄檢疫所ニ回航セシメス船長及其ノ他ノ乘組員ヲテ相當ノ消毒方法ヲ施行セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於ケル費用ハ船主、船長若ハ其ノ代理人ノ負擔トス前項ノ場合ニ於テ患者ヲ隔離スルノ必要アリト認メタルトキハ本人又ハ船主、船長若ハ其ノ代理人ヲテ實費ヲ仕拂ハシメ所定ノ場所ニ收容スルコトヲ得

第十二條 停船中ノ船舶ニシテ特別ノ事情ニ因リ船長又ハ其ノ代理人ニ於テ海外諸港ニ回航センコトヲ請求シタルトキハ檢疫官吏ハ相當ノ設備アル船舶ニ限リ條件ヲ附シテ之ヲ許可スルコトヲ得

第十三條 海港檢疫法第十條ノ二ニ依リ檢疫官吏ノ乗船スルハ左ノ各號ノ場合ニ限ル  
一 他ノ港ニ回航セシムルトキ  
二 帝國内他港ニ進航スル船舶内ニ傳染病ノ疑アル患者又ハ「ベスト」ノ疑アル鼠アリテ特ニ乗船調査ヲ必要ト認メタルトキ  
三 前條第二項ノ進航ヲ許可シタルトキ

第十四條 傳染病流行地及海港檢疫法第六條第六號ノ發航地又ハ寄港地ニ該當スヘキ地方ハ告示ヲ以テ之ヲ指定ス

前項後段ノ指定地方ヨリ横濱港又ハ神戸港ニ來航スル船舶ニ對シテハ鼠族ノ驅除ヲ行フモノトス但シ積荷ノ種類等ニ依リ檢疫官吏ニ於テ必要ナレト認ムル場合ハ此ノ限ニ在ラス  
前項以外ノ船舶ト雖モ積荷ノ種類其ノ他船内ノ狀況等ニ依リ必要ト認ムルトキハ消毒方法又ハ鼠族ノ驅除ヲ行フヘシ  
前二項ノ處分ヲ爲シタルトキハ船長又ハ其ノ代理人ノ請求ニ依リ其ノ證ヲ交付スヘシ  
本條ノ處分ヲ受ケタル船舶ニ對シテハ同一航海中再ヒ同一ノ處分ヲ行フコトナレ

第十五條 消毒費ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ徵收ス但シ内外國軍艦及帝國陸軍部隊ニ關スルモノハ此ノ限ニ在ラス

船舶消毒費	貳拾圓
登簿噸數百噸未滿	四拾圓
同百噸以上千噸未滿	六拾圓
同千噸以上二千噸未滿	貳拾圓
同二千噸以上一千噸未滿ヲ増ス毎ニ貳拾圓ヲ加フ	參拾圓
局部消毒費ハ各其ノ四分ノ一トス	
積荷消毒費 一箇ニ付	參拾圓
船客乘組員ノ衣服、手荷物、所持品ノ消毒費	
一等二等船客及之ニ準スヘキ乘組員	一人分ニ付 貳圓
三等船客及之ニ準スヘキ乘組員	一人分ニ付 貳拾圓

第十六條 檢疫所ニ移轉セシメタル者ノ食費、患者死者ニ關スル費用及鼠族驅除費ノ徵收額ハ地方長官之ヲ定ム



第十七條 内外國ノ病院船ニ對スル檢疫ハ軍艦ニ準シ之ヲ施行ス

第十八條 大和船、漁船等ニ對シテハ此ノ規則ヲ適用セス

附則

明告書

- 一、船種 船名
- 二、總噸數 登陸噸數
- 三、船主又ハ其ノ代理人
- 四、發航地名 發航月日
- 五、寄港地名 發着月日
- 六、船客 一等船客 二等船客 三等船客 其ノ他ノ船客 計
- 七、乘組員事務員以上ノ船員名
- 八、飲料水ヲ汲入シ若ハ食料ヲ積入レタル地名
- 九、積荷ノ種類及搭載セシ地名
- 十、發着中積荷、古稱等ノ有無若アラハ其ノ搭載地名
- 十一、出向地
- 十二、航海中寄港中及現在船中ニ「コレラ」成列刺黃熱、痘瘡、猩紅熱又ハ該病疑似症ノ有無
- 十三、航海中寄港中及現在船中ニ「コレラ」成列刺黃熱、痘瘡、猩紅熱ノ外病者ノ有無若アラハ其ノ病名
- 十四、航海中寄港中及現在船中ニ死者ノ有無若アラハ其ノ病名
- 十五、航海中寄港中「コレラ」成列刺黃熱、痘瘡、猩紅熱アリタル船及該ハシキ船トノ交置ノ有無
- 十六、航海中寄港中及現在船中ニ「コレラ」鼠又ハ鼠鼠ノ有無

十七、他港ニ於テ検査消毒停船ノ有無  
右之通相違無之候也  
年月日

船長 某印  
船醫 某印

○内務省令第十四號  
明治三十八年三月二十九日  
明治四十年六月二十九日

内務大臣原敬

〔參照〕

- 内務省令第四號(明治三十八年三月三十日)抄録
- 第一條 左ニ掲ケタル事項及其ノ變更停止又ハ廢止ハ内務大臣ノ認可ヲ受タルコトヲ要セス
- 一 河川ノ附屬物ノ新築改築又ハ除却工事ニシテ河身ニ影響ヲ及ボササルモノノ施行其ノ計畫及其ノ工費ノ豫算
- 二 堤防ノ構造又ハ取付ノ施行其ノ計畫及其ノ工費ノ豫算但シ對岸他府縣ニ屬シ又ハ上流若ハ下流他府縣ニ屬スル
- 三 堤防ニ施行スル掘削又ハ堤外ノ取付ハ此ノ限ニ在ラス
- 四 河川法第十七條ニ掲ケタル工作物ニシテ河身ニ影響ヲ及ボササルモノノ新築改築又ハ除却ノ許可但シ對岸他府縣ニ屬シ又ハ上流若ハ下流他府縣ニ屬スル場合ニ於テハ季節ヲ限リ一時許可スルモノノ外此ノ限ニ在ラス
- 五 河川ノ敷地又ハ流水ノ占用ニシテ河身ニ影響ヲ及ボササルモノノ一旦認可ヲ受ケタルモノノ繼續占用ノ許可
- 六 河川法第三十九條ニ依ル除却ノ除却ニシテ建築物以外ニ係ルモノ
- 七 第二條 第一條第一號乃至第四號ノ場合ハ府縣知事ニ於テ處分ノ後直ニ内務大臣ニ報告スヘシ但シ季節ヲ限リ一時許可セシモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

○内務省令第十五號  
明治三十二年四月二十九日  
明治四十年六月二十九日

内務大臣原敬

〔參照〕

- 内務省令第十一號(明治三十二年四月二十九日)抄録
- 第三條 此ノ省令ニ依リ府縣知事ニ於テ處分シタルモノハ直ニ土木監督署ヲ經由シ内務大臣ニ報告スヘシ



○大藏省令第二十二號

明治三十年大藏省令第九號保税倉庫法施行細則中左ノ通改正シ明治四十年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年六月一日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

第一條第一號ヲ左ノ如ク改ム

一 輸入無稅品

第五條但書中「庫移ノ爲メ」ヲ「輸入手數未済貨物ヲ庫移ノ爲メ」ニ改ム

第六條 保税倉庫ニ藏置シタル内國貨物ニシテ輸出ノ目的ヲ變更シ之ヲ内地ニ引取ラントスル者ハ其旨ヲ稅關又ハ稅關支署ニ申出許可ヲ受クヘシ

第八條 削除

第九條中其稅金ヲ假納シタルモノハ其際之ヲ拂戻スモノトスヲ削ル

第十條 回送貨物災害ニ因リ滅失シタルトキハ稅關又ハ稅關支署ニ申出承認ヲ受クヘシ

第十四條 庫入シタル貨物ノ藏置ニ付テハ稅關官吏ノ指揮ヲ受クヘシ

第十五條ノ二 一戸前ノ倉庫内ニハ輸入手數未済貨物ト内國貨物トヲ併セテ藏置スルコトヲ得ス

但稅關又ハ稅關支署ノ特許ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十六條ノ二 官設保税倉庫ニ貨物ヲ藏置シタル者ハ官設保税倉庫敷料定率表ニ依リ庫敷料ヲ納ムヘシ

第十七條 官設保税倉庫ニ貨物ノ庫入ヲ了シタルトキハ稅關又ハ稅關支署ハ稅關長若クハ稅關支署長ノ署名捺印シタル預證券ヲ貨主ニ交付ス

輸入手數未済貨物ノ預證券ニハ左ノ事項ヲ記載ス

一 貨物ノ品名、記號、番號、箇數及數量

二 庫入ノ年月日

三 貨主ノ住所氏名

四 倉庫所在地及番號

五 輸入稅額

六 庫敷料

内國貨物ノ預證券ニハ左ノ事項ヲ記載ス

一 貨物ノ品名、記號、番號、箇數及數量

二 庫入ノ年月日

三 貨主ノ住所氏名

四 倉庫所在地及番號

五 庫敷料

第二十條 官設保税倉庫ニ藏置シタル貨物ノ一部ヲ庫出セントスル者ハ預證券ヲ稅關又ハ稅關支署ニ差出スヘシ稅關又ハ稅關支署ハ其庫出シタル貨物ノ箇數、數量及庫出ノ年月日ヲ預證券ニ記入シタル上之ヲ還付ス

第二十四條中「保税倉庫ヲ設ケ輸入手數未済貨物ヲ保管スル業」ヲ「保税倉庫ノ業」ニ改ム

第二十六條第一項中「少クモ開業ノ日ヨリ十日前」ヲ「開業前」ニ改メ第二項ヲ削ル

第二十七條 擔保ハ左ノ割合ニ依リ之ヲ徵ス

平家建總坪數三百坪迄 金二千圓

以上二百坪迄ヲ増ス毎ニ金千圓ヲ加フ

二階建總坪數三百坪迄 金三千圓

以上二百坪迄ヲ増ス毎ニ金千五百圓ヲ加フ

明治四十年六月 省令 大藏省第二十二號

二七三



第三十七條ニ左ノ一項ヲ加フ  
 第三十八條中「滅失」ヲ削ル  
 第四十條ノ二 私設保税倉庫ノ庫主ハ防火其他藏置貨物ノ保安上必要ナル設備ヲ爲スヘシ  
 第五十二條中「第十六條」ヲ削ル  
 第五十四條中「調査」ヲ爲サントスルトキハ「」ヲ調査ヲ爲シ又ハ其保存上必要ノ行爲ヲ爲サントスルトキハ「」改ム  
 第五十七條 本規則ニ依ル官設保税倉庫敷料及手数料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得  
 收入印紙ヲ以テ庫敷料又ハ手数料ヲ納付セントスル者ハ納付書ニ貼附シテ之ヲ差出スヘシ

〔参照〕

大蔵省令第九號保税倉庫法施行細則(明治三十年六月二十三日)抄録

- 第一條 官設保税倉庫ニハ左ノ各項ニ關シタル物品ハ之ヲ藏置スルコトヲ得
  - 一 無税品
- 第五條 藏置貨物ヲ取移セントスル者ハ取移願書ヲ稅關又ハ稅關支署ニ送付シ庫移免狀ヲ受テヘシ但取移ノ爲メ同送付スルトキハ此限ニアラス
- 第六條 藏置貨物ヲ外國ニ積戻サントスル者ハ積戻願書ヲ船積港ノ稅關又ハ稅關支署ニ送付シ積戻免狀ヲ受テヘシ但同送貨物ナルトキハ第七條ノ同送免狀ヲ添付スヘシ
- 第八條 稅關又ハ稅關支署ニ於テ必要アリト認ムルトキハ貨主ヲシテ同送貨物ニ對シテ輸入稅金ヲ納付セシムヘシ
- 第九條 同送貨物仕向地ニ到達スルトキハ其同送免狀ニ仕向地ノ稅關又ハ稅關支署ノ證明ヲ受テ積戻地ノ稅關又ハ稅關支署ニ差出スヘシ其稅金ヲ假納シタルモノハ其際之ヲ拂戻スモノトス
- 第十條 同送貨物仕向地ニ到達セサルモノアルトキハ其貨物ニ對シテ稅金ヲ徵收ス但假納金アルトキハ其假納金ヲ以テ稅金ニ充テルモノトス
- 第十四條 庫入シタル貨物ハ稅關官吏ノ指定シタル場所ニ藏置スヘシ稅關官吏ノ許可ヲ受テレハ其場所ヲ變更スルコトヲ得ス

コトヲ得ス

- 第十七條 官設保税倉庫ニ貨物ノ庫入ヲ了シタルトキハ稅關又ハ稅關支署ハ稅關長若クハ稅關支署長ノ署名捺印シタル預證券ヲ貨主ニ交付ス
- 預證券ニハ左ノ事項ヲ記載ス
  - 一 貨物ノ品名、記載、番號、數量
  - 二 最初陸揚及庫入ノ年月日
  - 三 貨主ノ住所氏名
  - 四 倉庫所在地及番號
  - 五 輸入稅額
  - 六 庫敷料
- 第二十條 預證券ニ記載シタル貨物ノ一部ヲ庫出シタル者ハ其殘留スル貨物ニ對シテ預證券ヲ再渡ラシムヘシ
- 第二十四條 保税倉庫法ニ依リ保税倉庫ヲ設ケ輸入手數未清貨物ヲ保管スルノ業ヲ營ムントスル者ハ其倉庫ノ位置、構造、檢査、押數、藏置スル貨物ノ種類、營業年限ヲ記シタル書面及倉庫並附近ノ圖面ヲ送ヘ其倉庫ヲ設立セントスル地ノ管轄地方官ニ經由シテ大蔵大臣ニ出願スヘシ但會社又ハ外國會社ノ支店ニ在リテハ別ニ定款ノ附本ヲ添フヘシ
- 第二十六條 私設保税倉庫營業ノ特許ヲ得タル者ハ少クモ開業ノ日ヨリ十日前ニ擔保物ヲ供託シ其供託受領價ノ算ヲ進ヘ稅關又ハ稅關支署ニ届出シ
- 供託物ハ保税倉庫法ニ依リ庫主ニ屬スル義務ノ解除ニ至ルトキハ其官ヲ稅關又ハ稅關支署ニ申出テ稅關長又ハ稅關支署長ノ證明ヲ得テ之ヲ返戻テ受テヘキモノトス
- 第二十七條 擔保ハ左ノ割合ニ依リ之ヲ設ス但單ニ同一種類ノ物品ヲ藏置スル倉庫ニ在リテハ擔保金額ハ左ノ割合ノ範圍内ニ於テ特許又ハ藏置貨物ノ種類變更ノ際大蔵大臣之ヲ定ム
  - 一 平家總押數百坪迄 金二千圓
  - 二 以上五十坪迄ヲ増ス毎ニ金千圓ヲ加フ
  - 三 以上五十坪迄ヲ増ス毎ニ金千圓ヲ加フ
  - 四 二階總押數百坪迄 金三千圓
  - 五 以上五十坪迄ヲ増ス毎ニ金千五百圓ヲ加フ
- 第三十八條 私設保税倉庫藏置ノ貨物盜竊ニ罹リ又ハ紛失洩失シタルトキハ庫主ハ其貨物ニ對シテ輸入稅ヲ納ムヘシ
- 第五十二條 保税倉庫法第十六條第十七條及第二十七條ノ公告ハ關係ノ稅關又ハ稅關支署ニ通告スルノ外三日以上官報又ハ新聞紙ヲ以テ公告スヘシ
- 第五十四條 貨主其藏置貨物ノ調査ヲ爲サントスルトキハ稅關又ハ稅關支署ニ申出テ承認ヲ受テヘシ
- 第五十七條 本規則ニ依ル手数料ハ其金額ニ相當スル收入印紙ヲ貼付シテ納付スヘシ







(第二號書式)

寸法 縦四寸五分 ノモノ 三枚接綴

**交付金給付通知書**

領收 前記國庫債券正ニ領收候也 年月日 受取人 住所氏名 長官 副官	第(何)號 請求者 (住所氏名) 一金何百何拾何圓也 煙草專賣法第七十五條 第二項ニ依ル交付金 内 金何百圓也 國庫債券額 金何拾圓也 現金 右ノ通知付ス依テ國庫債券ハ日本銀行(何々支店)(何々代理店)ニテ受取ルヘシ現金ハ仕拂命令書ヨリ別ニ仕拂命令ヲ送付ス 年月日 煙草專賣局長官(氏名) 印	入式 領收 前記國庫債券正ニ領收候也 年月日 受取人 住所氏名
--	--	--

**裏面**

注意  
 國庫債券ヲ受取ラントスルトキハ此通知書ヲ指定ノ場所ヘ提供シ式ノ如ク署名捺印シテ之ヲ引替ニ受取ルヘシ

**國庫債券給付案内書**

第(何)號 請求者 (住所氏名) 一金何百圓也 煙草專賣法第七十五條第二項 ニ依ル交付金ノ内國庫債券額 右前記ノ者ヘ給付可ク之候 年月日 煙草專賣局長官(氏名) 印 日本銀行(何々支店)(何々代理店)宛 銀行 副官	第(何)號 請求者 (住所氏名) 一金何百圓也 煙草專賣法第七十五條第二項 ニ依ル交付金ノ内國庫債券額 右給付済ニ付報告候也 年月日 日本銀行(何々支店)(何々代理店)宛 煙草專賣局長官(氏名) 宛
---	---

**裏面**

注意  
 國庫債券ヲ給付シタルトキハ式ノ如ク記入捺印シテ即日煙草專賣局ヘ送付スヘシ  
 年月日ハ本人ヘ國庫債券ヲ給付シタル日ヲ記入スヘシ







本令ハ明治四十年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年六月十一日

司法大臣松田正久

○司法省令第十六號

名古屋地方裁判所管内「一宮區裁判所太田島出張所」ヲ「一宮區裁判所葉栗出張所」ト、「津島區裁判所井和出張所」ヲ「津島區裁判所七寶出張所」ト、「岡崎區裁判所豐岡出張所」ヲ「岡崎區裁判所豐高出張所」ト改稱ス

本令ハ明治四十年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

司法大臣松田正久

○司法省令第十七號

佐賀地方裁判所管内「佐賀區裁判所の出張所」ヲ「佐賀區裁判所仁比山出張所」ト、「佐賀區裁判所藤木出張所」ヲ「佐賀區裁判所島栖出張所」ト、「武雄區裁判所東郷出張所」ヲ「武雄區裁判所六角出張所」ト、「武雄區裁判所下宿出張所」ヲ「武雄區裁判所婿野出張所」ト改稱ス

本令ハ明治四十年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

司法大臣松田正久

○司法省令第十八號

和歌山地方裁判所管内「和歌山區裁判所鹽津出張所」ヲ「紀伊國海草郡加茂村」ニ移シ、「和歌山區裁判所加茂出張所」ト改稱ス

本令ハ明治四十年六月二十二日ヨリ之ヲ施行ス

司法大臣松田正久

○司法省令第十九號

和歌山地方裁判所管内御坊區裁判所ニ於テ其管轄ニ屬スル刑事事務ノ全部ヲ取扱フ

明治四十年六月十八日

司法大臣松田正久

本令ハ明治四十年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

○司法省令第二十號

千葉地方裁判所外四十三地方裁判所管内ニ左記甲號表ニ掲グル區裁判所出張所ヲ置ク  
明治二十六年司法省令第十號登記管轄區域表中乙號表ノ通改正ス  
本令ハ明治四十年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年六月十九日

司法大臣松田正久

甲號

名	稱	位	置
千葉	水更津區裁判所佐賀出張所	上總國若津郡佐賀町	
水戸	水戸區裁判所尖月出張所	常陸國西茨城郡尖月町	
宇都宮	佐野區裁判所宮田出張所	下野國足利郡宮田村	
浦和	川越區裁判所中山出張所	武藏國比企郡中山村	
前橋	高崎區裁判所鬼石出張所	上野國多野郡鬼石町	
静岡	吉原區裁判所上野出張所	駿河國富士郡上野村	
甲府	甲府區裁判所右左口出張所	甲斐國東八代郡右左口村	
長野	松本區裁判所露出出張所	信濃國東筑摩郡露出村	
京都	宮津區裁判所岩瀬出張所	丹後國興野郡岩瀬村	
大阪	池田區裁判所根根庄出張所	攝津國豐能郡根根庄村	



奈	瓦	奈其區裁判所富雄出張所	大和國生駒郡富雄村
神	戶	龍野區裁判所斑鳩出張所	播磨國揖保郡斑鳩村
大	津	彦根區裁判所河瀬出張所	近江國犬上郡河瀬村
和	歌	和歌山區裁判所山口出張所	紀伊國海草郡山口村
德	島	富岡區裁判所立江出張所	阿波國那賀郡立江村
高	知	安藝區裁判所和食出張所	土佐國安藝郡和食村
高	松	高松區裁判所中等居出張所	讚岐國香川郡中等居村
名	古	高松區裁判所北浦出張所	讚岐國小豆郡北浦村
安	津	半田區裁判所東浦出張所	尾張國知多郡東浦村
安	津	松阪區裁判所齋宮出張所	伊勢國多氣郡齋宮村
岐	阜	大垣區裁判所多良出張所	美濃國養老郡多良村
福	井	小濱區裁判所本郷出張所	若狹國大飯郡本郷村
金	澤	小松區裁判所白峯出張所	加賀國能登郡白峯村
富	山	魚津區裁判所舟見出張所	越中國下新川郡舟見町
廣	島	杉木區裁判所平出出張所	越中國東礪波郡平村
山	口	竹原區裁判所御手洗出張所	安藝國豐田郡御手洗町
山	口	山口區裁判所井關出張所	周防國吉敷郡井關村
松	江	大森區裁判所五十區出張所	石見國瀧渡郡五十區村

松	山	西條區裁判所土居出張所	伊豫國宇摩郡土居村
岡	山	岡山區裁判所撫川出張所	備中國野田郡撫川町
鳥	取	鳥取區裁判所安部出張所	因幡國八頭郡安部村
長	崎	大村區裁判所彼杵出張所	肥前國東彼杵郡彼杵村
佐	賀	佐賀區裁判所蓮池出張所	肥前國神埼郡蓮池村
福	賀	佐賀區裁判所田代出張所	肥前國三養基郡田代村
福	岡	福岡區裁判所箱崎出張所	筑前國箱崎郡箱崎町
大	分	白杵區裁判所佐賀關出張所	豐後國北海部郡佐賀關町
熊	本	八代區裁判所柿道出張所	肥後國八代郡柿道村
宮	崎	都城區裁判所高崎出張所	日向國北諸縣郡高崎村
仙	臺	仙臺區裁判所密畑出張所	陸前國宮城郡密畑村
福	島	白河區裁判所竹貫出張所	磐城國東白川郡竹貫村
山	形	新庄區裁判所桂川出張所	羽前國最上郡桂川村
盛	岡	宮古區裁判所川井出張所	陸中國下閉伊郡川井村
秋	田	秋田區裁判所新屋出張所	羽後國河邊郡新屋町
青	森	弘前區裁判所藤崎出張所	陸奥國南津輕郡藤崎村
函	館	八戸區裁判所戸來出張所	陸奥國三戸郡戸來村
函	館	江差區裁判所乙部出張所	渡島國留志郡乙部村



乙號

地方裁判所	區裁判所	出張所	千葉		水戸		宇都宮		浦和
			市	町	市	町	市	町	
地方裁判所	區裁判所	出張所	市	町	市	町	市	町	浦和
川越	佐野	水戸	千葉	水戸	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	浦和
武蔵	下野	常陸	上野	上野	下野	下野	下野	下野	武蔵
入間郡内 川越町 山田村	足利郡内 足利町 富田村	西茨城郡内 笠間町 大池田村	君津郡内 君津町 竹岡村	君津郡内 君津町 竹岡村	西茨城郡内 笠間町 大池田村	西茨城郡内 笠間町 大池田村	西茨城郡内 笠間町 大池田村	西茨城郡内 笠間町 大池田村	武蔵 山田村
芳野村 古谷村 南古谷村	香妻村	七倉村 西山内村 南山内村	中村 小承村 三島村	中村 小承村 三島村	北川根村 岩間村 大原村	北川根村 岩間村 大原村	北川根村 岩間村 大原村	北川根村 岩間村 大原村	武蔵 山田村
大井村 日東村 大田村	香妻村	北山内村	村 豐岡村 駒山村	村 豐岡村 駒山村	北川根村 岩間村 大原村	北川根村 岩間村 大原村	北川根村 岩間村 大原村	北川根村 岩間村 大原村	武蔵 山田村
大田村 田沼村	香妻村	北山内村	村 豐岡村 駒山村	村 豐岡村 駒山村	北川根村 岩間村 大原村	北川根村 岩間村 大原村	北川根村 岩間村 大原村	北川根村 岩間村 大原村	武蔵 山田村
大田村 田沼村	香妻村	北山内村	村 豐岡村 駒山村	村 豐岡村 駒山村	北川根村 岩間村 大原村	北川根村 岩間村 大原村	北川根村 岩間村 大原村	北川根村 岩間村 大原村	武蔵 山田村

札 稅 小樽區裁判所余別出張所  
根室區裁判所留別出張所  
後志區裁判所余別出張所  
千島區裁判所留別出張所

地方裁判所	區裁判所	出張所	甲府		靜岡		前橋		長野
			市	町	市	町	市	町	
地方裁判所	區裁判所	出張所	市	町	市	町	市	町	長野
甲府	甲府	甲府	甲府	甲府	靜岡	靜岡	前橋	前橋	長野
右左口	鶴岡	上野	大宮	大宮	上野	上野	上野	上野	長野
甲斐	甲斐	駿河	駿河	駿河	上野	上野	上野	上野	長野
東八代郡内 右左口村 白井河原村	東八代郡内 石和町 黒駒村 高家村 上原川村	富士郡内 富士根村 富丘村 北山村	富士郡内 富士根村 富丘村 北山村	富士郡内 富士根村 富丘村 北山村	多野郡内 多野町 神流村 新町	多野郡内 多野町 神流村 新町	多野郡内 多野町 神流村 新町	多野郡内 多野町 神流村 新町	長野 中山 武蔵
白井河原村 上曾根村 下曾根村 豊富村	英村 金生村 増田村 中川村	富丘村 北山村 芝富村	富丘村 北山村 芝富村	富丘村 北山村 芝富村	神流村 小野村 八輪村	神流村 小野村 八輪村	神流村 小野村 八輪村	神流村 小野村 八輪村	長野 中山 武蔵
豊富村	竹野原村 南八代村 北八代村 御代咲村 石蔵村	北山村 芝富村	北山村 芝富村	北山村 芝富村	八輪村 美土里村 平井村	八輪村 美土里村 平井村	八輪村 美土里村 平井村	八輪村 美土里村 平井村	長野 中山 武蔵
豊富村	竹野原村 南八代村 北八代村 御代咲村 石蔵村	北山村 芝富村	北山村 芝富村	北山村 芝富村	八輪村 美土里村 平井村	八輪村 美土里村 平井村	八輪村 美土里村 平井村	八輪村 美土里村 平井村	長野 中山 武蔵
豊富村	竹野原村 南八代村 北八代村 御代咲村 石蔵村	北山村 芝富村	北山村 芝富村	北山村 芝富村	八輪村 美土里村 平井村	八輪村 美土里村 平井村	八輪村 美土里村 平井村	八輪村 美土里村 平井村	長野 中山 武蔵

長野 松本 信濃 東筑摩郡内  
入山邊村  
島立村  
東筑摩郡内  
松本市  
中山邊村  
中山村  
東筑摩郡内  
片丘村  
芳川村  
廣丘村



神戶		奈良		大阪		京都			
龍野		奈良		池田		宮津			
斑鳩	播磨	宮城	郡山	根尾	地黃	岩瀬	加悦		丹後
斑鳩	播磨	宮城	郡山	根尾	地黃	岩瀬	加悦	丹後	丹後
太田村	赤穂村	生駒村	平城村	西郷村	東郷村	府中村	桑畑村	桑畑村	桑畑村
太田村	赤穂村	生駒村	平城村	西郷村	東郷村	府中村	桑畑村	桑畑村	桑畑村
太田村	赤穂村	生駒村	平城村	西郷村	東郷村	府中村	桑畑村	桑畑村	桑畑村

徳島		和歌山				大津		
富岡		新宮	田邊	和歌山		彦根		
立江	羽ノ浦	三尾川	江住	山口	河内	多賀	近江	近江
立江	羽ノ浦	三尾川	江住	山口	河内	多賀	近江	近江
阿波	阿波	紀伊	紀伊	紀伊	近江	近江	近江	近江
那賀郡ノ内	那賀郡ノ内	東牟婁郡ノ内	西牟婁郡ノ内	海草郡ノ内	和歌山市	海草郡ノ内	大上郡ノ内	大上郡ノ内
立江村	坂野村	三尾川村	江住村	山口村	和歌山市	海草郡ノ内	大上郡ノ内	大上郡ノ内
坂野村	坂野村	三尾川村	江住村	山口村	和歌山市	海草郡ノ内	大上郡ノ内	大上郡ノ内
坂野村	坂野村	三尾川村	江住村	山口村	和歌山市	海草郡ノ内	大上郡ノ内	大上郡ノ内



名古屋	高松					高知	
	高松					安藝	
平田	北浦	中笠	土庄	一宮	和食	土佐	土佐
尾張	廣岐	廣岐	廣岐	廣岐	土佐	土佐	土佐
尾張	北浦村 大部村	香川郡内 中笠居村 下笠居村 笠打村 蓮紙村	小豆郡内 土庄町 瀨崎村 四海村 豐島村 大佛村	香川郡内 一宮村 佛生山町 多肥村 淺野村 川岡村 國盛村 大野村	高松市 香川郡内 宮島村 栗林村 東濱村 太田村 栗田村 雄雄島村 直島村 木田郡内 木太村 湯元村 庵治村 古高松村 半田村	安藝郡内 安藝町 伊尾木村 川北村 東川村 土居村 井ノ口村 畑山村 穴内村	和食村 赤野村 萬ノ上村 四分村

小松	臨井		岐阜		安濃津				
	小松		大垣		越前				
白峯	別宮	本郷	高段	多瓦	高田	齊宮	相可	東浦	
加賀	加賀	若狹	若狹	美濃	美濃	伊勢	伊勢	尾張	
白峯村 尾口村大字 五球島 釜谷	能美郡内 別宮村 河野村 吉成村 尾口村大字 東二口 女原 戸 東野谷 尾口	大飯郡内 本郷村 佐分利村 加斗村 大島村	大飯郡内 高段村 内浦村 青堀村 和田村	養老郡内 多瓦村 時村 一之瀬村 牧田村	養老郡内 高田町 笠郷村 廣輪村 上多度村 下多度村 多郷村 小畑村 日吉村 養老村	多美郡内 齊宮村 東黒部村 大滝村 上御嶽村 下御嶽村 明星村	多美郡内 相可村 四外城田 佐奈村 津田村 丹生村 川瀬村 飯南郡内 神山村 肘和村	東浦郡内 東浦村 大府村 有松町	尾張郡内 横須賀町 八幡村 大高町 上野村



富山						金澤	
魚津			富山			七尾	
杉木新	舟見	泊	三日市	長澤	八尾	中島	七尾
平	舟見	泊	三日市	長澤	八尾	中島	七尾
越中	越中	越中	越中	越中	越中	越中	越中
東礪波郡内 平井村 上平村	東礪波郡内 城端町 大礪波村 北野村 豊谷村 山田村 南山田村	下新川郡内 泊町 五箇庄村 宮前村 境村 南保村 大原庄村	下新川郡内 三日市町 村椿村 生池町 石田村 大布高村 東布高村 前澤村 田家村 萩生村 若郷村 浦山村	富川村 古里村 古澤村 朝日村 池多村 富川村 千屋村	八尾町 保内村 宝牧村 宮川村 杉原村 黒川谷村 卯花村 細入村 野後村 仁歩村 大長谷村 山田村	鹿島郡内 中島村 熊木村 西岸村 豊川村 笠原保村 金ヶ崎村	鹿島郡内 七尾町 島屋村 越路村 東渡村 西渡村 矢田堀村 徳田村 堀村 高階村 相馬村 田嶋渡村 赤堀村 石崎村 南大谷村 北大谷村 崎山村

松江				山口		廣島	
大森		三隅		今市		竹原	
大森	三隅	松江	三隅	今市	山口	竹原	廣島
石見	石見	石見	石見	出雲	出雲	安藝	安藝
大森町 大森村 大園村 大久利村 坂原村 湯里村 仁乃村	三隅町 三隅村 古市村 井野村 西渡村 大森村	那賀郡内 高城村 三隅村 石見村 有馬村 大内村 周布村 長濱村	那賀郡内 高城村 三隅村 石見村 有馬村 大内村 周布村 長濱村	那賀郡内 三隅町 三隅村 古市村 井野村 西渡村 大森村	那賀郡内 三隅町 三隅村 古市村 井野村 西渡村 大森村	那賀郡内 三隅町 三隅村 古市村 井野村 西渡村 大森村	那賀郡内 三隅町 三隅村 古市村 井野村 西渡村 大森村



松山					
松山				五十猛	
西條	三島	麻生	北條	伊豫	
泉川	三島	麻生	北條	伊豫	
伊豫	伊豫	伊豫	伊豫	伊豫	
新居郡内 金子村 神戶村 宇原郡内 別子山村	宇原郡内 三島町 二名村 松柏村 新居郡内 金子村 神戶村 宇原郡内 別子山村	伊豫郡内 三内村 伊豫郡内 三内村	伊豫郡内 北條町 栗井村	松山市 五十猛村 伊豫郡内 湯山村 雄勝村 南吉井村 伊豫村 新居村	
關川村 野田村	中曾根村 川之江町 上分村	龜部村 拜志村 荏原村 坂木村 浮穴村	磯波村 淺海村 立岩村 正岡村 河野村	湯山村 桑原村 桑原村 生石村 小野村 石井村 久米村 三津村 久米村 和氣村 古三津村	
天備村 藤崎村 上居村 豐岡村	伊島村 石井村 白石村 一宮村 高田村	角野村 中森村 垣生村		朝美村 川上村 和氣村 古三津村	

岡山					
岡山			土居		
笠岡	片上	岡山		土居	
西江原	小野田	和氣	備前	備中	備前
備中	備前	備前	備前	備中	備前
後月郡 小田郡内 大江村	赤鷲郡内 佐伯北村 可成村	和氣郡内 和氣町 日笠村 赤鷲郡内 石生村	備前郡内 英保村 山田村 神根村 三國村 藤野村 水窪村	備前郡内 早島町 早洲村 早洲村 早洲村 早洲村	備前郡内 關川村 野田村 天備村 藤崎村 上居村 豐岡村
	佐伯木村 佐伯上村 豐田村 小野田村 湯濱村				







宮崎 郡城	鹿屋			熊本 八代		大分 白杵		
	高崎 日向	庄内 日向	志布志 大隅	百引 大隅	柳道 肥後	宮原町 肥後	佐賀町 豊後	
北諸縣郡ノ内 高崎村	北諸縣郡ノ内 庄内村 西嶽村 山田村 志和池村	東志布志 村 西志布志 大崎村	百引村 市成村 野方村	肝原郡ノ内 鹿屋村 花園村 給瓦村 大給瓦村 高隈村	八代郡ノ内 柳道村 栗木村 久遠子村 椎原村 仁田尾村 下岳村	八代郡ノ内 宮原町 河保村 鏡町 文政村 野津村 和興島村 吉野村 有佐村 南嶺山村 北嶺山村 小瀬村 龜森村	北海部郡ノ内 佐賀町 一尺屋村	北海部郡ノ内 白杵町 中白杵町 佐志生村 下江村 海邊村 上南津留村 下南津留村 上北津留村 下北津留村 市原村 上浦村

		福島 白河		仙臺		
		竹貫 磐城	石川 磐城	廣瀬 陸前	原町 陸前	陸前
柏倉門 羽前	上ノ山 羽前	東白川郡ノ内 竹貫村 宮木村	石川郡ノ内 石川町 澤田村 野木澤村 泉村 須釜村 藤田村 小平村 舟畑村 中谷村 山楳村 山白石村	名取郡ノ内 秋保村	宮城郡ノ内 原町 岩切村 高砂村 七郷村 名取郡ノ内 六郷村	仙臺市 名取郡ノ内 西多賀村 生田村 宮城郡ノ内 七北田村
南村山郡ノ内 柏倉門 水澤村 村木澤村 山先村	南村山郡ノ内 上ノ山町 中川村 金井村 宮生村 西郷村 水庄村 東村 細田村 大字山 高瀬 中川村					



秋田		盛岡		山形			
秋田	盛岡	新庄	山形				
羽後	川井	鮎川	谷地	東根	天童		
羽後	陸中	羽前	羽前	羽前	羽前		
河邊町 新庄町 由利町 下波村	秋田市 南秋田町 寺内村 河邊町 牛島町	下閉伊町 宮古町 千鶴村 下閉伊町 川井村	最上町 新庄町 最上町 鮎川村	西村山町 谷地町 北村山町 大富村	北村山町 東根町 小田島村	東村山町 天童町 福山村 北村山町 山口村	
豐田村 豐岩村 川邊村	大平村 旭川村 外旭川村 川尻村	赤松村 赤松村 赤松村 赤松村	赤松村 赤松村 赤松村 赤松村	赤松村 赤松村 赤松村 赤松村	赤松村 赤松村 赤松村 赤松村	赤松村 赤松村 赤松村 赤松村	

函館		青森					新庄
江登		八月		弘前			新庄
熊石	波島	戸來	五戸	藤崎	黒石	陸奥	新庄
後志	波島	陸奥	陸奥	陸奥	陸奥	陸奥	羽後
久遠町 長磯村	熊石町 熊石村	三月町 戸來村	三月町 五戸村	藤崎村 十二里村	黒石町 山形村 大字	弘前市 和徳村 西目屋村 相馬村	河邊町 新庄町 由利町 下波村
		野澤村	倉石村 淺田村 豊崎村	光田寺村 大字 川邊	宮木館村 六郷村 常盤村 金田村 淺田石村 光田寺村	清水村 大浦村 船津村 駒館村 岩木村	



札幌小樽		乙部 釧路	留志郡ノ内
古平 後志		乙部 函館	留志郡ノ内
余別 後志		乙部 青森	青森郡ノ内
函館 千島		乙部 秋田	秋田郡ノ内
青森 千島		乙部 岩手	岩手郡ノ内
青森 千島		乙部 宮城	宮城郡ノ内
青森 千島		乙部 福井	福井郡ノ内
青森 千島		乙部 石川	石川郡ノ内
青森 千島		乙部 富山	富山郡ノ内
青森 千島		乙部 山梨	山梨郡ノ内
青森 千島		乙部 長野	長野郡ノ内
青森 千島		乙部 岐阜	岐阜郡ノ内
青森 千島		乙部 愛知	愛知郡ノ内
青森 千島		乙部 三重	三重郡ノ内
青森 千島		乙部 滋賀	滋賀郡ノ内
青森 千島		乙部 京都	京都府ノ内
青森 千島		乙部 大阪	大阪府ノ内
青森 千島		乙部 兵庫	兵庫府ノ内
青森 千島		乙部 奈良	奈良府ノ内
青森 千島		乙部 和歌山	和歌山府ノ内
青森 千島		乙部 徳島	徳島府ノ内
青森 千島		乙部 香川	香川府ノ内
青森 千島		乙部 高松	高松府ノ内
青森 千島		乙部 愛媛	愛媛府ノ内
青森 千島		乙部 高知	高知府ノ内
青森 千島		乙部 福岡	福岡府ノ内
青森 千島		乙部 佐賀	佐賀府ノ内
青森 千島		乙部 熊本	熊本府ノ内
青森 千島		乙部 鹿兒島	鹿兒島府ノ内
青森 千島		乙部 那覇	那覇府ノ内

○文部省令第十八號  
東京美術學校圖畫師範科ノ修業年限、學科目及其ノ程度並ニ入學ニ關スル規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治四十年六月五日

文部大臣 牧野伸顯

東京美術學校圖畫師範科規程

- 第一條 東京美術學校圖畫師範科ノ修業年限ハ三箇年トス
- 第二條 東京美術學校圖畫師範科ノ學科目ハ倫理、教育學及教授法、美學及美術史、解剖學、圖案法、自在畫、幾何畫法、手工、習字、英語、教授練習及體操トス
- 第三條 前條各學科目ノ每週教授時數ハ左ノ如シ

倫理	學科目		
	第一學年	第二學年	第三學年
一	一	一	一

教育學及教授法	二	二	二
美學及美術史	二	二	二
解剖學	二	二	二
圖案法	二	二	二
自在畫	一九	一九	一八
幾何畫法	三	三	二
手工	四	四	二
習字	二	二	二
英語	二	二	二
教授練習	二	二	一〇
體操	二	二	二
合計	三九	三九	三九

學校長ハ臨時必要ト認メタル場合ニ於テハ前項各學科目ノ每週教授時數ヲ増減シ若ハ科外附屬ヲ開クコトヲ得

第四條 東京美術學校圖畫師範科ニ入學ヲ許可スヘキ者ハ師範學校又ハ中學校ヲ卒業シタル者及專門學校入學者檢定規程ニ依リ檢定ヲ受ケタル者ニシテ年齢二十四年以下身體健全品行方正ナル男子ニ就キ地方長官之ヲ薦舉シ東京美術學校長其ノ中ヨリ試験ノ上之ヲ定ム  
必要ト認メタルトキハ東京美術學校長ハ前項地方長官ノ薦舉ニ依ラスレテ入學ヲ許可スルコトヲ得



第五條 生徒ニ缺員アルトキハ東京美術學校長ハ前條ノ資格ヲ有シ且當該學生ニ相當スルニカテ有スル者ニ就キ試験ノ上入學ヲ許可スルコトヲ得

○文部省令第十九號

東京美術學校圖畫師範科卒業生服務規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治四十年六月五日

文部大臣牧野伸顯

東京美術學校圖畫師範科卒業生服務規程

第一條 東京美術學校圖畫師範科卒業生ハ卒業證書受領ノ日ヨリ五箇年間圖畫ニ關スル教職ニ從事スル義務ヲ有ス但シ最初ノ二箇年間ハ文部大臣ノ指定ニ從ヒ奉職スル義務アルモノトス

第二條 前條ノ義務ヲ盡スコト能ハサル事故生シタルトキ其ノ理由ヲ具シテ義務ノ免除ヲ文部大臣ニ出願スルコトヲ得

第三條 服務期間内左ノ各號ノ一ニ該當スル者アルトキハ其ノ在學中支給シタル學費ヲ償還セシム但シ情狀ニ依リ其ノ全部又ハ一部ノ償還ヲ免除スルコトアルヘシ

一 正當ノ事由ナクシテ第一條ノ義務ヲ盡シタルトキ

二 懲戒免職ニ處セラレタルトキ

三 免許狀被奪ノ處分ヲ受ケタルトキ

四 前條ノ事由ニ因リ第一條ノ義務ヲ免除セラレタルトキ

第四條 服務期間内ニ於テ東京美術學校研究科又ハ他ノ學校ニ入學セントスル者アルトキハ時宜ニヨリ之ヲ許可スルコトアルヘシ但シ在學中ノ期間ハ服務期間中ニ算入セス

○文部省令第二十號

明治三十三年文部省令第十四號小學校令施行規則中左ノ通改正ス

明治四十年六月十五日

文部大臣牧野伸顯

明治四十年六月十五日

文部大臣牧野伸顯

第四百八十八條月俸表中本科正教員ノ欄十級及准教員ノ欄六級ヲ削ル

附則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ施行ス

○文部省令第二十一號

東北帝國大學農科大學ハ本年九月一日ヨリ開設ス

東北帝國大學農科大學ニハ農學科、農藝化學科、林學科及畜產科ヲ置キ農學科、農藝化學科ハ本年九月十一日ヨリ林學科、畜產科ハ明治四十三年九月十一日ヨリ其ノ授業ヲ開始ス

明治四十年六月二十四日

文部大臣牧野伸顯

○農商務省令第十六號

鑛山監督分析、檢定及鑑定規則左ノ通相定ム

明治四十年六月十五日

農商務大臣松岡康毅

鑛山監督分析、檢定及鑑定規則

第一條 鑛山監督署ニ鑛物及鑛產物ノ分析、檢定又ハ鑑定ノ依頼ヲ爲ス者ハ第一號乃至第三號標式ノ依頼書ニ現品ヲ添ヘテ之ヲ差出スヘシ

前項ノ依頼ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第二條 鑛物又ハ鑛產物ノ分析ノ爲差出スヘキ現品ノ分量ハ四十匁以上一匁以下トス但シ石炭類ニ付テハ一斤以上十斤以下、鑛油類ニ付テハ五合以上トス

石炭類及鑛油類ノ檢定ノ爲差出スヘキ現品ノ分量ハ其ノ分析ノ爲差出スヘキモノト同一トス

前二項ノ分量ハ特ニ鑛山監督署長ノ許可ヲ得テ之ヲ増減スルコトヲ得

第三條 鑛山監督署長ハ必要アリト認ムルトキハ依頼者ニ對シテ更ニ相當分量ノ差出ヲ命ヘルコトアルヘシ

トアルヘシ



第四條 分析又ハ檢定ノ爲差出シタル現品ハ之ヲ還付セス  
鑑定ノ依頼ノ爲差出シタル現品ハ差出ノ際豫メ申出アリタルモノニ限り之ヲ還付スヘシ  
前項ノ還付ニ要スル費用ハ依頼者ノ負擔トス

第五條 本則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號様式  
分析依頼書

收入  
印紙

- 一 品名 何々
- 二 產地 何々
- 三 分析スヘキ成分  
定性(又ハ定量)  
一何々  
一何々

右分析及御依頼候也  
年 月 日

現住所

依頼者 氏

名印

何礦山監督署長氏名殿

備考

- 一 品名ノ項ニハ分析依頼品ノ名稱ヲ記スヘシ
- 二 產地ノ項ニハ礦物ニ付テハ市町村字又ハ礦山名ヲ記シ礦産物ニ付テハ市町村字、礦山名、製煉場又ハ製造場名ヲ記スヘシ
- 三 依頼書ニ依リテ數品ノ分析ノ依頼ヲ爲ス場合ニ於テハ品名ヲ列記シ且ツ品名毎ニ產地及分析スヘキ成分ヲ順次列記スヘシ

第二號様式

檢定依頼書

收入  
印紙

- 一 品名 何々
- 二 產地 何々
- 三 檢定ノ目的  
一何々  
一何々

右檢定及御依頼候也  
年 月 日

現住所

依頼者 氏

名印

何礦山監督署長氏名殿

備考

- 一 品名ノ項ニハ檢定依頼品ノ名稱ヲ記スヘシ
  - 二 產地ノ項ニハ礦物ニ付テハ市町村字又ハ礦山名ヲ記シ礦産物ニ付テハ市町村字、礦山名、製煉場又ハ製造場名ヲ記スヘシ
  - 三 依頼書ニ依リテ數品ノ檢定ノ依頼ヲ爲ス場合ニ於テハ品名ヲ列記シ且ツ品名毎ニ產地及檢定スヘキ成分ヲ順次列記スヘシ
- 各現品又ハ其ノ包裝ニハ符號又ハ番號例之いふ又ハ第一號、第二號等ヲ標記シ且ツ品名ニ該符號又ハ番號ヲ附記スヘシ

第三號様式

鑑定依頼書



收入  
印紙

- 一 依頼品 何種
  - 二 產地 何々
- 右鑑定及御依頼候也  
年月日

現住所

依頼者 氏

名印

備考

- 一 產地ノ項ニハ續物ニ付テハ市町村字又ハ嶺山名ヲ記シ續産物ニ付テハ市町村字、嶺山名、製練時又ハ製造時ノ記スヘシ
- 二 一依頼書ニ依リ數品ノ鑑定ノ依頼ヲ爲ス場合ニ於テハ各現品又ハ其ノ包裝ニ符號又ハ番號例之いろ又ハ第一號、第二號等ヲ標記シ且ツ依頼品ノ項ニ其ノ符號又ハ番號ヲ列記スヘシ

○農商務省令第十七號

種牡牛検査法施行規則左ノ通相定ム

明治四十年六月十七日

農商務大臣松岡康毅

種牡牛検査法施行規則

第一條 種牡牛ノ検査ヲ受ケムトスル者ハ地方長官ニ願出ツヘシ

第二條 種牡牛ノ検査ハ地方長官毎年一回之ヲ行フ但シ地方長官ハ必要ト認ムルトキハ臨時検査ヲ行フコトヲ得

前項ノ検査ハ地方長官産牛業ニ經驗アル者及所屬官吏タル獸醫ノ中ヨリ各一人以上ノ検査員ヲ命シ之ヲ行フ但シ臨時検査ノ場合及島嶼ニ於テハ検査員一人ヲ以テ検査ヲ行フコトヲ得

第三條 種牡牛検査ノ標準ヲ定ムルコト左ノ如シ

一年齡十八箇月以上ナルコト

一 高サ四尺以上ナルコト

一 體格強健ニシテ性質善良ナルコト

一 惡質ノ疾病又ハ惡癖ナキコト

地方長官ハ前項ノ標準ニ依リ検査合格ノ資格ヲ定ムヘシ

第四條 検査ニ合格シタル種牡牛ハ其ノ左角ニ烙印シ同時ニ所有者又ハ管理者ニ別記様式ノ證明書ヲ下付ス但シ左角ナキ牛ニ付テハ前肢左蹄ニ烙印ス

第五條 證明書ハ其ノ道府縣限リ有效トス

第六條 地方長官ハ特ニ優良ト認ムル種牡牛ニ限リ滿三箇年以内ニ於テ證明書ノ有効期間ヲ伸長スルコトヲ得

第六條 左ノ場合ニ於テハ種牡牛ノ所有者又ハ管理者ハ三十日以内ニ證明書ヲ地方長官ニ返納スヘシ

一 證明書ノ有効期間滿了シタルトキ

一 種牡牛斃死シタルトキ

一 種牡牛ノ用ヲ廢シタルトキ

一 種牡牛検査法第三條第二項ニ依リ證明ヲ取消サレタルトキ

第七條 種牡牛ノ種付ヲ爲ストキハ其ノ所有者又ハ管理者ハ證明書ヲ携帯スヘシ

證明書ハ當該官吏又ハ種付ヲ受ケムトスル牝牛ノ所有者若ハ管理者ヨリ其ノ閱覽ヲ請求スルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第八條 種牡牛ノ所有者又ハ管理者ノ異動ヲ生シ又ハ其ノ住所、氏名ヲ變更シタル場合ニ於テハ種牡牛ノ所有者又ハ管理者ハ地方長官ニ届出テ證明書ノ書換ヲ受クヘシ但シ種牡牛ノ所有者ニ

種牡牛ノ所有者又ハ管理者ハ地方長官ニ届出テ證明書ノ書換ヲ受クヘシ但シ種牡牛ノ所有者ニ

種牡牛ノ所有者又ハ管理者ハ地方長官ニ届出テ證明書ノ書換ヲ受クヘシ但シ種牡牛ノ所有者ニ

種牡牛ノ所有者又ハ管理者ハ地方長官ニ届出テ證明書ノ書換ヲ受クヘシ但シ種牡牛ノ所有者ニ



異動アリタルトキハ讓渡人ノ連署ヲ要ス

證明書ヲ毀損又ハ滅失シタルトキハ種牡牛ノ所有者又ハ管理者ハ之ヲ地方長官ニ届出テ其ノ再渡ヲ受クヘシ但シ毀損ニ因リ再渡ヲ受クル場合ニハ原證明書ヲ返納スヘシ

第九條 種牡牛ノ所有者又ハ管理者ハ帳簿ヲ調製シ種付ケテ受ケル牝牛ノ種類、年齢、毛色、高サ、特徴、種付ケ年月日及其ノ所有者又ハ管理者ノ住所、氏名ヲ記載スヘシ

第十條 牝牛ノ所有者又ハ管理者ニ於テ其ノ仔牛ノ血統證ヲ請求スルトキハ種牡牛ノ所有者又ハ管理者ハ正當ノ事由ナクシテ之カ交付ヲ拒ムコトヲ得ス

第十一條 地方長官ハ證明書ヲ下付シタル種牡牛ニ付其ノ種類、年齢、毛色、高サ及所有者又ハ管理者ノ住所、氏名ヲ管内ニ告示スヘシ第六條第一號乃至第四號ノ場合又ハ第八條ニ依リ證明書ヲ書換又ハ再渡シタル場合亦同シ

第十二條 地方長官ハ當該官吏ヲシテ種牡牛ノ狀況、仔牛ノ成績及第九條ノ帳簿ヲ調査セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ種牡牛及仔牛ノ所有者又ハ管理者ハ其ノ調査ヲ拒ムコトヲ得ス

第十三條 地方長官ハ第二條第一項又ハ前條ニ依リ行ヒタル検査又ハ調査ノ成績及狀況ヲ検査又ハ調査ヲ終了シタル日ヨリ三十日以内ニ農商務大臣ニ報告スヘシ

第十四條 第六條第七條第二項第八條乃至第十條又ハ第十二條第二項ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

附則

本則ハ明治四十年七月一日ヨリ施行ス

(別記様式)

種牡牛證明書		検査年月日	検査官印
第 號	所有者(種牡牛) 住所氏名		
種類	名號		
一年齡			
一高サ			
一毛色及特徴			
右種牡牛タルコトヲ證明ス			
年 月 日			
道府 縣			

○逓信省令第二十六號  
明治三十二年六月 逓信省令第二十六號中左ノ通追加ス  
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

愛知縣 名古屋市長

逓信大臣山縣伊三郎

〔參照〕

明治三十二年六月 逓信省令第二十六號ハ船員法ニ依リ管海官廳ノ事務ヲ行ハシムヘキ市町村長及之ニ準スヘキ者指定ノ件ナリ



○逓信省令第二十七號

船舶検査法施行細則第十一條第一項第一號中「百人ヲ五十人ニ改メ」近海航路外ノ港ノ下ニ又ハ別ニ定ムル地方ヲ加フ

本令ハ明治四十年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

逓信大臣山縣伊三郎

〔参照〕

逓信省令第八十七號船舶検査法施行細則(明治三十三年十二月二十八日抄録)

第十一條 移民船検査ヲ行フヘキ場合ハ左ノ如シ

一 日本船舶カ日本各港ニ於テ移民民若ハ三等旅客百人以上又ハ移民民及ロ三等旅客ヲ併セ百人以上ヲ搭載シ之ヲ近海航路外ノ港ニ運送センカ爲メ日本ノ最後ノ港ヲ發航セントスルトキ

○逓信省令第二十八號

明治三十九年九月逓信省令第四十六號中「滿洲(牛莊及安東縣ヲ除ク以)トアルヲ關東州租借地(以下略稱ス)ト又「滿洲」トアルヲ總テ「租借地」ト改メ來七月一日ヨリ施行ス

逓信大臣山縣伊三郎

〔参照〕

明治三十九年九月逓信省令第四十六號ハ本邦發着滿洲宛滿洲發着太宛者ハ滿洲内發着ノ小包郵便物ニ清韓小包郵便規則第四條ノ規定ヲ適用セサルナリ

○逓信省令第二十九號

明治三十九年六月逓信省令第二十五號電話規則中左ノ通改正シ明治四十年六月二十九日ヨリ之ヲ施行ス

逓信大臣山縣伊三郎

第九條第四號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

五 加入申込者所轄一等郵便局長ノ指示スル所ニ從ヒ其ノ電話ノ開通ニ必要ナル物件ヲ政府ニ無償提供シタル場合ノ申込

第十條第一號ヲ左ノ如ク改ム

一 第九條第五號ノ加入申込ヲ除クノ外一人ニシテ現ニ二箇以上ノ加入申込ヲ有スル場合ニ於ル一箇以外ノ申込(同一戸内ニ住居スル家族又ハ同居者等ノ名義ヲ以テ)

第三十條第二項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ第九條第五號ニ依リ開通スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

〔参照〕

逓信省令第二十五號電話規則(明治三十九年六月四日抄録)

第十條 左記各號ノ場合ニ於テハ電話ノ開通ハ申込登記ノ願書ニ依ラス之ヲ發給フヘシ但シ所轄一等郵便局長ニ於テ特ニ其ノ必要ヲ認メタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 一人ニシテ現ニ二箇以上ノ加入申込ヲ有スル場合ニ於ケル一箇以外ノ申込(同一戸内ニ住居スル家族又ハ同居者等ノ名義ヲ以テ)

○逓信省令第三十號

明治三十三年九月逓信省令第四十三號第二號中「韓國内發着」ノ下、本邦發着關東州租借地宛及關東州租借地發着太宛」ヲ追加シ來七月一日ヨリ施行ス

逓信大臣山縣伊三郎

〔参照〕

逓信省令第四十三號(明治三十三年九月一日抄録)

二 價格表記通常郵便物トシテ取扱フヘキ有價ノ物件ハ韓國内發着ノモノヲ除クノ外通常又ハ有價證券ニ限ル



○宮内省令第四號  
華族懲戒委員會規則左ノ通定ム

明治四十年七月十一日

宮内大臣子爵田中光顯

華族懲戒委員會規則

- 第一條 華族懲戒委員會ニ會長一人ヲ設ク
- 第二條 會長ハ華族懲戒委員之ヲ互選ス
- 第三條 會長ハ會務ヲ總理シ議事ヲ整理ス
- 第四條 會長事故アルトキハ爵ノ順序ニ依リ年長ノ委員之ヲ代理ス
- 第五條 委員會ハ宮内大臣ノ命令又ハ委員過半数ノ請求ニ依リ會長之ヲ招集ス
- 第六條 委員會ヲ請求スル場合ニ於テハ其ノ目的及理由ヲ記載シタル書面ヲ會長ニ提出スヘシ
- 第七條 委員會ハ委員過半数ノ出席アルニ非サレハ之ヲ開クコトヲ得ス
- 第八條 委員會ノ議事ハ出席委員ノ過半数ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長之ヲ決ス
- 第九條 委員懲戒事件ノ本人ナルトキ又ハ其ノ事件ニ付キ特別ノ關係ヲ有スルトキハ委員會ニ出席シ又ハ決議ニ加ハルコトヲ得ス
- 第十條 前項特別ノ關係ノ有無ニ付キ疑議アルトキハ委員會之ヲ決ス
- 第十一條 委員會ハ其ノ決議ニ依リ懲戒事件ノ本人ノ出席ヲ求ムルコトヲ得
- 第十二條 委員會ニ於テ決議ヲ爲シタルトキハ會長ハ其ノ報告書ヲ宮内大臣ニ提出スヘシ



第十三條 委員會ノ議事ハ秘密トス  
第十四條 委員會ノ庶務ハ爵位局長主事之ヲ擔任ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○外務省令第六號

明治三十三年ハ外務省令第三號領事官ノ徵收スル手数料及出張費用ニ關スル規程第二條ニ左ノ一項ヲ加フ  
明治四十年七月一日  
外務大臣子爵林董

領事官ハ任地ノ狀況ニ由リ外務大臣ノ認可ヲ經テ一定ノ事項ニ關スル手数料ノ徵收ヲ免除スルコトヲ得

○内務省令第十六號

明治三十年ハ内務省令第二十七號第五條第一項第一號中「勳六等以上ノ者」ノ下ハ「又ハ手當月額百圓以上ノ囑託員」ノ十四字ヲ加フ  
本令ハ明治四十年七月ヨリ施行ス  
明治四十年七月十一日  
内務大臣原敬

〔參照〕

内務省令第二十七號警察官其他内國庶務規則(明治三十年十月七日抄録)  
第五條 遊族及有位帶勳者等ヲ公認ニテ旅行セシムルハ左ノ規定ニ依ル其ノ支給方ハ明治三十年勅令第三百三十三號ノ規程ニ依ル  
一 華族及從六位以上勳六等以上ノ者ハ三等旅費其ノ他有位帶勳ノ者ハ四等旅費ヲ給ス  
一 一般ノ人民ハ甲費表ニ依ル

○内務省令第十七號

明治三十九年ハ内務省令第二十一號但書中「明治四十年十二月三十一日」ヲ「明治四十一年十二月三十一日」ニ改ム  
明治四十年七月十六日  
内務大臣原敬

〔參照〕

明治三十九年ハ内務省令第二十一號ハ日本藥局方ニシテ其但書ハ前日本藥局方所定ノ藥品ハ本方施行後ト雖モ明治四十年十二月三十一日マテハ本方ト共ニ仍ホ其效ヲ有ス其前日本藥局方ニ據ルモノハ前日本藥局方ノ六字ヲ明記スヘキナリ

○内務省令第十八號

明治三十九年ハ内務省令第二十一號第三改正日本藥局方中左ノ通改正シ明治四十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年七月十六日  
「流動石炭酸」ノ次ニ左ノ如ク加フ  
内務大臣原敬

Acidum carbolicum pro desinfectione.

防疫用石炭酸

防疫用石炭酸ハ無色或ハ微ニ紅色ヲ帶フル長キ尖鏡ノ結晶ヨリ成レル塊ニシテ特異ノ臭氣ヲ有シ約二十五度ニ於テ熔融シ約百八十度ニ於テ沸騰ス酒精、エーテル、クロ、フォルム又グリセリンニ隨意ノ比例ニ於テ證明ニ溶解ス  
本品ノ水溶液ハ過クロール、鐵溶液ニ由テ紫色ヲ呈シプロム水ニ由テ白色絮狀ノ沈澱ヲ生ス本品ハ焦性若クハ不快ノ臭氣ヲ有ス可カラヌ又本品ヲ燃化スルニ固性物ヲ殘留ス可カラヌ本品ノ熔融セルモノ一容量ハ四容量ノ「ナトロン」液ニ殆ト證明ニ溶解スヘシ  
本品十分ニ水一分ヲ混和スレハ證明ノ液トナリ更ニ多量ノ水ヲ加フレハ濁濁シ二百分ニ至レハ復タ溶解シテ證明ノ液トナルヘシ



注意シテ貯フヘシ

「石炭酸水」ノ次ニ左ノ如ク加ヘ「消毒用石炭酸水」ヲ創ル

Agua carbolisata pro desinfectione.

防疫用石炭酸水

防疫用石炭酸水ハ

ヲ取リ

五分(5.0)

常水

九十四分(94.0)

ニ溶解シ之ニ

鹽酸

一分(1.0)

ヲ和シ製スヘシ

(第二表)中「流動石炭酸」ノ次ニ「防疫用石炭酸」ヲ加フ

「日本藥局方藥品索引」中(ハ)ノ部「發烟硝酸」ノ次ニ「防疫用石炭酸」又次ニ「防疫用石炭酸水」ヲ加ヘ  
(セ)ノ部「消毒用石炭酸水」ヲ創ル

「INDEX NOMINUM」中「A」ノ部「Acidum carbolicum liquidatum」ノ次ニ「Acidum carbolicum pro desinfectione」ヲ加フ

○内務省令第十九號

明治四十年法律第十一號豫防ニ關スル件施行規則左ノ通定ム

明治四十年七月二十日

内務大臣原敬

明治四十年法律第十一號施行規則

第一條 明治四十年法律第十一號第一條ノ届出ハ患者又ハ死體所在地ノ警察官署ニ之ヲ爲スヘシ

癩患者ヲ診斷シタル醫師ハ故ナク其ノ事實ヲ漏泄スルコトヲ得ス

第二條 癩患者ニシテ療養ノ途ヲ有セス且救護者ナキモアルトキハ警察官署ハ一時之ヲ救護シ

又ハ市町村長ヲシテ一時之ヲ救護セシメ其ノ旨ヲ患者ノ家族又ハ扶養義務者ニ通知シ且患者ノ本籍住所氏名及病況並扶養義務者ノ住所氏名等ヲ具シ地方長官ニ報告スヘシ

地方長官ニ於テ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ所定ノ療養所ニ照會ヲ經タル上送致ノ手續ヲ爲スヘシ但シ適當ト認ムル扶養義務者アルトキハ之ニ對シ患者ノ引取ヲ命スヘシ

警察官署ハ必要ト認ムルトキハ第一項ノ癩患者ノ同伴者又ハ同居者ニ對シテモ一時相當ノ救護ヲ爲シ又ハ市町村長ヲシテ之ヲ爲サシムヘシ

第三條 前條ニ依リ癩患者ヲ入ラシムヘキ療養所ハ救護地道府縣ノ療養所トス但シ療養所管理者ノ協議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

第四條 明治四十年法律第十一號第四條ノ療養所ハ内務大臣ノ指定シタル設立地ノ地方長官ニ於テ之ヲ建設管理スヘシ

當該地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ得テ療養所ノ位置ヲ定ムヘシ

第五條 明治四十年法律第十一號第四條第三項ノ場合ニ於テハ療養所所在地地方長官ハ療養所ノ設立者ニ對スル命令條件ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 明治四十年法律第十一號第九條第一項第二項行政官廳ノ職權ハ警察官署之ヲ行フ  
警察官署ノ指定シタル醫師ノ診斷ニ不服アル患者又ハ其ノ扶養義務者ハ發病以來ノ症候經過及反對意見ヲ有スル醫師ノ診斷書其ノ他不服ノ理由ヲ具シ書面ヲ以テ地方長官ニ對シ其ノ指定シタル醫師ノ檢診ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ地方長官ハ檢診ノ場所及日時ヲ請求者ニ通知シ二人以上ノ醫師ヲ指定シテ檢診ヲ行ハシムヘシ此ノ場合ニ於テ請求者ハ其ノ費用ヲ以テ反對意見ヲ有スル醫師ヲ立會セシ



ムルコトヲ得

檢診ノ爲病院其ノ他ノ場所ニ滞留ヲ命セラレタル患者其ノ命ヲ遵守セサルトキハ檢診ノ請求ヲ取消シタルモノト看做ス

第七條 檢診ノ請求ハ行政處分ノ執行ヲ停止セス但シ當該官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條 行旅死亡人ノ取扱ヲ受クルモノヲ除ク外行政官廳ニ於テ救護中死亡シタル癩患者ノ死體及遺留物件ノ取扱ニ關シテハ行旅病人及行旅死亡人取扱法ノ規定ヲ準用ス但シ市町村長ニ於テ救護中死亡シタル場合ヲ除ク外同法中市町村長ノ職務ハ當該行政官廳之ヲ行フ

第九條 第二條及第六條ノ地方長官ノ職權其ノ他癩豫防上警察ニ關スル事項ハ東京府ニ於テハ警視總監之ヲ行フ

本令ニ依リ市長ニ屬スル職務ハ東京市京都市及大阪市ニ於テハ區長ヲシテ之ヲ補助執行セシムルコトヲ得

附則

本令ハ明治四十年法律第十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○内務省令第二十號

道府縣ハ左ノ區域ニ依リ其ノ區域内ニ於ケル癩患者ヲ入ラシムル爲必要ナル療養所ヲ設置スヘシ

第一區域

東京府(伊豆七島小笠原島ヲ除ク) 神奈川縣 新潟縣 埼玉縣 群馬縣 千葉縣 茨城縣 栃木縣

愛知縣 靜岡縣 山梨縣 長野縣

第二區域

北海道 宮城縣 巖手縣 青森縣 福島縣 山形縣 秋田縣

第三區域

京都府 大阪府 兵庫縣 奈良縣 三重縣 岐阜縣 滋賀縣 福井縣 石川縣 富山縣

鳥取縣 和歌山縣

第四區域

島根縣 岡山縣 廣島縣 山口縣 德島縣 香川縣 愛媛縣 高知縣

第五區域

長崎縣 福岡縣 大分縣 佐賀縣 熊本縣 宮崎縣 鹿兒島縣

前項療養所ノ設立地ハ第一區域ニ在リテハ東京府下第二區域ニ在リテハ青森縣下第三區域ニ在リテハ大阪府下第四區域ニ在リテハ香川縣下第五區域ニ在リテハ熊本縣下トス

附則

本令ハ明治四十年法律第十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年七月二十二日

内務大臣原敬

○内務省令第二十一號

案内業者取締規則左ノ通之ヲ定ム

明治四十年七月二十七日

内務大臣原敬

案内業者取締規則

第一條 通譯ニ依リ諸般ノ案内ヲ業ト爲サントスル者ハ願書ニ履歷書及寫眞二葉(手札形ニシテ寫紙ヲ附セス)ヲ添付シ地方長官ニ願出免許ヲ受クヘシ

第二條 地方長官ハ試驗ノ上免許證ヲ下附スヘシ

第三條 案内業試驗ハ左ノ科目ニ依リ之ヲ行フ

一 外國語



二 本邦地理  
三 本邦歴史

第四條 廢業シ若ハ業務ヲ禁止セラレタル者ニシテ二箇年ヲ經過シタル者ハ更ニ試験ヲ受クルコト非サレハ免許ヲ受クルコトヲ得ス

第五條 案内業ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ試験ノ際收入印紙ヲ以テ手数料金貳圓ヲ納付スヘシ

第六條 左記各號ノ一ニ該當スル者ハ免許ヲ與ヘサルコトアルヘシ

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二 精神病又ハ人ノ嫌厭スヘキ疾病アル者

三 素行不良ナル者

第七條 免許證ハ別記離形ニ依リ案内業者ノ寫眞ヲ貼附シ邦語及試験ヲ爲シタル外國語ヲ以テ報酬其ノ他ノ諸費用及本則第十一條第十二條ヲ記載スヘシ

第八條 案内業者ハ豫メ被案内者ヨリ受クヘキ報酬其ノ他ノ諸費用ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第九條 案内業者ハ別記離形ノ徽章ヲ製シ就業中之ヲ左胸部ニ附スヘシ

第十條 案内業者ハ就業中免許證ヲ携帶シ案内ノ依頼ヲ受ケタル際之ヲ被案内者ニ提示スヘシ

警察官吏又ハ被案内者ヨリ免許證ノ提示ヲ求めラレタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十一條 案内業者案内ヲ終リタルトキハ被案内者ニ對シ其ノ案内ニ關スル批評ヲ記載セル證明書ヲ求め尙不都合ノ行爲アリト認めラレタルトキハ警察官署ニ内報セラレタキ旨ヲ申立ツヘシ

第十二條 案内業者ハ左記各號ノ行爲ヲ爲スヘカラス

一 名義ノ如何ヲ問ハズ認可額以外ノ報酬其ノ他ノ諸費用ヲ請求スルコト

二 物品ノ購買共ノ他諸般ノ周旋ニ關シ直接又ハ間接ニ當事者ニ對シ利益ヲ請求スルコト

三 強テ案内セムコトヲ勸誘シ若ハ勸誘セシメ又ハ故ナク案内ノ依頼ヲ拒絕シ若ハ拒絕セシメ又ハ依頼ノ趣旨ニ反シタル案内ヲ爲スコト

第十三條 免許證ヲ毀損亡失シ又ハ其ノ記載事項ニ異動ヲ生シタルトキハ十日以内ニ地方長官ニ其ノ書換又ハ再下附ヲ願出ヘシ

第十四條 案内業者廢業シ又ハ業務ヲ禁止セラレタルトキハ五日以内ニ免許證ヲ返納スヘシ

案内業者死亡シ又ハ失踪ノ宣告ヲ受ケタルトキハ二十日以内ニ戶籍法ニ依リ届出義務者ニ於テ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第十五條 案内業者第六條各號ノ一ニ該當シ又ハ業務上不正ノ行爲アリタルトキハ地方長官ハ其ノ業務ヲ停止シ又ハ禁止スルコトヲ得

第十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二十五圓以下ノ罰金又ハ二十五日以下ノ重禁錮ニ處ス

一 第一條ノ免許ヲ受ケシテ營業ヲ爲シタル者

二 停止中營業ヲ爲シタル者

三 第八條及第十二條ニ違反シタル者

第十七條 第九條第十條第十三條及第十四條ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附則

第十八條 本則ハ明治四十年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十九條 本則第一條第二條第八條及第十三條ニ規定セル地方長官ノ職權ハ當分ノ内務視總監北海道廳長官京都府知事神奈川縣知事兵庫縣知事及長崎縣知事之ヲ行フ

第二十條 地方廳ノ免許ヲ受ケ現ニ案内業ニ從事スル者ハ本則施行ノ後三箇月以内ニ免許證ノ書換並ニ第八條ノ認可ヲ申請スルニ非サレハ免許ノ效力ヲ失フ

前項ノ申請書ハ寫眞二葉(第一條ニ同シ)ヲ添付シ第十九條ノ地方長官ニ提出スヘシ



明治四十年七月 省令 内務省第二十一號 業内業者取替規則

(別記雛形)

免許證

用紙為ノ子厚紙(整五寸横九寸三分)

表面

折目

第 號

業内業者免許證

業内業者姓名住所

縣 廳  
印 府

廳 府 縣 名



同上外國文

三三三

内面

折目

同上外國文

明治四十年七月 省令 内務省第二十一號 業内業者取替規則

三三三







第一條 舊北海道鐵道株式會社社債ニ關シテハ日本銀行本店支店及出張所ヲ以テ取扱店トス  
 第二條 舊北海道鐵道株式會社社債券又ハ其ノ利札ノ滅失又ハ紛失ニ因リ代債券若ハ代利札ノ交  
 付又ハ元金ノ償還若ハ利子ノ仕拂ヲ受ケントスル者ハ國債規則第十七條又ハ第六十二條ノ規定  
 ニ準シタル請求書ニ除權判決ノ正本又ハ原本ヲ添ヘ之ヲ取扱店ニ提出スヘシ  
 第三條 國債規則第八條、第十八條、第四十八條乃至第五十一條及第五十六條乃至第五十八條ノ規  
 定ハ舊北海道鐵道株式會社社債ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○大藏省令第二十九號

明治三十二年大藏省令第十四號中左ノ通改正ス

明治四十年七月九日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

堺稅關監督署ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

梅津國尼ヶ崎

尼ヶ崎稅關監督署

○大藏省令第三十號

種馬牧場、種馬育成所及種馬所建設工事請負ノ競争ニ加ハラトスル者ハ會計規則第六十九條第  
 一項ニ定メタル資格ノ外尙ホ本令ノ定ムル資格ヲ備フルコトヲ要ス

明治四十年七月十七日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

第一條 各人ノ資産ニ關スル資格左ノ如シ

一 入札金額壹萬圓以上五萬圓未滿ノ工事ニ付テハ直接國稅年額五拾圓以上ヲ二年以來引續キ  
 納ムルコト  
 二 入札金額五萬圓以上ノ工事ニ付テハ直接國稅年額百圓以上ヲ二年以來引續キ納ムルコト

第二條 商會社及其社員ノ資産ニ關スル資格左ノ如シ

一 前條第一項第一號ノ工事ニ付テハ拂込株金額又ハ財産ヲ目的トスル出資價格五萬圓以上同  
 第二號ノ工事ニ付テハ拾萬圓以上ナルコト

二 前號區別ノ金額ニ達セサル合名會社ニ在リテハ其社員ノ一人又合資會社ニ在リテハ其無限  
 責任社員ノ一人前條第一項第一號及第二號ノ區別ニ依リ直接國稅ヲ二年以來引續キ納ムル  
 コト

第三條 入札當時ノ年ヨリ起算シ既往三箇年間ニ於テ一廉ニ付入札金額ノ三分ノ一以上ニ相當ス  
 ル工事ノ請負契約ヲ完全ニ履行シタル證明アル者

附則

第四條 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

○大藏省令第三十一號

明治三十九年十一月十一日大藏省令第四十八號煙草收納所出張所名稱位置中三春煙草收納所米澤出張所ノ  
 次ニ函館出張所、北海道函館區ヲ追加シ明治四十年八月十日ヨリ施行ス

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

○陸軍省令第十號

徵兵事務條例施行細則中左ノ通改正ス

明治四十年七月六日

陸軍大臣寺內正毅

第一條 條例第四條第一項但書及同條第二項ニ依リ兵員徵集區域ヲ定ムルコト左ノ如シ  
 近衛ノ步兵隊及騎兵隊ノ兵員 各師管  
 前號以外ノ近衛兵員 第一師管











抽籤ヲ施行セシ該名簿ニ検査ノ結果ノモヲ記入シ之ヲ本籍地ノ島司郡市長ニ送附スルモノトス  
 島司郡市長前項但書ノ名簿ヲ受領シタルトキハ聯隊區徵兵署、聯隊區聯合徵兵署又ハ警備隊區  
 徵兵署開設ノ下キ之ヲ同署ニ提出スヘシ但シ抽籤ヲ要スルモノニシテ該徵兵署閉鎖後師管内  
 各徵兵署閉鎖前ニ到着シタルトキハ之ヲ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ送附シ一般ノ例ニ依  
 リ同聯隊區若ハ警備隊區内又ハ同師管内便宜ノ徵兵署ニ於テ抽籤ヲ施行シ其ノ徵集順序ヲ定ム  
 ルモノトス

第一項ノ届出ヲ爲ササル者ハ五歳以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第四十九條ノ二 條例第五十八條ノ二ニ該當スル者ハ其ノ壯丁名簿若ハ假決名簿ヲ本籍地聯隊區  
 司令官又ハ警備隊司令官ヨリ検査ヲ施行スル徵集區ノ徵兵官ニ送附シ條例第五十三條該當者ノ  
 例ニ依リ取扱フモノトス

第五十條中「前條ヲ前二條ニ改ム」

第五十一條ノ二 條例第五十一條ニ依リ陸軍現役兵ヲ志願スル者アルトキハ聯隊區司令官又ハ警  
 備隊司令官ニ於テ願書其ノ他ニ依リ壯丁名簿ノ様式ニ準シ其ノ名簿ヲ作り志願ヲ許可シタル者  
 ニ在リテハ之ヲ現役兵名簿ニ添附シ其ノ旨ヲ本籍市町村長東京市京都市大阪府ニ通知スヘシ  
 前項現役兵志願者ノ名簿及現役兵證書ニハ徵兵令第十二條ノ志願者ナルコトヲ記入スルモノト  
 ス

第五十二條 他ノ徵集區ニ於テ身體検査又ハ抽籤ヲ爲シタル者ハ第二十二條ニ依リ其ノ徵集順序  
 ヲ定メ其ノ抽籤番號ヲ有スル者ニ在リテハ本籍地徵集區及抽籤ヲ行ハル徵集區同種兵ノ最高  
 番號ヲ率トシ比例ヲ以テ本籍地相當番號ノ上位ニ列セシム但シ比例算出上端數ヲ生スルトキハ  
 之ヲ切り捨ツルモノトス

第五十五條 聯隊區司令官、警備隊司令官ハ一年志願兵志願者ノ人名ヲ調査シ其ノ年徵兵検査ヲ

受ケタル者ニ在リテハ其ノ結果ヲ師團長ニ報告スルノ外第五十四條ニ依リ取扱ノ資ニ供スヘシ  
 第五十六條中「及第六十三條ヲ第五十八條ノ二第六十三條及明治三十九年陸軍省令第十六號第九  
 條ニ改メ「身體検査」ノ下ニ「若ハ抽籤」ヲ加フ

第五十七條中「近衛師團及第七師團司令部ヲ」近衛第七、第十二、第十八師團司令部及臺灣總督府ニ  
 改メ同條但書ヲ左ノ如ク改ム

但シ第七師團ニ在リテハ第三十七條第二項ノ入營期日、第七師團、第十二師團及第十八師團ニ在  
 リテハ第三十七條ノ二ノ入營人員ヲモ通知スルモノトス

第五十七條ノ二 徵兵令第十三條第五項ニ該當スル者ハ更ニ教職ニ就クト雖同項ノ規定ニ依リ之  
 ヲ徵集スルモノトス但シ其ノ者ニシテ同條第一項ノ學校ニ入學シ條例第五十五條ノ手續ヲ爲ス  
 トキハ其ノ徵集ヲ猶豫スヘシ

第五十七條ノ三 徵兵令第十三條第五項又ハ同第二十三條第二項ニ該當スル者ニシテ其ノ教職ヲ  
 罷メタルトキ滿二十八歳以下又ハ歸朝ノトキニ於テ滿三十二歳以下ナルトキハ之ヲ徵集スルモ  
 ノトス

第五十七條ノ四 徵兵令第十三條第一項ニ掲グル學校ニ在校ノ者ト雖其ノ年十二月一日ニ於テ滿  
 二十八歳ヲ過タル者ハ其ノ徵集ヲ猶豫セサルモノトス

第五十七條ノ五 徵兵令第十二條ニ依リ陸軍現役兵ノ志願ヲ許可シタル者條例第四十七條第四十  
 八條ノ事故ヲ生シタルトキハ單ニ志願兵ヲ免スルモノトス

第五十七條ノ六 本令中警備隊司令官トアルハ沖繩警備隊區ニ在リテハ警備隊區司令官、郡長、郡  
 書記トアルハ北海道ニ在リテハ支廳長、支廳屬、市長、市書記トアルハ北海道及沖繩縣ニ在リテハ  
 區長、區書記、町村長トアルハ町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ戶長其ノ他町村長ニ準スヘキ者  
 ニ該當ス



第五十九條 削除

第五樣式ヲ別紙ノ如ク改ム

第六樣式欄外記註第一號ヲ左ノ如ク改ム

表面「何兵第何聯大隊」ハ近衛、臺灣諸兵及他ノ師團ヨリ徵集スル兵員ニ在リテハ其ノ編入スヘキ師團隊號ヲ以テ之ニ代ヘ海軍兵ニ在リテハ「何鎮守府」ノ兵籍ト記スヘキ

第七樣式ノ一陸軍現役近衛師團ノ欄中「砲兵輸卒」鐵道隊兵ノ欄ヲ削リ、同第何師團ノ欄中「砲兵輸卒」重砲兵ニ要塞砲兵ヲ鐵道隊兵ニ砲兵助卒ヲ電信隊兵ニ改メ、同陸軍補充兵ノ欄中「砲兵助卒」砲兵輸卒ノ欄ヲ削リ、欄外記註第三號中第七師團ヲ他ノ師團團隊ニ改メ、該師團ヲ「該師團團隊」ニ改メ左ノ一號ヲ加フ

四 沖繩警備隊區ヨリ第十二師團第十八師團ニ徵集シタル人員ハ符號ヲ附シテ區別スヘキ

第七樣式ノ二徵集延期猶豫人員欄中「明治二十八年勅令第百二十六號第二條ニ當ル者」ノ欄ヲ削ル

第七樣式ノ三中「四尺八寸未滿」ノ欄ノ下ニ「四尺不」ノ欄ヲ加ヘ欄外記註第一號但書ヲ削ル

第七樣式ノ四欄外記註第二號中「近衛師團及第七師團」ヲ他ノ師團團隊ニ改ム

第七樣式ノ五中「要塞」ヲ「重砲兵」ニ改メ、「砲兵助卒」「砲兵輸卒」ノ欄ヲ削リ欄外記註第二號ヲ左ノ如ク改メ第四號ヲ削ル

一 鐵道隊電信隊ノ兵員ハ工兵ノ欄ニ、他ノ師團團隊ニ徵集シタル共ノ他ノ兵員ハ相當欄ニ各符號ヲ附シテ別記スヘキ

第八樣式中「本人」ノ上ニ「何兵何隊希望ヲ加ヘ」(父母)(戶主)(後見人)氏名ヲ

(騎)(野戰砲)(要塞砲)(工)(輜重)兵第何聯(大隊)(何鎮守府)近衛隊ニ由リタル者ハ兵籍ノ欄中

ヲ「何聯隊區(警備隊)(警備隊區)司令官氏名殿(何鎮守府御中)」ニ改メ欄外記註ヲ削ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令中第十七條第二項及第五樣式ノ改正ハ明治四十一年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令中第一條第三十五條ノ改正ハ明治四十年九月十一日ヨリ之ヲ施行ス

本令中第三十七條ノ二ノ改正ハ明治四十年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十八年勅令第百二十六號第二條ニ依リ徵集ヲ猶豫セラルル者ニ關シテハ仍從前ノ規定ニ依ル

附表

入營兵集合地指定表

師管	聯隊區	近衛兵鐵道隊兵 電信隊兵集合地	海軍兵集合地	第七師團 兵集合地	臺灣警備隊 兵集合地
第一	東	京	橫須賀	仙臺	
第二	東	京	橫須賀	仙臺	
第三	東	京	四日市	青森	
第四	京	京	神戶		
第五	京	京都	吳		
第六	門	門司	佐世保		
第七	福	福	青森		
第八	福	福	青森		



第九	東	京	教	實	神	戶
第十	京	郡	神	戶	神	戶
第十一	京	郡	神	戶	門	司
第十二	門	司	佐	世	門	司
第十三	東	京	直	江	門	司
第十四	東	京	橫	須	門	司
第十五	東	京	四	日	門	司
第十六	東	京	舞	臺	門	司
第十七	京	郡	吳	門	司	司
第十八	門	司	佐	世	門	司

第五様式

(抽籤名簿)

第一師管ヨリ鐵道電信隊ニ入營スル兵員ハ本表ニ依テ直ニ入營スルモノトス

府(縣)郡(市)何兵抽籤名簿

甲抽籤ニ加ヘサル者	何	町	某
乙抽籤ニ加ヘサル者	何	村	某

甲第一番	何	村	某
甲第二番	何	町	某
乙第一 抽籤ニ加ヘサル者	何	町	某
乙第二 抽籤ニ加ヘサル者	何	村	某
乙第三 抽籤ニ加ヘサル者	何	村	某
乙第四 抽籤ニ加ヘサル者	何	村	某
乙第五 抽籤ニ加ヘサル者	何	村	某

(注意) 第二十二條ノ規定ニ依リ編入ノ順序ニ列記スルモノトス

本用紙ハ島嶼部市役所ニ於テ調製スヘシ



第七樣式ノ七

明治 第四師管徵兵表附錄徵兵令第十二條ニ依ル陸軍現役兵志願者人員表

種別	等位	採用者ノ本師管別		計	不採用者	不適合者
		第一	第二			
步兵	甲種					
	乙種					
騎兵	甲種					
	乙種					
砲兵	野戰砲隊					
	山砲大隊					
工兵	工兵隊					
	鐵道隊					
電信隊						

備考	備
一	近衛師團第七師團臺灣防務隊等ニ採用シタル人員ハ符號ヲ附シテ各別記シ其ノ符號ノ事由ヲ備考中ニ記入スヘシ
二	本表人員中採用者ノ身長及普通教育程度ハ第七樣式ノ三第七樣式ノ六ニ準シテ之ヲ調査スルモノトス

〔參照〕

陸軍省令第十號徵兵事務條例施行細則(明治二十九年四月二十三日)抄錄

第一條 條例第二十一條ノ肚丁名簿ハ附錄第一樣式ニ依リ之ヲ作り一市(東京市、大阪市、名古屋市、京都市、神戶市、北九州市、横濱市、神戸市、仙台市、新潟市、金沢市、富山市、高松市、松本市、岐阜市、静岡市、名古屋市、京都市、大阪市、神戸市、仙台市、新潟市、金沢市、富山市、高松市、松本市、岐阜市、静岡市)一町村ヲ一册ト爲シ是尾ニ其ノ人員ノ總計ヲ記シ市町村長(東京市、大阪市、名古屋市、京都市、神戶市、北九州市、横濱市、神戸市、仙台市、新潟市、金沢市、富山市、高松市、松本市、岐阜市、静岡市)身檢検査ハ毎年四月十六日ヨリ九月下旬迄ノ間ニ於テ之ヲ行フ例トス

其ノ日割表ハ附錄第十一樣式ニ依リ之ヲ作り聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ二月二十日迄ニ師團長ニ報告シ師團長ハ三月一日迄ニ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第九條 徵兵令第二十條第二十一條第二十二條ニ依リ徵集延期ニ屬スル者徵兵令第二十三條及明治二十八年勅令第百二十六號第二條ニ依リ徵集猶庫ニ屬スル者並ニ徵兵令第十九條ニ依リ兵役免除ニ屬スル者ニハ聯隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ於テ附錄第二第三樣式ニ依リ徵集延期理由書徵集猶庫徵兵免役除證等ヲ作り市ハ市長(東京市、大阪市、神戸市、仙台市、新潟市、金沢市、富山市、高松市、松本市、岐阜市、静岡市)ニ付與シ郡又ハ島嶼ニ在テハ町村長ヲシテ木人ニ付與セシムヘシ

第十條 第二項

明治二十八年勅令第百二十六號第二條ノ願フ許可セザル者亦同シ

第十一條 陸軍兵ニ編入スヘキ者ハ左ノ項目ニ依リ之ヲ選フヘシ

三 砲兵ハ體力強大視力清明ナル者而シテ野戰砲兵要員ノ凡八分一ハ鍛工卒凡十六分一宛ハ木工卒ニ選スル者要員

砲兵ハ成ルヘク讀書算術ヲ能クシ且要員ノ凡十六分一宛ハ鍛工卒木工卒ニ選スル者

五 砲重兵、砲重砲卒及砲兵砲卒ハ成ルヘク馬匹ノ使用ニ慣レ且臂力アル者而シテ砲重兵ハ成ルヘク讀書算術ヲ能クスル者其ノ他體質強健要員ノ凡五十分一ハ鍛工、木工鍛工卒ニ選スル者







海軍中軍醫海軍少軍醫海軍中藥劑士海軍少藥劑士海軍少軍醫候補生海軍少藥劑士候補生採用規則

海軍中軍醫海軍少軍醫海軍中藥劑士海軍少藥劑士海軍少軍醫候補生海軍少藥劑士候補生採用規則

第一條 海軍高等武官補充條例ニ依リ海軍中軍醫少軍醫中藥劑士少藥劑士若ハ少軍醫候補生少藥劑士候補生ヲ募集スルトキハ中軍醫中藥劑士ニ在テハ出願期日少軍醫少藥劑士少軍醫候補生少藥劑士候補生ニ在テハ出願期日試驗期日及試驗場所ヲ豫メ告示ス

第二條 前條ノ志願者ハ願書ニ履歷書並ニ戸籍吏ノ作リタル戸籍謄本及身元證明書ヲ添ヘ海軍省人事局長ニ差出スヘシ

第三條 海軍中軍醫少軍醫中藥劑士少藥劑士志願者ハ前條ノ書類ヲ差出スト同時ニ卒業セル帝國大學若ハ醫學專門學校ニ學力證明ヲ願出ツヘシ但シ海軍高等武官補充條例第十六條第一項第一及第十六條ノ二第三ニヨル志願者ハ本條規程ニヨラス相當ノ卒業證書ヲ有スル者ハ其寫卒業證書ナキモノハ其修學明細書ヲ前條ノ書類ニ添付スヘシ

前項ノ願出アルトキハ當該學校長ハ第八條第三書式ニ依リ志願者ニ對スル學力證明書ヲ作り封トシテ直接海軍省人事局長ニ送附スヘシ

第四條 身體檢查ニ合格シタル者ニアラサレハ之ニ對シ採用試驗ヲ行ハス

第五條 採用試驗ノ科目左ノ如シ

- 一 學說 藥物學 內科學 外科學 眼科學 衛生學
  - 二 實地 局處解剖學 組織學 內科 外科
  - 三 外國語學 歐文和譯
- 海軍少藥劑士少藥劑士候補生
- 一 學說 化學 藥用植物學 生藥學 製藥化學 裁判化學

海軍中軍醫(海軍中藥劑士)採用願

私鑄海軍中軍醫(中藥劑士)志願ニ付採用相成度履歷書戸籍謄本並ニ身元證明書相添此段奉願候也

本籍 一現住所

海軍省人事局長宛

追テ何學校長ニ學力證明書願出置候也

年月日

官位勳氏 名印

海軍少軍醫(少藥劑士)少軍醫候補生(少藥劑士候補生)採用願

私鑄海軍少軍醫(少藥劑士)少軍醫候補生(少藥劑士候補生)志願ニ付試驗ノ上採用相成度履歷書戸籍謄本並ニ身元證明書相添此段奉願候也

受驗外國語 何語

受驗場所名

年月日

海軍省人事局長宛

追テ何學校長ニ學力證明書願出置候也

本籍 一現住所

官位勳氏 名印

二 實地 分析術 藥品鑑定 衛生試驗法 製藥化學 調劑術

三 外國語學 歐文和譯

第六條 試驗合格ヲ定ムル方法ハ採用委員ノ議定スル所ニ依ル

試驗合格ノ有效期限ハ二箇年トス

第七條 不正ノ方法ニ依リ試驗ヲ受ケント企テタル者又ハ試驗ニ關スル規定ニ違背シタル者ハ其期ノ試驗ヲ受ケルコトヲ得ス試驗合格ノ後此等ノ事實ヲ發見シタルトキハ其合格ヲ無効トス

第八條 願書履歷書學力證明書及身元證明書式ハ左ノ如シ

第一 願書式(用紙ハ美濃紙ニ折一通)

其一

海軍中軍醫(海軍中藥劑士)採用願

私鑄海軍中軍醫(中藥劑士)志願ニ付採用相成度履歷書戸籍謄本並ニ身元證明書相添此段奉願候也

本籍 一現住所

海軍省人事局長宛

追テ何學校長ニ學力證明書願出置候也

年月日

官位勳氏 名印

海軍少軍醫(少藥劑士)少軍醫候補生(少藥劑士候補生)採用願

私鑄海軍少軍醫(少藥劑士)少軍醫候補生(少藥劑士候補生)志願ニ付試驗ノ上採用相成度履歷書戸籍謄本並ニ身元證明書相添此段奉願候也

受驗外國語 何語

受驗場所名

年月日

海軍省人事局長宛

追テ何學校長ニ學力證明書願出置候也

本籍 一現住所

官位勳氏 名印



第二 履歷書式(用紙同上)

- 一 修學及卒業シタル學校名位ニ其年月卒業證書醫師試験 醫術開業試験又ハ藥劑師試験及卒業証
  - 一 醫師免許證書開業免狀又ハ藥劑師免狀
  - 一 官廳會社等ノ職務ニ從事シタル事(各辭令ノ全文)
  - 一 現ニ官廳ニ奉職スル者ハ其官職名(所屬長官ノ氏名)
- 前書相違無之候也

何府縣士族平民  
 戸主或ハ何某男又ハ兄弟伯叔甥  
 氏 名  
何年何月何日

第三 學力證明書式

- 一 在學年月 (初年何月何日入校)ト記入ス
- 一 卒業試験成績ノ席次 同級生何人中ノ何番ト記入ス
- 一 卒業試験成績 何年何月何日何校ニ卒業シタル事ヲ記入ス
- 一 所見 學術性質習得業行人格等ニ就キ所見アラハ記入スヘシ

年 月 日  
 何學校長 氏 名 印  
 族 籍 氏 名 印

第四 身元證明書式

本籍何府(縣)何郡(市)何區何町(村)何番地  
 士族平民 何 某

- 一 兵役ノ關係 徵兵令第二十三條ニ依リ徵集檢査中
- 一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナシ 明治何年何月何日何事故止ニ何年何月檢査ヲ受テハ奉書
- 一 破産又ハ家産分放ノ宣告ヲ受ケタルコトナシ 破産又ハ家産分放ノ宣告ヲ受ケタルモ債權ヲ得タリ
- 一 破産又ハ家産分放ノ宣告ヲ受ケタルコトナシ 一身代限ノ處分ヲ受ケタルモ債權ヲ得タリ
- 一 身代限ノ處分ヲ受ケタルモ債權ヲ得タリ 右之通相違無之候也

市(區)町(村)長 氏 名 印

第九條 明治三十三年海軍省令第二十二號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

〔參照〕

明治三十三年十一月海軍省令第二十二號ハ海軍少軍醫候補生及海軍少藥劑士候補生採用規則ナリ

○海軍省令第十號 海軍中主計海軍少主計海軍少主計候補生採用規則左ノ通定ム

明治四十年七月十一日

海軍大臣齋藤實

- 第一條 海軍中主計海軍少主計海軍少主計候補生採用規則
- 第一條 海軍高等武官補充條例ニ依リ海軍中主計少主計若ハ少主計候補生ヲ募集スルトキハ中主計少主計ニ在リテハ出願期日少主計候補生ニ在リテハ出願期日試驗期日及試驗場處ヲ豫メ告示ス



第二條 前條ノ志願者ハ願書ニ履歷書並戸籍吏ノ作リタル戸籍謄本及身元證明書ヲ添へ海軍省人事局長ニ差出スヘシ

第三條 第一條ノ志願者ハ前條ノ書類ヲ差出スト同時ニ海軍中主計少主計ニ在リテハ卒業セシ帝國大學高等商業學校高等學校少主計候補生ニ在リテハ其卒業セシ官公立中學校若ハ之ト同等以上ノ認メタル學校へ學力證明ヲ願出ツヘシ但シ海軍高等武官補充條例第十六條第一項第一及第十六條ノ二第三ニヨル志願者ハ本條ノ規程ニ依ラス相浴ノ卒業證書ヲ有スル者ハ其寫卒業證書ナキモノハ其修學明細書ヲ前條ノ書類ニ添付スヘシ

前項ノ願出アルトキハ當該學校長ハ第九條第三ノ書式ニ依リ志願者ニ對スル學力證明書ヲ作リ祕封トシテ直接海軍省人事局長ニ送付スヘシ

第四條 身體検査ニ合格シタルモノニアラサレハ之ニ對シ採用試験ヲ行ハス

第五條 採用試験ノ科目左ノ如シ  
一 憲法 二 民法 三 行政法 四 財政學  
五 經濟學 六 國際公法 七 外國語 英佛兩

第六條 試験ヲ分テ筆記試験及口述試験トス

口述試験ハ筆記試験ニ合格シタル者ニ就キ之ヲ行フ

第七條 試験合格ヲ定ムル方法ハ候補生採用委員ノ議定スル所ニ依ル

第八條 不正ノ方法ニ依リ試験ヲ受ケント企テタル者又ハ試験ニ關スル規定ニ違背シタル者ハ其期ノ試験ヲ受クルコトヲ得ス試験合格ノ後此等ノ事實ヲ發見シタルトキハ其合格ヲ無効トス

第九條 願書履歷書學力證明書及身元證明書ノ書式ハ左ノ如シ

第一 願書式(用紙表裏紙二ツ折一冊)

海軍中主計(海軍少主計)海軍少主計候補生(採用願

私儀海軍中主計(少主計)少主計候補生(志願ニ付)少主計候補生ニ在リテハ試験ノ上)採用相成度履歷書戸籍謄本及身元證明書相添此段奉願候也

外國語 何語(候補生志願者ニ限ル)

本籍 現住所

官位勲 氏 名印

年月日

海軍省人事局長宛

追テ何學校長ニ學力證明書願出置候也

備考 海軍高等武官補充條例第十六條第一號及第十六條ノ二第三號ニ該當シ試験ヲ要スル者ノ願書ハ少主計候補生ノ願書ニ準ス

第二 履歷書式(用紙同上)

履歷書

何府縣華土族平民 月主(或ハ何某男又ハ兄弟伯叔甥)

氏 名

何府縣華土族平民 何年何月何日

- 一 修學及卒業シタル學校名並其年月
- 一 法律經濟學ノ教授ヲ受ケタル學校名並其年月
- 一 職業技藝等
- 一 官廳會社等ノ職務ニ從事シタル者ハ各其辭令文
- 一 現ニ官廳ニ奉職スル者ハ其官廳名(何府縣華土族平民)並其官職名(何職)ヲ記ス

前番相違無之候也

年月日

右 氏 名印







成所ニ入學シ引續キ學費ノ補給ヲ受ケタル者ノ第二條ノ義務期間ハ同養成所卒業ノ日ヨリ從來學費ノ補給ヲ受ケタル年限ヲ通算シ之ニ一箇年ヲ加ヘタルモノトス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第一條ノ改正ハ明治四十年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

文部省令第九號實業學校教員養成規程(明治三十五年四月一日)抄錄  
第一條 東京帝國大學農科大學本科若ハ實科官立實業專門學校、東京美術學校、商船學校及水産講習所ノ學生生徒ニシテ卒業ノ後實業學校ノ教職ニ從事スヘキ者並東京帝國大學農科大學附屬農林業教員養成所、東京高等商業學校附設商業教員養成所及東京高等工業學校附設工業教員養成所ノ生徒ニハ學費ヲ補給スルコトアルヘシ

○文部省令第二十三號

文部省直轄實業專門學校委託生規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治四十年七月二十五日

文部大臣牧野伸顯

文部省直轄實業專門學校委託生規程

- 第一條 北海道府縣郡市町村其ノ他ノ公共團體及私人ハ文部省直轄實業專門學校生徒ニシテ卒業後其ノ公共團體又ハ私人ノ設置セル實業學校ノ教職ニ從事スヘキ者ニ學費ヲ補給シ委託生トシテ在學セシムルコトヲ得
- 第二條 公共團體又ハ私人ハ委託生ノ選定ヲ當該學校長ニ委嘱スルコトヲ得
- 第三條 公共團體又ハ私人ヨリ委託生ニ補給スヘキ學費ハ一箇月十圓以上トス
- 第四條 委託生ニハ授業料ヲ徴收セス
- 第五條 委託生ハ卒業ノ日ヨリ學費ノ補給ヲ受ケタル期間ニ一箇年ヲ加ヘタル期間當該公共團體又ハ私人ノ設置セル實業學校ノ教職ニ從事スヘキ義務ヲ有ス
- 第六條 委託生ニシテ在學中半途退學シ又ハ委託生タルコトヲ止ムルトキ若ハ卒業後左ノ各號ノ

一ニ該當スルトキハ其ノ補給ヲ受ケタル學費ヲ當該公共團體又ハ私人ニ償還スヘシ但シ當該公共團體又ハ私人ニ於テ酌量スヘキ情狀アリト認メタルトキハ其ノ全部又ハ一部ノ償還ヲ免除スルコトヲ得

- 一 前條ノ義務ヲ盡サ、ルトキ
  - 二 懲戒免職ニ處セラレタルトキ
  - 三 免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケタルトキ
- 第七條 學校長ハ本令ニ關シ必要ナル細則ヲ設クルコトヲ得

○遞信省令第三十一號

明治三十二年五月遞信省令第二十一號交通至難ノ場所ニ在勤スル航路標識管理所技手及看守月手當金給與細則中左ノ通り改正シ發布ノ日ヨリ施行ス

明治四十年七月三日

遞信大臣山縣伊三郎

第一條ニ左ノ但書ヲ加フ  
但加俸ヲ支給スル場所ニ任地替ヲ命セラレタル者ノ月手當金ハ發令當日迄之ヲ支給ス



○内務省令第二十二號

府縣郡市町村ノ人口及府縣制第五條第三項郡制第五條第四項議員配當ノ件左ノ通定ス

明治四十年八月二十二日

内務大臣原敬

第一條 府縣制市制町村制ニ規定セル府縣市町村ノ人口ハ内閣統計局ニ於テ官報ヲ以テ報告スル最近ノ人口ニ依ル

前項人口調査ノ期日後市府縣制第四條第二項但町村ヲ廢置分合シ又ハ其ノ境界ヲ變更シタルトキハ關係市町村ノ人口ハ府縣知事ニ於テ之ヲ調査シ管内ニ告示スヘシ此ノ場合ニ於テ其ノ處分市町村全部ノ區域ニ係ルモノ、人口ハ内閣統計局ニ於テ官報ヲ以テ報告シ若ハ府縣知事ニ於テ最近ニ告示シタルモノニ依ル其ノ分割ヲ爲シテ新メニ市町村ヲ置キタルトキ及市町村ノ一部ヲ割キテ他ノ市町村ニ併合シ又ハ境界變更ヲ爲シタルトキハ其ノ分割シタル各部ノ人口ハ處分ヲ爲シタル當時ノ現在ニ依ル

第二條 前條第二項ノ場合ニ於テ二箇以上ノ府縣郡ノ境界ニ涉ルトキハ其ノ府縣郡ノ人口モ之ヲ告示スヘシ其ノ人口ハ前條第二項告示ノ市町村人口ト内閣統計局ニ於テ官報ヲ以テ報告シ若ハ府縣知事ニ於テ最近ニ告示シタル郡市町村ノ人口トヲ集計シタルモノニ依ル

第三條 町村ヲ變シテ市ト爲シタルトキハ府縣知事ニ於テ其ノ市及郡ノ人口ヲ告示スヘシ其ノ人口ハ内閣統計局ニ於テ官報ヲ以テ報告シ若ハ府縣知事ニ於テ最近ニ告示シタル郡市町村ノ人口ヲ以テ市ノ人口トシ其ノ他ノ町村人口ヲ集計シタルモノヲ以テ郡ノ人口トス

第四條 府縣郡ヲ廢置分合シ若ハ其ノ境界ヲ變更シタルトキハ前三條ノ例ニ依ル

第五條 府縣制第五條郡制第五條ニ依リ各選舉區ニ於テ選舉スヘキ府縣會議員郡會議員ノ數ハ人口ヲ標準トシテ之ヲ定ムヘシ但シ特別ノ事情アルトキハ府縣ニ付テハ内務大臣郡ニ付テハ府縣知事ハ別ニ配當標準ヲ加フルコトヲ得



前項ノ人口ハ第一條乃至第四條ノ例ニ依ル  
 第六條 府縣會議員郡會議員ノ配當更正ヲ要スルトキハ改選ノ際ヲ俟テ之ヲ行フ但シ議員ノ定數ニ異動ヲ生シ若ハ選舉區ノ増減アリタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

附則

第七條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
 第八條 明治二十二年內務省令第十七號同第十八號及同第五十八號ハ之ヲ廢止ス

〔参照〕

明治三十二年五月ニ內務省令第十七號ハ府縣會議員ノ配當ニ關スル件、同第十八號ハ郡會議員ノ配當ニ關スル件及同十六日ニ同第五十八號ハ市町村制規定ノ人口調査告示ノ件ナリ

○大藏省令第三十二號

鐵道國有法第四條ニ依リ政府ノ承繼シタル舊北越鐵道株式會社債ニ關スル規程左ノ通之ヲ定ム  
 明治四十年八月十二日 大藏大臣法學博士阪谷芳郎

第一條 舊北越鐵道株式會社債ニ關シテハ日本銀行本店ヲ以テ取扱店トス但シ無記名債券ニ關スル事務ハ日本銀行支店及出張所ニ於テモ之ヲ取扱フヘシ  
 第二條 國債規則第八條第十三條第一項第十六條乃至第十八條第四十八條乃至第五十一條第五十六條乃至第五十八條第六十一條第六十二條及明治三十九年大藏省令第二十五號ノ規定ハ舊北越鐵道株式會社債ニ之ヲ準用ス  
 國債規則第十六條及第十七條ノ規定ハ無記名債券ニモ之ヲ準用ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○大藏省令第三十三號

明治三十九年十一月十一日大藏省令第四十八號煙草收納所出張所名稱位置中大阪煙草收納所神戸出張所ノ次ニ岩岡出張所兵庫縣明石郡岩岡村ヲ追加シ明治四十年九月一日ヨリ施行ス  
 明治四十年八月十五日 大藏大臣法學博士阪谷芳郎

○大藏省令第三十四號

明治三十五年三月大藏省令第五號島嶼在勤者月手當給與細則中別表ヲ左ノ通改正シ本年十月一日ヨリ施行ス  
 明治四十年八月三十日 大藏大臣法學博士阪谷芳郎

稅務	八圓
技手	八圓
雇員	七圓

○司法省令第二十三號

明治二十六年司法省令第十號登記管轄區域表中左表ノ通改正ス  
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
 明治四十年八月六日 司法大臣松田正久

地方裁判所區裁判所	出張所	國	管	村
		名古屋市ノ内	和泉町	伊勢町
		油田町	入江町	岩井町
		橋詰町	花ノ木町	八軒家町
			針屋町	花岡町
			花岡町	旗籠町
			伊勢町	板屋町
			伊勢町	伊勢町
			伊勢町	伊勢町







愛知郡ノ内	八幡村	下之二色	鳴海町	常盤村	荒子村	小磯村
笠守村	豊明村	呼原町	大字			

○司法省令第二十四號

明治二十六年司法省令第十號登記管轄區域表中左ノ通改正ス  
 明治四十年八月七日  
 司法大臣松田正久

長野地方裁判所ノ部長野區裁判所中津出張所ノ管轄欄中「桑村」ノ次ニ「青木島村」ヲ加フ  
 同地方裁判所ノ部長野區裁判所ノ管轄欄中「青木島村」ヲ削ル

附則

本令ハ明治四十年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

○司法省令第二十五號

金澤地方裁判所管内「小松區裁判所山口出張所」ヲ「小松區裁判所山上出張所」ト「小松區裁判所別宮出張所」ヲ「小松區裁判所鳥越出張所」ト改稱ス  
 本令ハ明治四十年九月一日ヨリ之ヲ施行ス  
 明治四十年八月七日  
 司法大臣松田正久

○司法省令第二十六號

大分地方裁判所管内「中津區裁判所龍王出張所」ヲ「豊前國宇佐郡安心院村」ニ移シ「中津區裁判所安心院出張所」ト改稱ス  
 明治二十六年司法省令第十號登記管轄區域表中左表ノ通改正ス  
 本令ハ明治四十年九月一日ヨリ之ヲ施行ス  
 明治四十年八月二十四日  
 司法大臣松田正久

地方裁判所	區裁判所	出張所	管轄
大分	中津	安心院	宇佐郡ノ内 四日市町 八幡村 郡館村 長洲町 柳ヶ浦村 和同村 宇佐町 高家村 天津村 赤口村 長峯村 横山村 豊川村 西島橋村 康生村 宇佐郡ノ内 安心院村 龍王村 明治村 佐田村 津房村 兩川村

○文部省令第二十四號

明治三十三年文部省令第十四號小學校令施行規則中左ノ通改正ス  
 明治四十年八月一日

第九十九條第一項ヲ左ノ如ク改ム  
 會長ハ府縣ニ在リテハ内務部長タル府縣事務官、北海道ニ在リテハ第二部長タル道廳事務官ヲ以テ之ニ充ツ

〔參照〕

文部省令第十四號小學校令施行規則(明治三十三年八月二十一日)抄録  
 第九十九條 會長ハ第二部長タル府縣事務官ヲ以テ之ニ充ツ

○文部省令第二十五號

明治三十一年勅令第九十二號帝國大學資金並學校及圖書館資金所屬森林原野並產物特別處分規則第一條第八號ニ依リ其ノ所屬森林ノ主產物ヲ隨意契約ニ依リ賣拂フコトヲ得ル木材業者ノ資格左ノ如シ



二箇年以上木材賣買ノ業ヲ營ミ五萬圓以上ノ資産ヲ有スル者若ハ一箇年賣上ケ金高三千五百圓以上ナル者

明治四十年八月九日

文部大臣牧野伸顯

○文部省令第二十六號

明治三十七年文部省令第十二號盛岡高等農林學校規程中左ノ通改正ス

明治四十年八月十二日

文部大臣牧野伸顯

第三條中林學科ノ備考ヲ左ノ如ク改ム

(備考) 行政事務見習ハ第三學期中之ヲ課ス

本令ハ明治四十一年一月一日ヨリ施行ス

○逓信省令第三十二號

明治三十九年六月逓信省令第三十三號帝國鐵道官署現金受拂規則中左ノ通改正シ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年八月五日

逓信大臣山縣伊三郎

第七條中「各債主ノ領收證書」ヲ「當該仕拂命令官ノ仕拂證明書」ニ改ム

〔參照〕

逓信省令第三十三號帝國鐵道官署現金受拂規則(明治三十九年六月三十日)抄錄  
第七條 帝國鐵道事務ノ長官又ハ部長ハ帝國鐵道官署出納官吏ノ取扱ニ係ル資本積定、收積積定並用金所屬積入金、積出金及積入積出外現金ノ受拂高ヲ精算シ毎月一回又ハ數回各會計毎ニ積入金及積出金ノ受拂高ヲ取算シ其ノ積入金ノ受入高ニ對シテハ積出高ヲ定メ積出金ノ積替積高ニ對シテハ仕拂積高又ハ積合仕拂積高ヲ算シ其ノ積合仕拂積高ニ對シテハ各債主ノ領收證書ヲ添附シ主任出納官吏ヲシテ金庫ニ對シ振替計算ヲ以テ之カ受拂フ爲サシムヘシ但シ此ノ積合ニ於テ發スル積合仕拂積高ニハ各債主ノ金額氏名表ヲ添附スルコトヲ要セス  
前項ノ積合ニ於テ要スル積入金振替積高ハ第二號表式ニ依ル

○逓信省令第三十三號

本月二十日ヨリ六錢郵便切手ヲ發行ス其ノ見本ハ郵便局ニ備置カレシ照鑑ヲ要スルモノハ就テ觀ルヘシ

明治四十年八月十日

逓信大臣山縣伊三郎

○逓信省令第三十四號

明治三十三年九月逓信省令第四十二號郵便規則中左ノ通改正シ來九月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年八月十七日

逓信大臣山縣伊三郎

第十四條ノ二 印刷シタル無封ノ書狀ハ其ノ料金を重量十匁又ハ其ノ端數毎ニ金二錢トス運送狀、保險申込書ノ類ニシテ大部分ヲ印刷シタル無封ノ書狀亦同シ

前項ノ郵便物ニ付テハ第十條ノ規定ヲ準用ス

第二十四條ヲ第二十四條ノ二トシ其ノ前ニ左ノ一條ヲ加フ

第二十四條ノ一 第三種郵便物ニ非サル印刷物ニシテ毎月一回以上繼續刊行スルモノハ約東郵便物トシテ差出ストキニ限リ其ノ料金を重量三十匁又ハ其ノ端數毎ニ金一錢トス

第九節ノ一ヲ左ノ通改ム

第九節ノ一 約東郵便

第六十四條ノ一 定期刊行物、書籍及印刷物ハ別ニ定ムル所ニ依リ約東郵便ト爲スコトヲ得

第六十四條ノ二 約東郵便物ハ通知ヲ要セサル留置ト爲スノ外他ノ特殊取扱ト爲スコトヲ得ス

第六十四條ノ三 約東郵便物ニハ引受日附印ノ押捺ヲ省略スルコトアルヘシ

第六十四條ノ四 約東郵便トシテ差出ス郵便物ニハ郵便切手ヲ貼用セス一定ノ期間滿了ノ後通貨ヲ以テ其ノ期間内ニ差出シタル郵便物ノ料金を納付スヘシ



〔參照〕

逓信省令第四十二號郵便規則(明治三十三年九月一日)抄録  
 第十四條之二 印刷シタル無封ノ書狀ハ其ノ料金ヲ十匁又ハ其ノ端數毎ニ金三錢トス  
 前項ノ郵便物ニ付テハ第十條ノ規定ヲ準用ス  
 第九節ノ一 約東郵便  
 第六十四條ノ一 普通郵便ニ依ル定期刊行物及印刷物ニ限リ郵便官署ト特約シテ約東郵便ト爲スコトヲ得  
 約東郵便トシテ差出ス郵便物ハ通知ヲ要セサル留置ト爲スノ外他ノ特殊取扱ト爲スコトヲ得ス  
 約東郵便トシテ差出ス郵便物ニハ別ニ定ムル所ニ依リ約東郵便ノ印章ヲ押捺スヘシ  
 第六十四條ノ二 約東郵便物ニハ引受日附印ノ押捺ヲ省略スルコトアルヘシ  
 第六十四條ノ三 約東郵便トシテ差出ス郵便物ニハ郵便切手ヲ貼用セズ一定ノ期間滿了ノ後逓信省以テ其ノ期間内ニ差出  
 シタル郵便物ノ料金ヲ納付スヘシ

○逓信省令第三十五號

第三種郵便物認可規則左ノ通和定ム

逓信大臣山縣伊三郎

明治四十年八月十七日

第一條 第三種郵便物ヲ認可ヲ受ケムトスル者ハ本規則ノ定ムル所ニ依リ發行地所轄ノ一等郵便局へ願出ツヘシ

第二條 第三種郵便物ト爲スヘキ定期刊行物ハ左ノ條件ヲ具備スルモノニ限ル

一 毎月一回以上逐號定期ニ發行スルコト

二 記載事項ノ性質終期ヲ豫定スヘカラサルコト

三 書籍ノ性質ヲ有セザルコト

四 政事、時事、農事、工事、商事、學術、技藝、統計等公共ノ性質ヲ有スル事項ヲ報道論議スルヲ以テ發行ノ目的ト爲シ且汎ク公衆ニ發賣スルコト

第三條 本規則ニ依ル認可ヲ受ケムトスル定期刊行物ノ發行人ハ左ノ事項ヲ記載シタル願書ニ

見本二部ヲ添へ差出スヘシ

一 題號

二 記載事項ノ種類

三 發行人

四 發行所

五 發行人ノ住所

六 發行ノ定日

第四條 本規則ニ依ル認可ノ效力ハ認可ヲ受ケタル號ヨリ發生スルモノトス

最後發行ノ次ノ定日ヨリ起算シ三十日ヲ過キテ發行セザルトキハ其ノ效力ヲ失フ

第五條 第三種郵便物ノ認可ヲ受ケタル定期刊行物ノ發行人ハ其ノ發行毎ニ先ツ發行地所轄ノ一等郵便局及其ノ指定シタル郵便局ニ見本各一部ヲ差出スヘシ

第六條 第三條第一號乃至第三號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ發行人ヨリ發行地所轄ノ一等郵便局ニ願出テ其ノ許可ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テ發行人ヲ變更セムトスルトキハ新舊發行

人連署スヘシ若舊發行人連署スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ願書ニ證明スヘシ

第三條第四號乃至第六號ノ事項ヲ變更シタルトキ又ハ廢刊休刊、發行禁止ノトキハ其ノ發行人ヨリ三日以内ニ發行地所轄ノ一等郵便局ニ届出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ發行所ヲ他ノ一等郵便局ノ所轄區内ニ移轉セムトスルトキハ認可ヲ受ケタル

一等郵便局ヲ經由シ移轉先ヲ所轄スル一等郵便局ニ願出テ其ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 第三條及前條第一項及第三項ノ出願人ハ左記ノ割合ニ依リ手数料ヲ納ムヘシ

一 新ニ第三種郵便物ノ認可ヲ受ケムトスルトキ又ハ第三條中二事項以上變更ノ認可ヲ受ケム

トスルトキハ金十圓

トスルトキハ金十圓



二 第三條中其ノ一事項ニ對シ變更ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ金五圓  
前項ノ手数料ハ郵便切手ヲ用井願書ニ貼附スヘシ若認可セサルトキハ之ヲ還付ス  
第八條 第三種郵便物ノ認可ヲ受ケタル定期刊行物及其ノ臨時増刊ニシテ左記各號ノ一ニ該當ス  
ルトキハ其ノ認可ヲ取消スヘシ

- 一 第二條各號ノ條件ヲ缺キタルトキ
  - 二 第五條見本ノ差出ヲ怠リタルトキ
  - 三 第六條ノ手續ヲ怠リタルトキ
  - 四 届出ノ事項ト其ノ事實ト相違アルトキ
- 第九條 第四條第二項ニ依リ認可ノ效力ヲ失ヒタルモノ及前條ニ依リ認可ヲ取消サレタルモノ又  
ハ之ヲ繼承シタリト認メタル定期刊行物ニ對シテハ情狀ニ依リ再ヒ認可ヲ與ヘサルコトアルヘ

附則

第十條 本規則ハ明治四十年九月一日ヨリ之ヲ施行ス  
明治三十三年九月逓信省令第七十三號第三種郵便物認可規則ハ本規則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス  
第十一條 從來ノ規定ニ依リ現ニ第三種郵便物ノ認可ヲ受ケタル定期刊行物ニシテ本規則ニ該當  
セシテ發行スルモノハ尙其ノ效力ヲ有ス

○逓信省令第三十六號

約束郵便取扱規則左ノ通相定ム

明治四十年八月十七日

逓信大臣山縣伊三郎

約束郵便取扱規則

第一條 約束郵便ノ取扱ニ關シテハ本規則ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第二條 約束郵便ノ取扱ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申込書ヲ所轄一等郵便局ニ差  
出シ其ノ承認ヲ受クヘシ

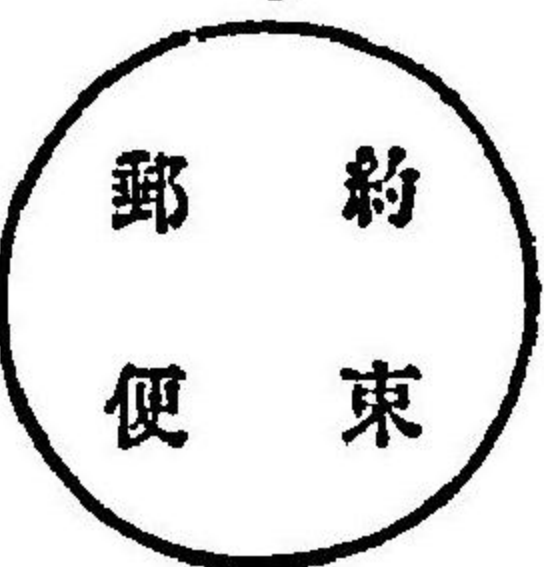
一 題號

- 二 郵便規則第二十四條ノ一ノ適用ヲ受クルモノト否トノ區別
- 三 差出回数(定期日アルモノハ定)或毎回ノ差出簡數(料金ヲ與ニス)ノ概算高
- 四 差出郵便局所名
- 五 申込人ノ住所氏名

第三條 本規則ニ依リ約束郵便ノ承認ヲ受ケタル後前條各號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ豫メ  
其ノ旨ヲ所轄一等郵便局ニ届出ツヘシ

第四條 約束郵便物ハ特殊ノ包装ヲ要スルモノノ外強質ナル白色ノ日本紙ヲ以テ包装シ帶紙ヲ用  
ウルトキハ其ノ幅二寸五分以上トシ宛所ハ成ルヘク明瞭ニ縦書スヘシ  
第五條 約束郵便物ハ差出人ニ於テ左記離形ノ印章ヲ其ノ表面ニ押捺スヘシ

直徑八分乃至一寸



第六條 約束郵便物ハ料金ヲ異ニスルモノ毎ニ區別シ其ノ簡數ヲ記載シタル郵送簿ニ依リ之ヲ郵  
便局ニ差出スヘシ但シ郵便局ニ於テ必要アリト認メタルトキハ其ノ差出場所ヲ指定スルコトアルヘシ  
第七條 引受郵便局ハ差出人ヲシテ約束郵便物發送上必要ナル區域毎ニ之ヲ結束シテ差出サレム  
ルコトアルヘシ



第八條 約束郵便物ノ差出人ハ先ツ後納郵送料ノ擔保トシテ所轄一等郵便局長ノ指示ニ依リ現金  
又ハ有價證券ヲ提供シ置クヘシ但シ差出人官廳ナルトキハ此ノ限ニアラス

第九條 約束郵便物郵送料ノ納付方ハ所轄一等郵便局長ノ指示ニ依ルヘシ

第十條 差出人約束郵便取扱ノ請求ヲ取消サントスルトキハ其ノ旨所轄一等郵便局長ニ届出ツヘシ

第十一條 約束郵便物ノ差出人第七條又ハ第九條ノ指示ニ從ハサルトキハ約束郵便ノ承認ヲ取消  
シ郵便物ノ發送ヲ停止スヘシ

第十二條 郵便規則第三十四條ノ一ノ適用ヲ受クヘキ約束郵便物ニシテ三箇月以上引續キ差出サ  
サルトキハ約束郵便ノ承認ヲ取消スヘシ

第十三條 前二條ニ依リ約束郵便ノ承認ヲ取消シタルモノニ對シテハ其ノ情狀ニ依リ再ヒ約束郵  
便ノ承認ヲ與ヘサルコトアルヘシ

第十四條 第十條乃至第十二條ニ依リ約束郵便ノ取扱ヲ取消シタルトキハ第八條ニ依ル擔保物件  
ハ之ヲ差出人ニ還付スヘシ此ノ場合ニ於テ差出人未納ノ料金を納付セサルトキハ擔保金(若シテ  
ホシタルモノナルトキハ之ヲ賣却シ其ノ金額ヨリ賣却費用ヲ引去リタル後)ヲ以テ不納料金を充テ過剩額ハ之ヲ還付シ不足額ハ之ヲ  
追徴スヘシ

第十五條 本規則ハ明治四十年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十六條 本規則施行前ヨリ郵便官署トノ締約ニ依リ約束郵便ノ取扱ヲ受クルモノハ明治四十年  
九月三十日迄同締約ニ據ルコトヲ得

○逓信省令第三十七號

明治三十五年ハ逓信省令第三十六號電氣事業取締規則中左ノ通改メ本日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年八月二十一日

逓信大臣山縣伊三郎

附則

第八十八條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第八十八條ノ二 同一ノ家屋其ノ他ノ建造物ニハ二箇以上ノ電氣事業者ヨリ電氣ヲ供給スルコト  
ヲ得ス但シ地方長官ノ認可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ニ依リ認可ヲ申請スル場合ニ於テハ第二十三條第一項ノ規定ヲ準用ス

第百二十二條第四號中第八十八條ノ下ニ第八十八條ノ二ノ七字ヲ加フ

○逓信省令第三十八號

豫約新聞電話規則左ノ通相定ム

明治四十年八月二十四日

逓信大臣山縣伊三郎

豫約新聞電話規則

第一條 新聞社又ハ新聞通信社相互間ニ於テ其ノ加入ノ電話機ニ依リ一箇年ヲ通シ毎日一定ノ時  
間ニ二通話時以上長距離電話通話ヲ爲サントスルトキハ本令ノ定ムル所ニ依リ豫約通話ノ申請  
ヲ爲スコトヲ得

第二條 豫約通話ヲ認可スルハ電話回線其ノ他ノ設備上支障ナキ場合ニ限ル

第三條 豫約通話ノ認可ヲ受ケムトスル加入者ハ左記各號ノ事項ヲ記載シタル申請書ニ雙方連署  
シ第五號該當ノ加入者ヨリ所轄一等郵便局長ヲ經テ逓信大臣ニ之ヲ差出スヘシ

一 豫約希望通話區間

二 豫約通話ニ使用スヘキ電話ノ各番號

三 豫約希望通話時數

四 豫約希望通話時間

五 料金納付ノ責任者

第四條 豫約通話ヲ認可スルトキハ豫約通話時數及豫約通話時間ヲ指定シ所轄一等郵便局長ヲレ



テ前條ノ申請書ヲ差出シタル加入者以下單ニ申ニ之ヲ通知セシム

第五條 豫約者豫約通話時數又ハ豫約通話時間ノ變更ヲ望ムトキハ第三條ノ例ニ依リ申請書ヲ差出スヘシ但シ第十二條各期ノ中途ニ於テ豫約通話時數ヲ變更スルコトヲ得ス

前項豫約通話時數變更ノ申請書ハ各期末日ノ十五日前ニ提出スルコトヲ要ス

第六條 豫約通話認可後電話回線其ノ他ノ設備上必要ヲ生スルトキハ豫約通話ノ認可ヲ取消シ又ハ豫約通話時數若ハ豫約通話時間ヲ變更スルコトアルヘシ

第七條 豫約通話時數一日五通話時以上ノ豫約者ニ對シテハ特ニ無料ヲ以テ豫約通話専用ノ電話機ヲ裝置スルコトアルヘシ

第八條 豫約者ハ毎豫約通話時間ノ凡五分前ニ通話ノ準備ヲ爲シ交換手ヨリ信號アルトキハ直ニ之ニ應答スヘシ

第九條 豫約通話時數ハ雙方加入者ヲ接続シタルトキヨリ起算ス

豫約者交換手ノ信號ニ應答セサル場合ト雖前項ノ起算點ヲ變更セス

第十條 豫約者ハ毎回豫約通話時數ヲ超ヘ通話スルコトヲ得ス

第十一條 豫約電話料ハ豫約通話時數ニ應シテ年額ヲ以テ之ヲ課ス

一通話時ノ豫約電話料ハ普通一通話時電話料ノ三百六十倍トス

第十二條 豫約電話料ハ年額ヲ四分シ左ノ期別ニ從ヒ毎期分ヲ共ノ期ノ初十日以内ニ之ヲ當該郵便局ニ納ムヘシ但シ豫約通話ノ開始カ一期ノ中途ナルトキハ共ノ期分ハ年額ノ日割ヲ以テ計算

第一期 四月一日ヨリ六月三十日迄

第二期 七月一日ヨリ九月三十日迄

第三期 十月一日ヨリ十二月三十一日迄

第四期 一月一日ヨリ三月三十一日迄

第十三條 電話線不通其ノ他豫約者ノ過失又ハ故意ニ依ラサル支障ノ爲通話不能ナルコト繼續シテ一通話時以上ニ及フトキハ共ノ通話時數ニ相當スル豫約電話料ハ納付者ノ請求ニ依リ年額ノ日割ヲ以テ之ヲ還付ス

前項ノ請求ハ事故發生ノ日ヨリ六十日以内ニ當該郵便局ニ之ヲ爲スヘシ

第十四條 第十二條各期ノ中途ニ於テ第六條ニ依リ豫約通話ノ認可ヲ取消シ又ハ豫約通話時數ヲ減少スルニ至リタルトキハ豫約電話料ハ年額ノ日割ヲ以テ計算シ前條ノ例ニ依リ過超額ヲ還付ス

第十五條 第五條ノ申請ニ依リ豫約通話時數ノ減少ヲ認可セタル場合ト雖開始後一箇年以内ハ豫約電話料ヲ減額セス

第十六條 第十二條各期ノ中途ニ於テ左記各號ニ該當セタル場合ト雖共ノ期分ノ豫約電話料ハ之ヲ減額セス

一 豫約通話ヲ廢止シ又ハ第十八條ニ依リ豫約通話ノ認可ヲ取消シタルトキ

二 豫約者ノ一方カ加入ヲ取消シ又ハ加入ヨリ除名サレタルトキ

第十七條 豫約者豫約通話ヲ廢止セムトスルトキハ雙方連署シ申請者ヨリ所轄一等郵便局ヲ經テ共ノ旨ヲ逓信大臣ニ届出ツヘシ但シ第十二條各期ノ末日十五日前ニ届出ヲ爲ササルトキハ次期ノ豫約ヲ繼續スルモノト看做ス

第十八條 料金納付ノ責任者第十二條ノ期日迄ニ豫約電話料ヲ納付セサルトキハ共ノ滞納ノ期間豫約通話ヲ停止ス

前項ニ依ル豫約通話ノ停止度數一箇年二回以上ニ及ヒタルトキ又ハ共ノ停止期間三十日以上ニ

豫約通話ヲ停止ス



及ヒタルトキハ豫約通話ノ認可ヲ取消スコトアルヘシ

第十九條 豫約通話ヲ廢止シ又ハ前條ニ依リ豫約通話ノ認可ヲ取消シタル場合ニ於テ既納ノ豫約電話料カ開始當時ノ豫約通話時數ニ對スル年額ニ滿タサルトキハ其ノ不足額ヲ一時ニ徵收ス若シ開始後豫約通話時數ニ増減アリタルトキハ第十五條ニ依ル場合ノ外之ニ對スル豫約電話料ハ年額ノ日割ヲ以テ加除ス

附則

第二十條 本令ハ明治四十年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

○大藏省令第三十五號

明治三十二年五月大藏省令第十八號中船舶購買ニ關スル競争者ノ資格左ノ通改正ス

明治四十年九月十一日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

- 一 二年以來引續キ直接國稅五圓以上ヲ納ムル者又ハ資本金貳萬圓以上(株式會社ニ付テハ資本拂込金額)ヲ有スル拂込金額)ヲ有スル會社
- 二 總噸數貳拾噸以上ノ蒸汽船ヲ製造スルニ適當ナル工場ヲ有スル者
- 三 總噸數貳拾噸以上ノ蒸汽船體及付屬機關ヲ製造シタル經驗ヲ有スル者
- 四 二年以來造船及機械專門ノ技術者ヲシテ其業務ヲ擔當セシメ居ル者

〔參照〕

大藏省令第十八號(明治三十二年五月四日)抄録

船舶購買ニ關スル競争ニ加ハラントスル者ハ左ノ資格ヲ要ス

一 二年以來引續キ直接國稅貳拾五圓以上ヲ納ムル者又ハ資本金拾萬圓以上(株式會社ニ付テハ資本拂込金額)ヲ有スル會社

二 總噸數三百噸以上ノ蒸汽船ヲ製造スルニ適當ナル工場ヲ有スル者

三 總噸數三百噸以上ノ蒸汽船體及付屬機關ヲ製造シタル經驗アル者

四 帝國大學ニ於テ造船學科ヲ卒業シタル者若クハ之ト同等以上ノ學識ヲ有スル技術者ヲ聘用セル者

○大藏省令第三十六號

鐵道國有法第四條ニ依リ 政府ノ承繼シタル 舊總武鐵道株式會社社債 舊房總鐵道株式會社社債 舊七尾鐵道株式會社社債及舊德島鐵道株式會社社債ニ關スル規程左ノ通之ヲ定ム

明治四十年九月十八日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

第一條 舊總武鐵道株式會社社債、舊房總鐵道株式會社社債、舊七尾鐵道株式會社社債及舊德島鐵道株式會社社債ニ關シテハ日本銀行本店、支店及出張所ヲ以テ取扱店トス



第二條 舊鐵道株式會社債券及舊德島鐵道株式會社債券又ハ其ノ利札ノ滅失又ハ紛失ニ因リ代債券ノ交付又ハ元金ノ償還若ハ利子ノ仕拂ヲ受ケントスル者ハ國債規則第十七條又ハ第六十二條ノ規定ニ準シタル請求書ニ除權判決ノ正本又ハ謄本ヲ添ヘ之ヲ取扱店ニ提出スヘシ  
 國債規則第十七條及第六十二條ノ規定ハ舊房總鐵道株式會社債券及舊七尾鐵道株式會社債券ニ之ヲ準用ス

第三條 國債規則第八條第十八條第四十八條乃至第五十一條第五十四條第五十六條乃至第五十八條及明治三十九年大藏省令第二十五號ノ規定ハ前條ノ各舊社債ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○大藏省令第三十七號

專賣局官制第十六條、第十七條ニ依リ專賣局收納所管轄區域及專賣局收納所出張所專賣局製造所分工場名稱位置左ノ通り之ヲ定ム

本令ハ明治四十年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

大藏大臣法學博士男齋阪谷芳郎

明治四十年九月二十六日

專賣局收納所管轄區域表

收納所名	管轄區域
專賣局東京收納所	東京府 千葉縣 埼玉縣 群馬縣 山梨縣 神奈川縣
專賣局水戸收納所	茨城縣 栃木縣 群馬縣 石城郡(三反竹)
專賣局茂木收納所	茨城縣 那珂郡鹿沼村
專賣局三春收納所	秋田縣 山形縣 福島縣 若松市 福島市 信夫郡 伊達郡 安達郡 石川郡 大沼郡 東白川郡 西白河郡 石川郡 三反竹
專賣局仙臺收納所	宮城縣 岩手縣 青森縣 福島縣 相馬郡
專賣局函館收納所	北海道
專賣局小川倉收納所	新潟縣 長野縣(下ノ庄)
專賣局奈野收納所	神奈川縣(藤澤市八景町三丁目) 靜岡縣(藤澤市八景町三丁目) 田方郡 賀茂郡 駿東郡 富士郡



專賣局名古原收納所	受知縣 岐阜縣 三重縣 靜岡縣(西力口町及掛川市) 長野縣 下伊那郡
專賣局金澤收納所	福井縣 石川縣 富山縣
專賣局大阪收納所	福井縣、佐賀縣、長崎縣、熊本縣、大分縣、宮崎縣、鹿兒島縣、沖繩縣ヲ除キタル各府縣及北海道
專賣局赤穂收納所	兵庫縣 姫路市 甲南郡 飾磨郡 揖保郡 赤穂郡 岡山縣 和氣郡
專賣局味野野收納所	岡山縣 邑久郡 兒島郡 淺口郡 小田郡 笠岡町、金浦町、城見村、陶山村、大江村、稻倉村、大井村、吉田村、新山村、今井村、神島内村、神島外村、北木島村、真鍋島村 廣島縣 深安郡 香川縣 香川郡直島村ノ内牛首、屏風
專賣局高梁收納所	鳥取縣 岡山縣(新見郡、津和野郡、倉敷郡、小田郡、笠岡町、金浦町、城見村、陶山村、大江村、稻倉村、大井村、吉田村、新山村、今井村、神島内村、神島外村、北木島村、真鍋島村)

專賣局府中收納所	廣島縣 廣品郡 神石郡 甲奴郡 世羅郡 斐三郡 比婆郡 御調郡下川邊村、猪田村
專賣局尾道收納所	廣島縣(阿賀郡、尾道郡、石川郡、下川邊村、御調郡、猪田村、比婆郡、御調郡、下川邊村、猪田村、比婆郡、御調郡、下川邊村、猪田村) 愛媛縣 越智郡岩城村、生名村、弓削村
專賣局三田尻收納所	山口縣
專賣局阪出收納所	香川縣(香川郡、直島郡、三田尻郡) 愛媛縣(比婆郡、御調郡、下川邊村、猪田村、比婆郡、御調郡、下川邊村、猪田村)
專賣局撫養收納所	德島縣 高知縣
專賣局池田收納所	德島縣 高知縣 香川縣(香川郡、直島郡、三田尻郡) 愛媛縣(比婆郡、御調郡、下川邊村、猪田村、比婆郡、御調郡、下川邊村、猪田村)
專賣局熊本收納所	熊本縣 大分縣 長崎縣 佐賀縣 福岡縣
專賣局鹿兒島收納所	鹿兒島縣 宮崎縣(宮崎郡、西臼杵郡)







專賣局名古屋收納所	專賣局茶野收納所	專賣局小出賣收納所	專賣局函館收納所	
小田出張所 半田出張所 吉田出張所 鹽津出張所 蒲郡出張所 豐橋出張所 濱松出張所 兄付出張所 靜波出張所 富士出張所	伊勢原出張所 松田出張所 富士出張所	池田出張所 生田出張所 阪北出張所 和川出張所 關原出張所 赤塚出張所 新瀉出張所	小樽出張所 釧路出張所	宮古出張所 久慈出張所 三戸出張所 青森出張所
濱内路出張所	神奈川縣中野伊勢原町 神奈川縣足柄上郡松田村 靜岡縣富士郡大宮町 靜岡縣榛原郡川崎町 靜岡縣磐田郡兄付町 靜岡縣濱名郡淺井村 愛知縣豐橋市 愛知縣寶飯郡蒲郡町 愛知縣寶飯郡鹽津村 愛知縣幡豆郡吉田村 愛知縣幡豆郡半田町 愛知縣東春日井郡小牧町 長野縣下伊那郡濱内路村	神奈川縣新瀉市 新瀉縣西蒲原郡赤塚村 新潟縣三島郡關原村 新潟縣佐渡郡相川町 長野縣東筑摩郡辰北村 長野縣東筑摩郡生田村 長野縣北安曇郡池田町村 長野縣松本市	北海道小樽區 北海道釧路郡釧路町	巖手縣下閉伊郡宮古町 巖手縣九戸郡久慈町 青森縣三戸郡三戸町 青森縣青森市

專賣局大坂收納所	專賣局金澤收納所	
大坂出張所 白壁出張所	三日月出張所 岩岡出張所 神戶出張所 福田出張所 紀三井寺出張所 田邊出張所 大津出張所 高田出張所 松山出張所 中洲出張所 八日市出張所	東區部出張所 山田出張所 神社出張所 愛木出張所 大久保出張所 飯田出張所 大谷出張所 宇津出張所 輪島出張所 羽咋出張所 越前出張所 勝山出張所 敦賀出張所 三方出張所
兵庫縣印南郡大磯村 兵庫縣飾磨郡白濱村	滋賀縣神前郡八日市町 滋賀縣野洲郡中洲村 奈良縣宇陀郡松山町 奈良縣北葛城郡高田町 奈良縣吉野郡大淀村 和歌山縣西牟婁郡田邊町 和歌山縣海南郡紀三井寺村 大阪府北區東區西區 兵庫縣明石郡岩岡村 兵庫縣佐用郡三日月村 兵庫縣赤上郡成松村	三重縣多氣郡東區部村 三重縣宇治山田市 三重縣度會郡神社町 富山縣下新川郡愛木村 富山縣上新川郡大久保村 石川縣珠洲郡飯田町 石川縣珠洲郡大谷村 石川縣鳳至郡宇津町 石川縣鳳至郡輪島町 石川縣羽咋郡羽咋町 石川縣石川郡越前町 福井縣大野郡勝山町 福井縣敦賀郡敦賀町 福井縣三力郡八村



專賣局赤穂收納所	專賣局秋野收納所	專賣局高梁收納所	專賣局府中收納所	專賣局尾道收納所
新千出級所	山田出級所	加茂出級所	油木出級所	松永出級所
兵庫縣保保郡新千町	岡山縣久野郡牛久野町	岡山縣津島郡加茂村	廣島縣石井郡油木村	廣島縣沼田郡松永町
新千出級所	山田出級所	加茂出級所	油木出級所	松永出級所
兵庫縣保保郡新千町	岡山縣久野郡牛久野町	岡山縣津島郡加茂村	廣島縣石井郡油木村	廣島縣沼田郡松永町

專賣局三田尻收納所	專賣局西出收納所	專賣局撫後收納所
小松出級所	宇多津出級所	德島出級所
山口縣大島郡小松志佐村	香川縣綾歌郡宇多津町	德島縣那賀郡見能林村
新千出級所	宇多津出級所	德島出級所
山口縣大島郡小松志佐村	香川縣綾歌郡宇多津町	德島縣那賀郡見能林村



專賣局池田收納所	
木屋平出張所 貞光出張所 一字出張所 東祖谷山出張所 三野出張所 山城谷出張所 西野出張所 西野永出張所 東野永出張所 安原出張所 琴平出張所 新立出張所 三島出張所 來見出張所 松山出張所 廣田出張所 大洲出張所	德島縣麻植郡木屋平村 德島縣美馬郡貞光村 德島縣美馬郡一字村 德島縣美馬郡東祖谷山村 德島縣三好郡三野村 德島縣三好郡山城谷村 德島縣三好郡西野村 高知縣長岡郡西野永村 高知縣長岡郡東野永村 香川縣香川郡安原村 香川縣仲多度郡琴平村 愛媛縣宇摩郡新立村 愛媛縣宇摩郡三島村 愛媛縣西條郡中川村 愛媛縣松山市 愛媛縣伊予郡廣田村 愛媛縣喜多郡大洲町
人吉出張所 文政出張所 町山出張所 柳山出張所 高森出張所 波野出張所 大津出張所 廣赤出張所 島原出張所 南串山出張所 長崎出張所	熊本縣球磨郡人吉町 熊本縣八代郡文政村 熊本縣天草郡本渡町 熊本縣天草郡中村 熊本縣阿蘇郡高森町 熊本縣阿蘇郡波野村 熊本縣菊池郡大津町 熊本縣玉名郡廣赤村 長崎縣南高來郡島原町 長崎縣南高來郡南串山村 長崎縣長崎市

專賣局熊本收納所	
喜津出張所 早岐出張所 佐々出張所 御厨出張所 伊萬里出張所 南鹿島出張所 前原出張所 福岡出張所 津屋崎出張所 小波瀨出張所 志波出張所 豆田出張所 和田出張所 和野出張所 高田出張所 姪島出張所 杵築出張所 東大分出張所 白杵出張所 佐伯出張所 三重出張所 犬飼出張所 今市出張所 竹田出張所 高千穂出張所	長崎縣西彼杵郡喜津村 長崎縣東彼杵郡早岐村 長崎縣北松浦郡佐々村 長崎縣北松浦郡御厨村 長崎縣西松浦郡伊萬里町 佐賀縣藤津郡南鹿島村 福岡縣米島郡前原町 福岡縣福岡市 福岡縣宗像郡津屋崎町 福岡縣京町郡小波瀨村 福岡縣朝倉郡志波村 大分縣日田郡豆田町 大分縣下毛郡和田村 大分縣西國東郡高田町 大分縣東國東郡姪島村 大分縣速見郡杵築町 大分縣大分郡東大分村 大分縣北海部郡白杵町 大分縣南海部郡佐伯町 大分縣大野郡三重町 大分縣大野郡犬飼町 大分縣大野郡今市村 大分縣直入郡竹田村 宮崎縣西臼杵郡高千穂村
延岡出張所 高鍋出張所 宮崎北出張所 宮崎南出張所	宮崎縣東臼杵郡延岡村 宮崎縣兒湯郡高鍋町 宮崎縣兒湯郡下穂北村 宮崎縣宮崎郡宮崎町 宮崎縣南郡宮崎島村



專賣局製造所分工場名稱位置	
製造所名	位置
專賣局東京第三製造所	茨城縣鹿島郡若井町 山梨縣中巨摩郡飯野村 神奈川縣橫濱市
專賣局高崎製造所	長野縣松本市 長野縣北安曇郡池田町 長野縣八重山郡大渡郡切野野城村
專賣局鹿兒島收納所	鹿兒島縣志布志町 鹿兒島縣肝煎郡小根占村 鹿兒島縣肝煎郡垂水村 鹿兒島縣給良郡國分村 鹿兒島縣給良郡加治木村 鹿兒島縣指宿郡指宿村 鹿兒島縣指宿郡指宿村 鹿兒島縣川邊郡加世田村 鹿兒島縣日置郡西市來村 鹿兒島縣薩摩郡東水引村 鹿兒島縣薩摩郡山崎村 鹿兒島縣出水郡上出水村 鹿兒島縣出水郡北種子村 鹿兒島縣大島郡金久村 熊本縣安北郡水俣村 沖繩縣國頭郡名護郡切大兼久村 沖繩縣那霸郡 沖繩縣宮古郡砂川町 沖繩縣八重山郡大渡郡切野野城村

專賣局製造所分工場名稱位置	
製造所名	位置
專賣局水戸製造所	太田分工場 茨城縣久慈郡太田町 茨城縣那珂郡浪江町
專賣局宇都宮製造所	烏山分工場 栃木縣那須郡烏山町 栃木縣那須郡馬頭町 栃木縣那須郡大田原町
專賣局郡山製造所	須賀川分工場 福島縣須賀郡須賀川町 福島縣田代郡三春町 福島縣若狹郡須賀川町
專賣局仙臺製造所	一園分工場 岩手縣西磐井郡一園町 岩手縣神宮郡大迫町 岩手縣陸奥郡野川村 青森縣三戸郡三戸町
專賣局山形製造所	米澤分工場 山形縣米澤市 山形縣北村山郡東根町 秋田縣平鹿郡野田町 秋田縣秋田市
專賣局關原製造所	新發田分工場 新潟縣新潟市 新潟縣新潟市 新潟縣中城郡新井町
專賣局泰野製造所	宮士分工場 靜岡縣濱名郡濱松町 靜岡縣濱名郡濱松町
專賣局見付製造所	豐橋分工場 愛知縣額田郡岡崎町 岐阜縣岐阜市 三重縣四日市市 三重縣飯南郡松岡町 三重縣宇治山田市
專賣局名古屋製造所	山崎分工場 岐阜縣岐阜市 三重縣四日市市 三重縣飯南郡松岡町 三重縣宇治山田市

專賣局製造所分工場名稱位置	
製造所名	位置
專賣局水戸製造所	太田分工場 茨城縣久慈郡太田町 茨城縣那珂郡浪江町
專賣局宇都宮製造所	烏山分工場 栃木縣那須郡烏山町 栃木縣那須郡馬頭町 栃木縣那須郡大田原町
專賣局郡山製造所	須賀川分工場 福島縣須賀郡須賀川町 福島縣田代郡三春町 福島縣若狹郡須賀川町
專賣局仙臺製造所	一園分工場 岩手縣西磐井郡一園町 岩手縣神宮郡大迫町 岩手縣陸奥郡野川村 青森縣三戸郡三戸町
專賣局山形製造所	米澤分工場 山形縣米澤市 山形縣北村山郡東根町 秋田縣平鹿郡野田町 秋田縣秋田市
專賣局關原製造所	新發田分工場 新潟縣新潟市 新潟縣新潟市 新潟縣中城郡新井町
專賣局泰野製造所	宮士分工場 靜岡縣濱名郡濱松町 靜岡縣濱名郡濱松町
專賣局見付製造所	豐橋分工場 愛知縣額田郡岡崎町 岐阜縣岐阜市 三重縣四日市市 三重縣飯南郡松岡町 三重縣宇治山田市
專賣局名古屋製造所	山崎分工場 岐阜縣岐阜市 三重縣四日市市 三重縣飯南郡松岡町 三重縣宇治山田市